

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局(43) 国際公開日
2000年12月21日 (21.12.2000)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 00/76957 A1(51) 国際特許分類⁷: C07C 217/10, 233/69, C07D 215/14, 307/79, 317/54, 319/18, 277/64, 333/54, 333/62, 333/70, 409/04, 311/04, 235/06, 241/42, A61K 31/47, 31/343, 31/36, 31/357, 31/428, 31/381, 31/4436, 31/352, 31/4184, 31/498, 31/135, A61P 25/28, 25/16, 25/14, 11/16

登 (IWAKAMI, Noboru) [JP/JP]; 〒933-0847 富山県高岡市千石町3-20 Toyama (JP). 中川昌也 (NAKAGAWA, Masaya) [JP/JP]; 〒930-0386 富山県中新川郡上市町中青出67 Toyama (JP). 山口澄絵 (YAMAGUCHI, Sumie) [JP/JP]; 〒930-0817 富山県富山市下奥井1丁目6-27 Toyama (JP).

(21) 国際出願番号: PCT/JP00/03748

(22) 国際出願日: 2000年6月9日 (09.06.2000)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願平11/165879 1999年6月11日 (11.06.1999) JP

(81) 指定国(国内): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, CA, CH, CN, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NO, NZ, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VN, YU, ZA, ZW.

(84) 指定国(広域): ARIPO 特許 (GH, GM, KE, LS, MW, MZ, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE), OAPI 特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:
— 國際調査報告書

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

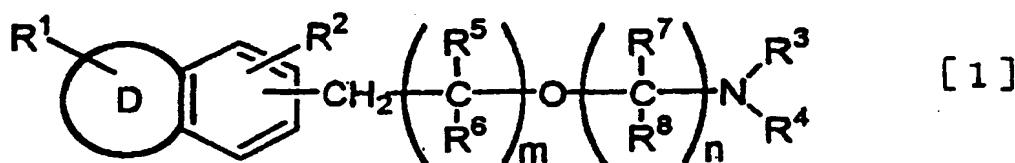
(71) 出願人(米国を除く全ての指定国について): 富山化学工業株式会社 (TOYAMA CHEMICAL CO., LTD.) [JP/JP]; 〒160-0023 東京都新宿区西新宿3丁目2-5 Tokyo (JP).

(72) 発明者; および

(75) 発明者/出願人(米国についてのみ): 小野 哲 (ONO, Satoshi) [JP/JP]; 〒930-0801 富山県富山市中島3丁目2-5 Toyama (JP). 斎藤昭人 (SAITO, Akihito) [JP/JP]; 〒931-8324 富山県富山市豊城町6-12 Toyama (JP). 岩上

(54) Title: N-ALKOXYALKYL-N,N-DIALKYLAMINE DERIVATIVES OR SALTS THEREOF, AND REMEDIES FOR NERVE DEGENERATION DISEASES CONTAINING THE SAME

(54) 発明の名称: N-アルコキシアルキル-N,N-ジアルキルアミン誘導体またはその塩、それらを含有する神経変性疾患の治療剤

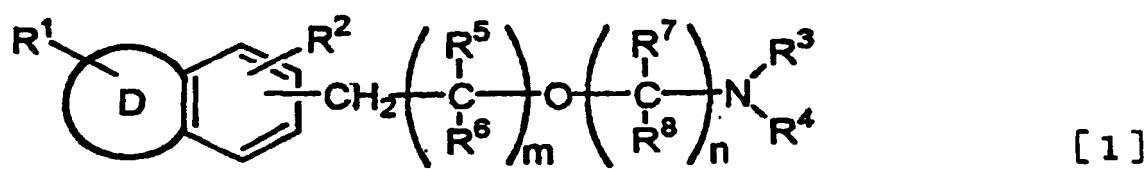
(57) Abstract: N-Alkoxyalkyl-N,N-dialkylamine derivatives of general formula [1] or salts thereof, which exhibit antihypoxic, nerve protecting and nerve regeneration promoting effects and are useful as remedies for nerve degeneration diseases, wherein R¹ and R² are each hydrogen, halogeno, or the like; R³ and R⁴ are each optionally substituted alkyl, cycloalkyl, or aralkyl; R⁵, R⁶, R⁷ and R⁸ are each hydrogen or alkyl; D is a five- or six-membered heterocycle or a hydrocarbon ring; m is 1 to 5; and n is 1 to 6.

[続葉有]



(57) 要約:

一般式[1]



[式中、R¹及びR²は水素原子、ハロゲン原子等を、R³及びR⁴は置換されてもいいアルキル、シクロアルキルもしくはアルアルキル基を、R⁵、R⁶、R⁷、R⁸は水素原子もしくはアルキル基を、D環は、5又は6員環の複素環又は炭化水素環を、m=1~5、n=1~6を表す。]で表されるN—アルコキシアルキル—N、N—ジアルキルアミン誘導体又はその塩は、抗ハイポキシア作用、神経保護作用及び神経再生促進作用を有し、神経変性疾患の治療剤として有用である。

明細書

N-アルコキシアルキル-N,N-ジアルキルアミン誘導体またはその塩、それらを含有する神経変性疾患の治療剤

技術分野

5 本発明は、新規なN-アルコキシアルキル-N,N-ジアルキルアミン誘導体またはその塩に関する。

技術背景

痴呆は、脳血管性痴呆と神経変性性痴呆に分けられ、それらの治療には、脳循環改善剤および脳機能改善剤などの各種薬剤が使用されている。

10 特開平3-232830号、同4-95070号公報に記載の1,2-エタンジオール誘導体またはその塩は、脳機能改善剤として有用な化合物であり、特に、(R)-1-(ベンゾ[b]チオフェン-5-イル)-2-[2-(N,N-ジエチルアミノ)エトキシ]エタノール塩酸塩(以下、T-588と称する。)は好ましい化合物である。

ところで、神経変性性痴呆の中で最も多いアルツハイマー病(以下、ADと称す
15 る。)に特徴的な老人斑は、 β アミロイド前駆蛋白質(β amyloid precursor protein)に由来するアミロイド β 蛋白(以下、 $A\beta$ と称する。)を主成分とする[バイオケミカル・アンド・バイオフィジカル・リサーチ・コミュニケーションズ(Biochemical and Biophysical Research Communications)、第120巻、第885頁(1984年)]。

20 $A\beta$ は、脳の神経細胞あるいは血管に沈着し痴呆などの症状を引き起こす原因物質とされている[アニュアル・レビュー・オブ・セルバイオロジー(Annual Review of Cell Biology)、第10巻、第373頁(1994年)]。

また、 $A\beta$ そのものが培養神経細胞のアポトーシス(細胞体積の収縮、DNAの断片化を特徴とする遺伝子発現を介した細胞死)を引き起こすことが報告され
25 ている[ブレイン・リサーチ(Brain Research)、第661巻、第147頁(1994年)；モレキュラー・ニューロバイオロジー(Molecular Neurobiology)、第10巻、第19頁(1995年)]。

一方、AD患者脳で4-ヒドロキシ-2-ノネナール(以下、HNEと称する。)の

上昇が報告されており [アメリカン・ジャーナル・オブ・パционロジー (American Journal of Pathology)、第 150 卷、第 437 頁 (1997 年)]、 $A\beta$ による培養神経細胞死においても、脂質過酸化を介し HNE が関与しているとする報告がある [ザ・ジャーナル・オブ・ニューロサイエンス (The Journal of Neuroscience)、5 第 17 卷、第 1046 頁 (1997 年)]。

また、HNE を培養神経細胞に作用させると細胞死が引き起こされ、この細胞死にアポトーシスが関与することも報告されている [ザ・ジャーナル・オブ・ニューロサイエンス (The Journal of Neuroscience)、第 17 卷、第 5089 頁 (1997 年)]。

さらに、HNE は種々の神経変性疾患において酸化ストレスにより產生され、10 脳および脊髄で神経細胞に障害を及ぼしている可能性も示唆されている。例えば、パーキンソン病患者脳 [Proceedings of The National Academy of Sciences of The United States of America)、第 93 卷、第 2696 頁 (1996 年)]、筋萎縮性側索硬化症患者脊髄 [ナルス・オブ・ニューロロジー (Annals of Neurology)、第 44 卷、第 696 頁 (1998 年)] 15] で HNE の上昇が報告されている。

そのため、 $A\beta$ および HNE により誘起される神経細胞毒性抑制剤がアルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患の治療剤として研究されている。

ところで、生体中には神経の成長、再生に作用する神経成長因子 (NGF) などの神経栄養因子 (neurotrophic factor) が存在する事が良く知られている。

神経栄養因子は、アルツハイマー病などの中枢性疾患のみならず、糖尿病性ニューロパシーや、薬剤性ニューロパシーなどの末梢神経疾患における関与が報告されており、これらの疾患の治療に用いる試みがなされている [脳と神経、25 第 43 卷、第 12 号、第 1101 頁 (1991 年)]。

また、坐骨神経圧迫モデル動物における神経伝達障害を、NGF が神経の再生を促進する事により改善する事が報告されている (マイクロサージェリー (Microsurgery)、第 16 卷、第 547 頁 (1995 年)]。しかし、神経栄養因子は高分

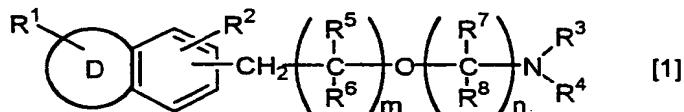
子の蛋白質であるため、神経疾患への適応にはまだ技術的に解決する問題が多い。

そのため、神経栄養因子と同様の作用を有する低分子化合物の開発が求められている。

脳機能改善剤として有用な化合物であるT-588は、 $\text{A}\beta$ による神経細胞死
5 に対し保護作用を示し[ソサエティー・フォー・ニューロサイエンス アブストラクト (Society For Neuroscience, Abstracts)、第24巻、第1号、228頁(1998年)]、
さらにNGFの作用増強作用 (W096/12717) を有し、中枢および末梢神経の疾病的治療剤として有用である。しかし、抗ハイポキシア作用を有し、さらに強い神経細胞保護作用および神経再生促進作用を有する低分子化合物が求められている。
10

発明の開示

本発明者らは、上記課題を解決することを目的として鋭意研究を行った結果、下記の一般式[1]



「式中、 R^1 および R^2 は、同一または異なって、水素原子、ハロゲン原子、置換されていてもよいアルキル、アリール、アルアルキル、アルコキシ、アリールオキシ、アルキルチオ、アリールチオ、アルケニル、アルケニルオキシ、アミノ、アルキルスルホニル、アリールスルホニル、カルバモイルもしくは複素環式基、保護されていてもよいアミノ、ヒドロキシルもしくはカルボキシル基、ニトロ基およびオキソ基から選ばれる一つ以上の基を； R^3 および R^4 は、同一または異なって、置換されていてもよいアルキル、シクロアルキルもしくはアルアルキル基を； m 個の R^5 および R^6 、 n 個の R^7 および R^8 は、同一または異なって、水素原子もしくはアルキル基を；D環は、5員もしくは6員の複素環または炭化水素環を； m は、1～5の整数を； n は、1～6の整数を、それぞれ示す。」
で表されるN-アルコキシアルキル-N, N-ジアルキルアミン誘導体またはその塩が、抗ハイポキシア作用、神経保護作用および神経再生促進作用を有し、神経変性疾患の治療剤として有用であることを見出し、本発明を完成した。
25

以下、本発明について詳述する。

本明細書において、特に断らない限り、各用語は、次の意味を有する。

ハロゲン原子とは、フッ素原子、塩素原子、臭素原子またはヨウ素原子を；アルキル基とは、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、⁵ tert-ブチル、ペンチル、ヘキシル、ヘプチルおよびオクチル基などの直鎖状または分岐鎖状のC₁₋₁₂アルキル基を；低級アルキル基とは、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、tert-ブチル、ペンチルおよびヘキシル基などの直鎖状または分岐鎖状のC₁₋₆アルキル基を；シクロアルキル基とは、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチルおよびシクロヘキシル基を；アリール基とは、フェニル、ナフチル、インダニルおよびインデニル基を；アルアルキル基とは、ベンジル、ジフェニルメチル、トリチルおよびフェネチル基などのアルC₁₋₆アルキル基を；アルコキシ基とは、メトキシ、エトキシ、プロポキシ、イソプロポキシ、ブトキシ、イソブトキシ、tert-ブトキシ、ペンチルオキシ、ヘキシルオキシ、ヘプチルオキシおよびオクチルオキシ基などの直鎖状または分岐¹⁰鎖状のC₁₋₁₂アルキルオキシ基；低級アルコキシ基とは、メトキシ、エトキシ、プロポキシ、イソプロポキシ、ブトキシ、イソブトキシ、tert-ブトキシ、ペンチルオキシおよびヘキシルオキシ基などの直鎖状または分岐鎖状のC₁₋₆アルキルオキシ基；アリールオキシ基とは、フェニルオキシ、ナフチルオキシ、インダニルオキシおよびインデニルオキシ基を；アルキルチオ基とは、メチルチオ、エチルチオ、¹⁵プロピルチオ、イソプロピルチオ、ブチルチオ、イソブチルチオ、tert-ブチルチオ、ペンチルチオ、ヘキシルチオ、ヘプチルチオおよびオクチルチオなどのC₁₋₁₂アルキルチオ基を；低級アルキルチオ基とは、メチルチオ、エチルチオ、プロピルチオ、イソプロピルチオ、ブチルチオ、イソブチルチオ、tert-ブチルチオ、²⁰ペンチルチオおよびヘキシルチオなどのC₁₋₆アルキルチオ基を；アリールチオ基とは、フェニルチオ、ナフチルチオ、インダニルチオおよびインデニルチオ基などを；アルケニル基とは、ビニル、プロペニル、ブテニル、ペンテニル、ヘキセニル、ヘプテニルおよびオクテニルなどのC₂₋₁₂アルケニル基を；低級アルケニル基とは、ビニル、プロペニル、ブテニル、²⁵ペンテニルおよびヘキセニル

などのC₂₋₆アルケニル基を；アルケニルオキシ基とは、ビニルオキシ、プロペニルオキシ、ブテニルオキシ、ペンテニルオキシ、ヘキセニルオキシ、ヘプテニルオキシおよびオクテニルオキシ基などのC₂₋₁₂アルケニルオキシ基を；低級アルケニルオキシ基とは、ビニルオキシ、プロペニルオキシ、ブテニルオキシ、ペン
5 テニルオキシおよびヘキセニルオキシ基などのC₂₋₆アルケニルオキシ基を；アル
キニル基とは、エチニル、2-プロピニル、2-ブチニルなどのC₂₋₆アルキニル基を；
アシル基とは、ホルミル、アルキルカルボニル、アロイル基を；アルキルカルボ
ニル基とは、アセチルおよびプロピオニルなどのC₂₋₆アルキルカルボニル基を；
アロイル基とは、ベンゾイルおよびナフチルカルボニル基などのアリールカルボ
10 ニル基を；アシルオキシ基とは、アセチルオキシ、ピバロイルオキシ、フェニル
アセチルオキシ、2-アミノ-3-メチルブタノイルオキシ、エトキシカルボニルオ
キシ、ベンゾイルオキシおよび3-ピリジルカルボニルオキシなどのアシルオキシ
基を；アルキルアミノ基とは、メチルアミノ、エチルアミノ、n-プロピルアミノ、
イソプロピルアミノ、n-ブチルアミノ、ジメチルアミノ、ジエチルアミノ、ジイ
15 ソプロピルアミノおよびジn-ブチルアミノなどのモノーまたはジ-C₁₋₆アルキ
ルアミノ基を；アルキルスルホニル基とは、メチルスルホニル、エチルスルホニ
ル、n-プロピルスルホニル、イソプロピルスルホニル、n-ブチルスルホニル、イ
ソブチルスルホニル、sec-ブチルスルホニル、tert-ブチルスルホニル、ペンチ
スルホニル、ヘキシルスルホニル、ヘプチルスルホニルおよびオクチルスルホニ
20 ルなどのC₁₋₁₂アルキルスルホニル基を；低級アルキルスルホニル基とは、メチ
ルスルホニル、エチルスルホニル、n-プロピルスルホニル、イソプロピルスルホ
ニル、n-ブチルスルホニル、イソブチルスルホニル、sec-ブチルスルホニル、te
rt-ブチルスルホニルまたはペンチルスルホニルなどのC₁₋₆アルキルスルホニル
基を；アリールスルホニル基とは、フェニルスルホニル、p-トルエンスルホニル
25 およびナフチルスルホニル基などを；アルキルスルホニルオキシ基とは、メチ
ルスルホニルオキシ、エチルスルホニルオキシ、n-プロピルスルホニルオキシ、イ
ソプロピルスルホニルオキシ、n-ブチルスルホニルオキシ、イソブチルスルホニ
ルオキシ、sec-ブチルスルホニルオキシ、tert-ブチルスルホニルオキシ、ペンチ

ルスルホニルオキシ、ヘキシリスルホニルオキシ、ヘプチルスルホニルオキシおよびオクチルスルホニルオキシなどのC₁₋₁₂アルキルスルホニルオキシ基を；低級アルキルスルホニルオキシ基とは、メチルスルホニルオキシ、エチルスルホニルオキシ、n-プロピルスルホニルオキシ、イソプロピルスルホニルオキシ、n-ブチルスルホニルオキシ、イソブチルスルホニルオキシ、sec-ブチルスルホニルオキシ、tert-ブチルスルホニルオキシまたはペンチルスルホニルなどのC₁₋₆アルキルスルホニルオキシ基を；アリールスルホニルオキシ基とは、フェニルスルホニルオキシ、p-トルエンスルホニルオキシおよびナフチルスルホニルオキシ基などを；複素環式基とは、ピロリジニル、ピペリジニル、ピペラジニル、ホモピペラジニル、ホモピペリジニル、モルホリル、チオモルホリル、テトラヒドロキノリニル、テトラヒドロインキノリル、キヌクリジニル、イミダゾリニル、ピロリル、イミダゾリル、ピラゾリル、ピリジル、ピリミジル、キノリル、キノリジニル、チアゾリル、テトラゾリル、チアシアゾリル、ピロリニル、ピラゾリニル、ピラゾリジニル、ブリニル、フリル、チエニル、ベンゾチエニル、ピラニル、イソベンゾフラニル、オキサゾリル、イソオキサゾリル、ベンゾフラニル、インドリル、ベンズイミダゾリル、ベンゾオキサゾリル、ベンゾイソオキサゾリル、ベンゾチアゾリル、キノキサリル、ジヒドロキノキサリル、2,3-ジヒドロベンゾチエニル、2,3-ジヒドロベンゾピロリル、2,3-4H-1-チアナフチル、2,3-ジヒドロベンゾフラニル、ベンゾ[b]ジオキサニル、イミダゾ[2,3-a]ピリジル、ベンゾ[b]ピペラジニル、クロメニル、イソチアゾリル、イソオキサゾリル、オキサジアゾリル、ピリダジニル、イソインドリル、イソキノリル、1,3-ベンゾジオキソニルおよび1,4-ベンゾジオキサニル基などの該環を形成する異項原子として一つ以上の酸素原子もしくは硫黄原子を含んでいてもよい、窒素、酸素もしくは硫黄原子から選ばれる少なくとも一つ以上の異項原子を5員もしくは6員環、縮合環または架橋環の複素環式基をそれぞれ意味する。

Dにおける5員または6員環の複素環としては、該環を形成する異項原子として酸素原子、窒素原子および硫黄原子から選ばれる1つ以上の異項原子を含む複素環、例えば、トリアジン、ピリダジン、ピリミジン、ピラジン、ピリジン、フ

ラン、チオフェン、ピロール、オキサゾール、チアゾール、イミダゾール、イソオキサゾール、イソチアゾール、ピラゾール、ピラン、プラサンなどの5員または6員の芳香族複素環；テトラヒドロ-2H-ピラン、テトラヒドロ-2H-チオピラン、ピペリジン、ジオキサン、オキサチアン、モルホリン、チオモルホリン、ジチアシン、ピペラジン、ピロリジン、テトラヒドロチオフェン、テトラヒドロフラン、ピラゾリジン、イミダゾリジン、テトラヒドロイソチアゾール、1,3-ジオキソラン、1,3-チアゾラン、テトラヒドロイソオキサゾール、1,3-オキサゾラン、ジチオラン、オキサチオラン、ジオキソランなどの5員もしくは6員環の脂肪族複素環が挙げられる。

10 Dにおける5員または6員環の炭化水素環としては、ベンゼン、シクロヘキセン、シクロペンテンなどの5員または6員環不飽和炭化水素環；シクロヘキサンおよびシクロペンタンといった飽和炭化水素環が挙げられる。

R³およびR⁴におけるアルキル基、シクロアルキル基およびアルアルキル基；R¹およびR²におけるアルキル基、アリール基、アルアルキル基、アルコキシ基、アリールオキシ基、アルキルチオ基、アリールチオ基、アルケニル基、アルケニルオキシ基、アミノ基、アルキルスルホニル基、アリールスルホニル基、カルバモイル基および複素環式基の置換基としては、ハロゲン原子、ニトロ基、低級アルキル基、シクロアルキル基、アリール基、アルアルキル基、低級アルコキシ基、アリールオキシ基、低級アルキルチオ基、低級アルケニル基、アルキニル基、アルキルスルホニル基、アリールスルホニル基、アシル基、アシルオキシ基、アルキルアミノ基、カルバモイル基、保護されていてもよいアミノ基、保護されていてもよいヒドロキシル基、保護されていてもよいカルボキシル基および複素環式基などから選ばれる1つ以上の基が挙げられる。

カルボキシル保護基としては、通常のカルボキシル基の保護基として使用し得るすべての基を含み、例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、1,1-ジメチルプロピル、ブチルおよびtert-ブチルなどの低級アルキル基；フェニルおよびナフチルなどのアリール基；ベンジル、ジフェニルメチル、トリチル、p-ニトロベンジル、p-メトキシベンジルおよびビス(p-メトキシフェニル)メチルな

どのアル低級アルキル基；アセチルメチル、ベンゾイルメチル、p-ニトロベンゾイルメチル、p-ブロモベンゾイルメチルおよびp-メタンスルホニルベンゾイルメチルなどのアシルー低級アルキル基；2-テトラヒドロピラニルおよび2-テトラヒドロフラニルなどの含酸素複素環式基；2,2,2-トリクロロエチルなどのハログノー低級アルキル基；2-(トリメチルシリル)エチルなどの低級アルキルシリルー低級アルキル基；アセトキシメチル、プロピオニルオキシメチルおよびピバロイルオキシメチルなどのアシルオキシー低級アルキル基；フタルイミドメチルおよびスクシンイミドメチルなどの含窒素複素環式ー低級アルキル基；シクロヘキシルなどのシクロアルキル基；メトキシメチル、メトキシエトキシメチルおよび2-(トリメチルシリル)エトキシメチルなどの低級アルコキシー低級アルキル基；ベンジルオキシメチルなどのアルー低級アルコキシー低級アルキル基；メチルチオメチルおよび2-メチルチオエチルなどの低級アルキルチオー低級アルキル基；フェニルチオメチルなどのアリールチオー低級アルキル基；1,1-ジメチル-2-プロペニル、3-メチル-3-ブテニルおよびアリルなどの低級アルケニル基；並びにトリメチルシリル、トリエチルシリル、トリイソプロピルシリル、ジエチルイソプロピルシリル、tert-ブチルジメチルシリル、tert-ブチルジフェニルシリル、ジフェニルメチルシリルおよびtert-ブチルメトキシフェニルシリルなどの置換シリル基などが挙げられる。

ヒドロキシル保護基としては、通常のヒドロキシル基の保護基として使用し得るすべての基を含み、例えば、ベンジルオキシカルボニル、4-ニトロベンジルオキシカルボニル、4-ブロモベンジルオキシカルボニル、4-メトキシベンジルオキシカルボニル、3,4-ジメトキシベンジルオキシカルボニル、メトキシカルボニル、エトキシカルボニル、tert-ブトキシカルボニル、1,1-ジメチルプロポキシカルボニル、イソプロポキシカルボニル、イソブチルオキシカルボニル、ジフェニルメトキシカルボニル、2,2,2-トリクロロエトキシカルボニル、2,2,2-トリブロモエトキシカルボニル、2-(トリメチルシリル)エトキシカルボニル、2-(フェニルスルホニル)エトキシカルボニル、2-(トリフェニルホスホニオ)エトキシカルボニル、2-フルフリルオキシカルボニル、1-アダマンチルオキシカルボニル、ビニルオキ

シカルボニル、アリルオキシカルボニル、S-ベンジルチオカルボニル、4-エトキシ-1-ナフチルオキシカルボニル、8-キノリルオキシカルボニル、アセチル、ホルミル、クロロアセチル、ジクロロアセチル、トリクロロアセチル、トリフルオロアセチル、メトキシアセチル、フェノキシアセチル、ピバロイルおよびベンゾイルなどのアシル基；メチル、*tert*-ブチル、2,2,2-トリクロロエチルおよび2-トリメチルシリルエチルなどの低級アルキル基；アリルなどの低級アルケニル基；ベンジル、p-メトキシベンジル、3,4-ジメトキシベンジル、ジフェニルメチルおよびトリチルなどのアル-低級アルキル基；テトラヒドロフリル、テトラヒドロピラニルおよびテトラヒドロチオピラニルなどの含酸素および含硫黄複素環式基；メトキシメチル、メチルチオメチル、ベンジルオキシメチル、2-メトキシエトキシメチル、2,2,2-トリクロロエトキシメチル、2-(トリメチルシリル)エトキシメチル、1-エトキシエチルおよび1-メチル-1-メトキシエチルなどの低級アルコキシ-および低級アルキルチオ-低級アルキル基；メタンスルホニルおよびp-トルエンスルホニルなどの低級アルキル-およびアリールスルホニル基；並びにトリメチルシリル、トリエチルシリル、トリイソプロピルシリル、ジエチルイソプロピルシリル、*tert*-ブチルジメチルシリル、*tert*-ブチルジフェニルシリル、ジフェニルメチルシリルおよび*tert*-ブチルメトキシフェニルシリルなどの置換シリル基などが挙げられる。

アミノ基の保護基としては、通常のアミノ保護基として使用し得るすべての基を含み、例えば、トリクロロエトキシカルボニル、トリブロモエトキシカルボニル、ベンジルオキシカルボニル、p-ニトロベンジルオキシカルボニル、o-ブロモベンジルオキシカルボニル、(モノ-、ジー、トリー)クロロアセチル、トリフルオロアセチル、フェニルアセチル、ホルミル、アセチル、ベンゾイル、*tert*-アミルオキシカルボニル、*tert*-ブトキシカルボニル、p-メトキシベンジルオキシカルボニル、3,4-ジメトキシベンジルオキシカルボニル、4-(フェニルアゾ)ベンジルオキシカルボニル、2-フルフリルオキシカルボニル、ジフェニルメトキシカルボニル、1,1-ジメチルプロポキシカルボニル、イソプロポキシカルボニル、フタロイル、スクシニル、アラニル、ロイシル、1-アダマンチルオキシカルボニルおよ

び 8-キノリルオキシカルボニルなどのアシル基；ベンジル、ジフェニルメチルおよびトリチルなどのアル低級アルキル基；2-ニトロフェニルチオおよび 2,4-ジニトロフェニルチオなどのアリールチオ基；メタンスルホニルおよび p-トルエンスルホニルなどのアルキルーもしくはアリールースルホニル基；N,N-ジメチルアミノメチレンなどのジー低級アルキルアミノー低級アルキリデン基；ベンジリデン、2-ヒドロキシベンジリデン、2-ヒドロキシ-5-クロロベンジリデンおよび 2-ヒドロキシ-1-ナフチルメチレンなどのアルー低級アルキリデン基；3-ヒドロキシ-4-ピリジルメチレンなどの含窒素複素環式アルキリデン基；シクロヘキシリデン、2-エトキシカルボニルシクロヘキシリデン、2-エトキシカルボニルシクロペンチリデン、2-アセチルシクロヘキシリデンおよび 3,3-ジメチル-5-オキシシクロヘキシリデンなどのシクロアルキリデン基；ジフェニルホスホリルおよびジベンジルホスホリルなどのジアリールーもしくはジアルー低級アルキルホスホリル基；5-メチル-2-オキソ-2H-1,3-ジオキソール-4-イルーメチルなどの含酸素複素環式アルキル基；並びにトリメチルシリルなどの置換シリル基などが挙げられる。

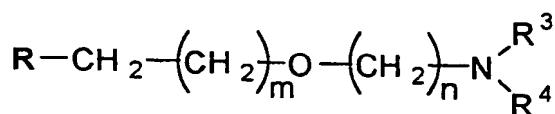
一般式[1]の化合物の塩としては、通常知られているアミノ基などの塩基性基またはヒドロキシルもしくはカルボキシル基などの酸性基における塩を挙げることができる。塩基性基における塩としては、例えば、塩酸、臭化水素酸および硫酸などの鉱酸との塩；ギ酸、酢酸、クエン酸、シュウ酸、フマル酸、マレイン酸、リンゴ酸、酒石酸、アスパラギン酸、トリクロロ酢酸およびトリフルオロ酢酸などの有機カルボン酸との塩；並びにメタンスルホン酸、ベンゼンスルホン酸、p-トルエンスルホン酸、メシチレンスルホン酸およびナフタレンスルホン酸などのスルホン酸との塩を、また、酸性基における塩としては、例えば、ナトリウムおよびカリウムなどのアルカリ金属との塩；カルシウムおよびマグネシウムなどのアルカリ土類金属との塩；アンモニウム塩；並びにトリメチルアミン、トリエチルアミン、トリプチルアミン、ピリジン、N,N-ジメチルアニリン、N-メチルピペリジン、N-メチルモルホリン、ジエチルアミン、ジシクロヘキシリルアミン、プロカイン、ジベンジルアミン、N-ベンジル-β-フェネチルアミン、1-エフェナミンおよび N,N'-ジベンジルエチレンジアミンなどの含窒素有機塩基との塩などを挙

げることができる。上記した塩の中で、好ましい塩としては、薬理学的に許容される塩が挙げられる。

本発明化合物の代表的化合物としては、例えば、以下の表1～表7に例示した化合物が挙げられる。

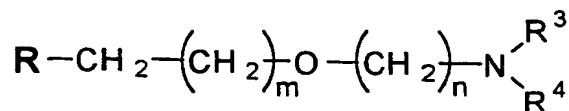
5 なお、表中のM eはメチル基、E tはエチル基、P hはフェニル基を意味する。

表 1

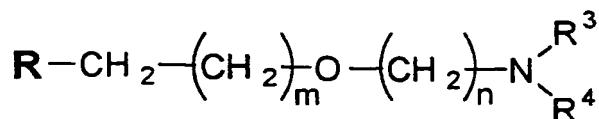


No.	R	m	n	R ³	R ⁴
1	1-ナフチル	1	2	methyl	methyl
2	2-ナフチル	1	2	methyl	methyl
3	2-ナフチル	1	2	ethyl	ethyl
4	6-キノリル	1	2	ethyl	ethyl
5	ベンゾ[b]フラン-5-イル	1	2	methyl	methyl
6	ベンゾ[b]フラン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
7	ベンゾ[b]フラン-5-イル	1	2	methyl	benzyl
8	1,3-ベンゾジオキソール-5-イル	1	2	methyl	methyl
9	1,3-ベンゾジオキソール-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
10	2,3-ジヒドロ-1H-5-インデニル	1	2	ethyl	ethyl
11	1,4-ベンゾジオキサン-6-イル	1	2	methyl	methyl
12	2-メチル-1,3-ヘンゾチアゾール-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
13	ベンゾ[b]チオフェン-4-イル	1	2	ethyl	ethyl
14	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	methyl
15	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	ethyl
16	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
17	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	propyl
18	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	isopropyl
19	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	cyclopropyl
20	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	allyl
21	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	propargyl
22	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	butyl
23	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	benzyl
24	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
25	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	allyl
26	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	propargyl
27	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	benzyl
28	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	2-hydroxyethyl	2-hydroxyethyl
29	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	propyl	propyl

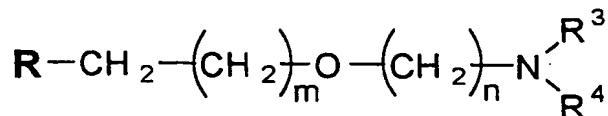
表 2



No.	R	m	n	R ³	R ⁴
30	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	isopropyl	isopropyl
31	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	cyclopropyl	benzyl
32	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	allyl	benzyl
33	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	propargyl	benzyl
34	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	2	2	ethyl	ethyl
35	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	4	2	methyl	methyl
36	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	3	ethyl	ethyl
37	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	5	ethyl	ethyl
38	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	2	3	ethyl	ethyl
39	ベンゾ[b]チオフェン-6-イル	1	2	methyl	methyl
40	ベンゾ[b]チオフェン-7-イル	1	2	ethyl	ethyl
41	2-メチルヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
42	3-メチルヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	benzyl
43	6-メチルヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
44	2-フェニルヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	methyl
45	2-フェニルヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
46	2-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
47	3-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
48	4-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
49	6-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
50	7-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
51	2-クロロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
52	4-クロロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
53	3-ブロモヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
54	6-メトキシヘンゾ[b]チオフェン-5-イル 6-ジ'メチルアミノヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	methyl
55	2-カルボキシヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	2	2	ethyl	ethyl
56	2-(アミノカルボニル) ヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
57		1	2	ethyl	ethyl

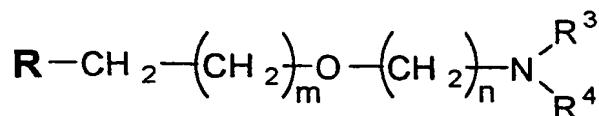
14
表3

No.	R	m	n	R ³	R ⁴
58	1-ナフチル	1	2	ethyl	ethyl
59	1-ナフチル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
60	2-ナフチル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
61	2-(6-メトキシナフチル)	1	2	methyl	methyl
62	2-(6-メトキシナフチル)	1	2	ethyl	ethyl
63	2-(6-メトキシナフチル)	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
64	2-メチル-1,3-ヘンゾチアゾール-5-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
65	ベンゾ[b]チオフェン-4-イル	1	2	methyl	methyl
66	ベンゾ[b]チオフェン-4-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
67	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	2-hydroxyethyl
68	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	benzyl	2-hydroxyethyl
69	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	2-hydroxypropyl
70	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	2-dimethylaminoethyl
71	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	3-hydroxypropyl
72	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	2-(1-hydroxypropyl)
73	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	4-methoxybenzyl
74	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	4-fluorobenzyl
75	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	4-nitrobenzyl
76	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	2-methoxyethyl
77	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	cyclopropyl
78	ベンゾ[b]チオフェン-6-イル	1	2	ethyl	ethyl
79	ベンゾ[b]チオフェン-6-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
80	ベンゾ[b]チオフェン-6-イル	1	2	cyclopropyl	benzyl
81	ベンゾ[b]チオフェン-7-イル	1	2	methyl	methyl
82	ベンゾ[b]チオフェン-7-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
83	ベンゾ[b]チオフェン-4-イル	2	2	methyl	2-hydroxyethyl
84	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	2	2	methyl	2-hydroxyethyl



No.	R	m	n	R ³	R ⁴
85	ベンゾ[b]チオフェン-6-イル	2	2	methyl	2-hydroxyethyl
86	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	2	3	methyl	2-hydroxyethyl
87	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	3	methyl	2-hydroxyethyl
88	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	5	methyl	2-hydroxyethyl
89	3-ジ'メチルアミノ ヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
90	2-メチルヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
91	4-クロロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	methyl
92	6-クロロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	methyl
93	2-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
94	2-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	3	methyl	2-hydroxyethyl
95	2-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	3-hydroxypropyl
96	4-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	methyl
97	4-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
98	4-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-7-イル	1	2	methyl	methyl
99	4-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-7-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
100	6-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	benzyl
101	6-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	methyl
102	6-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
103	6-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-7-イル	1	2	ethyl	ethyl
104	6-フルオロヘンゾ[b]チオフェン-7-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
105	5,7-ジ'フルオロヘンゾ[b]チオフェン-6-イル	1	2	ethyl	ethyl
106	5,7-ジ'フルオロヘンゾ[b]チオフェン-6-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
107	6-ヒドロキシヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
108	6-ヒドロキシヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
109	6-メトキシヘンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl

表 5



No.	R	m	n	R ³	R ⁴
110	6-メキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
111	6-フルオロ-7-(メチルチオ)ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
112	6-フルオロ-7-ヒドロキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
113	6-フルオロ-7-メキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
114	2-(1-ヒドロキシ-1-メチル)エチルベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
115	2-(3-ピリジル)ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	ethyl	ethyl
116	ベンゾ[b]フラン-5-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
117	5-メキシベンゾ[b]フラン-6-イル	1	2	ethyl	ethyl
118	5-メキシベンゾ[b]フラン-6-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
119	1,4-ベンゾジオキサン-6-イル	1	2	ethyl	ethyl
120	2H-2,2-ジメチルクロメン-6-イル	1	2	ethyl	ethyl
121	4H-4-クロメノン-6-イル	1	2	methyl	methyl
122	4H-4-クロメノン-6-イル	1	2	ethyl	ethyl
123	4H-4-クロメノン-6-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
124	2H-2-クロメノン-6-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
125	1H-ベンゾ[d]イミダゾール-5-イル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
126	6-キノキサリニル	1	2	methyl	2-hydroxyethyl
127	1,2,3,4-テトラヒドロ-6-キノキサリニル	1	2	ethyl	ethyl

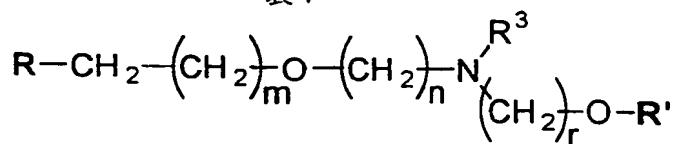
17
表 6



No.	R	A	B	C
128	1-ナフチル	-CH ₂ -	-CH ₂ C(Me) ₂ -	-NMe ₂
129	2-ナフチル	-CH ₂ -	-CH(Me)CH ₂ -	-NEt ₂
130	ヘンゾ [*] [b]チオフェン-4-イル	-CH ₂ CH(Me)-	-CH ₂ CH ₂ -	-NMe ₂
131	ヘンゾ [*] [b]チオフェン-5-イル	-CH(Me)-	-CH ₂ CH ₂ -	-NEt ₂
132	ヘンゾ [*] [b]チオフェン-5-イル	-CH(Me)-	-CH ₂ CH ₂ -	-N(Me)CH ₂ CH ₂ OH
133	ヘンゾ [*] [b]チオフェン-5-イル	-CH ₂ -	-CH ₂ CH(Me)-	-NEt ₂
134	ヘンゾ [*] [b]チオフェン-5-イル	-CH ₂ -	-CH ₂ CH(Me)-	-N(Me)CH ₂ CH ₂ OH
135	ヘンゾ [*] [b]チオフェン-5-イル	-CH(Me)-	-CH ₂ CH(Me)-	-NEt ₂
136	ヘンゾ [*] [b]チオフェン-6-イル	-C(Me) ₂ -	-CH ₂ CH ₂ -	-NMe ₂
137	ヘンゾ [*] [b]チオフェン-6-イル	-C(Me) ₂ -	-CH ₂ C(Me) ₂ -	-N(Me)CH ₂ CH ₂ OH
138	ヘンゾ [*] [b]チオフェン-7-イル	-CH(Me)CH ₂ -	-CH ₂ CH ₂ -	-N(Me)CH ₂ CH ₂ OH
139	ベンゾ [*] [b]フラン-4-イル	-CH ₂ CH ₂ -	-C(Me) ₂ CH ₂ -	-N(Me)CH ₂ CH ₂ OH
140	ベンゾ [*] [b]フラン-5-イル	-CH ₂ -	-CH(Me)CH(Me)-	-NMe ₂
141	ベンゾ [*] [b]フラン-6-イル	-CH ₂ -	-CH ₂ CH(Me)CH ₂ -	-NEt ₂
142	ベンゾ [*] [b]フラン-7-イル	-CH ₂ CH(Me)-	-CH ₂ CH ₂ CH ₂ -	-N(Me)CH ₂ CH ₂ OH

18

表 7

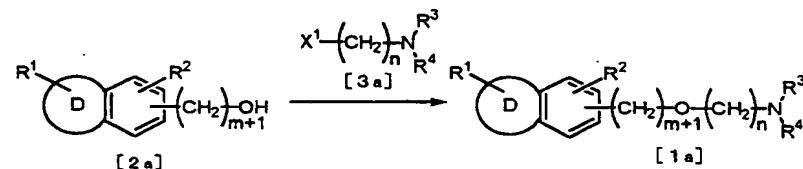


No.	R	m	n	r	R ³	R'
143	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	2	methyl	-COCH ₃
144	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	2	methyl	-COC(Me) ₃
145	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	2	methyl	-COOEt
146	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	2	methyl	-COPh
147	ベンゾ[b]チオフェン-6-イル	1	2	2	methyl	-COCH ₂ Ph
148	ベンゾ[b]チオフェン-7-イル	1	2	2	methyl	-COCH(NH ₂)CH(Me) ₂
149	ベンゾ[b]チオフェン-8-イル	1	2	2	methyl	-CO(3-ヒドロ-2-ヒドロキシル)
150	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	3	2	methyl	-COCH ₃
151	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	2	3	methyl	-COC(Me) ₃
152	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	1	3	2	methyl	-COOEt
153	ベンゾ[b]チオフェン-5-イル	2	2	2	ethyl	-COCH ₃
154	2-ナフチル	1	2	2	propyl	-COPh
155	ベンゾ[b]フラン-5-イル	1	2	2	isopropyl	-COCH ₂ Ph

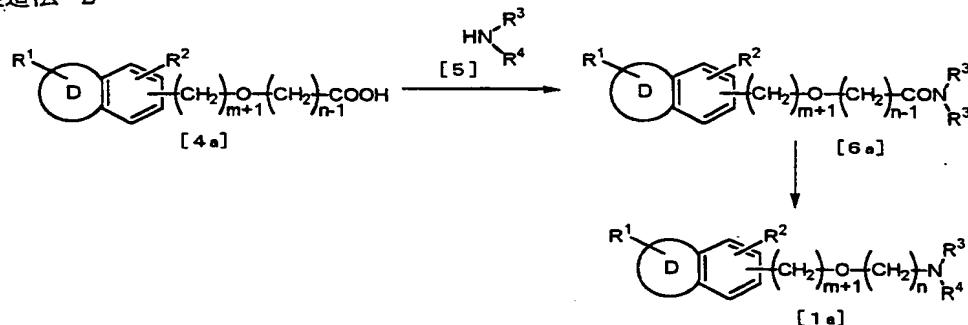
次に、一般式 [1] の N-アルコキシアルキル-N,N-ジアルキルアミン誘導体またはその塩の製造法について説明する。

一般式 [1] の N-アルコキシアルキル-N,N-ジアルキルアミン誘導体またはその塩は、自体公知の方法またはそれらを適宜組み合わせることによって、例 5 えれば、以下に示す製造法によって製造できる。

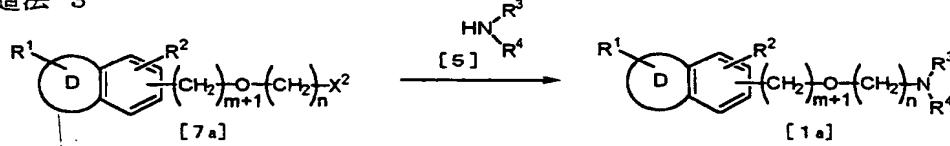
製造法 1



製造法 2



製造法 3



「式中、R¹、R²、R³、R⁴、mおよびnは、前記したと同様の意味を有し；X¹およびX²は、脱離基を、それぞれ示す。」

10 脱離基としては、例えば、ハロゲン原子、低級アルキルスルホニルオキシ基およびアリールスルホニルオキシ基などが挙げられる。

次いで、各工程について説明する。

製造法 1

塩基の存在下、一般式 [2a] の化合物を一般式 [3a] の化合物と反応させ、一般式 [1a] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、テトラヘドロン・レターズ(Tetrahedron Letters)、第38巻、第3251～3254頁(1975年)および新実験化学講座、第14

卷、[I]、日本化学会編、第 567～611 頁(1977 年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

塩基としては、例えば、水素化ナトリウム、水酸化ナトリウム、水酸化カリウムおよび *tert*-ブトキシカリウムなどが挙げられる。

5 この反応で使用される溶媒としては、例えば、塩化メチレンおよびクロロホルムなどのハロゲン化炭化水素類；テトラヒドロフランおよびジオキサンなどのエーテル類；ベンゼン、トルエンおよびキシレンなどの芳香族炭化水素類；ジメチルスルホキシドなどのスルホキシド類；N,N-ジメチルホルムアミドなどのアミド類；*tert*-ブタノールなどの三級アルコール類；並びに水などが挙げられ、これら
10 の溶媒は、混合して使用してもよい。

この反応は、触媒の存在下または非存在下で行うことができる。

使用される触媒としては、通常知られている 4 級アンモニウム塩の相間移動触媒が用いられるが、好ましくは、硫酸水素テトラ-*n*-ブチルアンモニウムおよび臭化テトラ-*n*-ブチルアンモニウムなどが挙げられる。

15 一般式 [3a] の化合物および塩基の使用量は、一般式 [2a] の化合物に対して、それぞれ、等モル以上用いればよく、好ましくは、1～20 倍モルである。触媒の量は、0.01～0.30 倍モルである。

この反応は通常、−50～200°C、好ましくは、0～150°C で、10 分～20 時間実施すればよい。

20 製造法 2

(1) 一般式 [4a] の化合物またはその反応性誘導体に、一般式 [5] の化合物を反応させることにより、一般式 [6a] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、実験化学講座、第 22 卷、日本化学会編、第 137～173 頁(1992 年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

一般式 [4a] の化合物の反応性誘導体としては、例えば、酸ハロゲン化物、酸無水物、活性化アミドおよび活性化エステルなどが挙げられる。

一般式 [4a] の化合物を遊離酸の形で使用する場合は、縮合剤の存在下に反応

を行うのが好ましい。

縮合剤としては、例えば、N,N-ジシクロヘキシルカルボジイミドなどのN,N-ジアルキルカルボジイミド類；塩化チオニルなどのハロゲン化剤；クロロギ酸エチルエステルなどのハロゲン化アルキルエステル類；カルボニルジイミダゾールなどの活性化アミド化剤；並びにジフェニルリン酸アジドなどのアジド化剤などが挙げられる。

縮合剤の使用量は、一般式[4a]の化合物に対して、等モル以上用いればよく、好ましくは、1~5倍モルである。

この反応で使用される溶媒としては、例えば、水；塩化メチレンおよびクロロホルムなどのハロゲン化炭化水素類；テトラヒドロフランおよびジオキサンなどのエーテル類；ベンゼン、トルエンおよびキシレンなどの芳香族炭化水素類；ジメチルスルホキシドなどのスルホキシド類；N,N-ジメチルホルムアミドなどのアミド類；酢酸エチルなどのエステル類；アセトンおよびメチルエチルケトンなどのケトン類；アセトニトリルなどのニトリル類；並びにピリジンなどのヘテロ芳香族類などが挙げられ、これらの溶媒は、混合して使用してもよい。

この反応は、塩基の存在下に行うことができる。

塩基としては、例えば、トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン、1,8-ジアザビシクロ[5.4.0]ウンデク-7-エン、ピリジン、tert-ブトキシカリウム、炭酸ナトリウム、炭酸カリウムおよび水素化ナトリウムなどの有機塩基または無機

20 塩基が挙げられる。

塩基の使用量は、一般式[4a]の化合物に対して、等モル以上用いればよく、好ましくは、1~10倍モルである。

一般式[5]の化合物の使用量は、一般式[4a]の化合物に対して、等モル以上、好ましくは、1~20倍モルである。

25 この反応は通常、-50~200°C、好ましくは、-30~100°Cで、10分~20時間実施すればよい。

(2)一般式[6a]の化合物を、通常の還元反応に付すことにより、一般式[1a]の化合物を製造することができる。

この還元反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第15巻、[II]、日本化学会編、第29~244頁(1977年、丸善)に記載されている方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

この反応で使用される溶媒としては、例えば、塩化メチレンおよびクロロホルムなどのハロゲン化炭化水素類；テトラヒドロフランおよびジオキサンなどのエーテル類；ベンゼン、トルエンおよびキシレンなどの芳香族炭化水素類；並びにメタノール、エタノールおよびイソプロパノールなどのアルコール類などが挙げられ、これらの溶媒は、混合して使用してもよい。

還元剤としては、例えば、水素化アルミニウムリチウムなどの水素化アルミニウム類；並びにジボランおよび水素化ホウ素ナトリウムなどの水素化ホウ素類が挙げられる。

還元剤として水素化ホウ素ナトリウムを使用する場合は、三フッ化ホウ素ジエチルエーテル錯体などのルイス酸の存在下に反応を行うのが好ましい。

還元剤の使用量は、一般式[6a]の化合物に対して、0.5倍モル以上用いればよく、好ましくは、1~10倍モルである。

ルイス酸の使用量は、還元剤に対して、等モル以上用いればよく、好ましくは、1~20倍モルである。

この反応は、通常-50~200°C、好ましくは、0~110°Cで、10分~20時間実施すればよい。

20 製造法3

塩基の存在下または非存在下、一般式[7a]の化合物に、一般式[5]の化合物を反応させることにより、一般式[1a]の化合物を製造することができる。

この反応で使用される溶媒としては、例えば、水；塩化メチレンおよびクロロホルムなどのハロゲン化炭化水素類；ベンゼン、トルエンおよびキシレンなどの芳香族炭化水素類；テトラヒドロフランおよびジオキサンなどのエーテル類；メタノールおよびエタノールなどのアルコール類；アセトニトリルなどのニトリル類；N,N-ジメチルホルムアミドなどのアミド類；並びにジメチルスルホキシドなどのスルホキシド類などが挙げられ、これらの溶媒は、混合して使用してもよい。

必要に応じて用いられる塩基としては、例えば、トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン、1,8-ジアザビシクロ[5.4.0]ウンデク-7-エン、ピリジン、tert-ブトキシカリウム、炭酸ナトリウム、炭酸カリウムおよび水素化ナトリウムなどの有機塩基または無機塩基が挙げられる。

5 塩基の使用量は、一般式 [7a] の化合物に対して、等モル以上、好ましくは、1～20倍モルである。

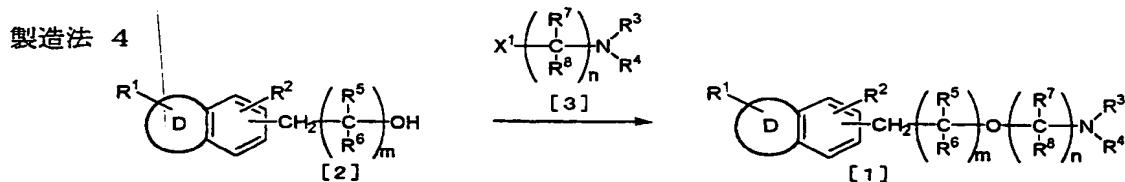
また、この反応は、触媒の存在下に行うこともできる。触媒としては、例えば、ヨウ化カリウムおよびヨウ化ナトリウムなどが挙げられる。

10 触媒の使用量は、一般式 [7a] の化合物に対して、0.01～10倍モル用いればよく、好ましくは、0.1～1倍モルである。

一般式 [5] の化合物の使用量は、一般式 [7a] の化合物に対して、等モル以上用いればよく、好ましくは、1～20倍モルである。

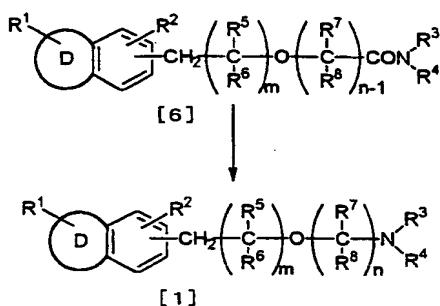
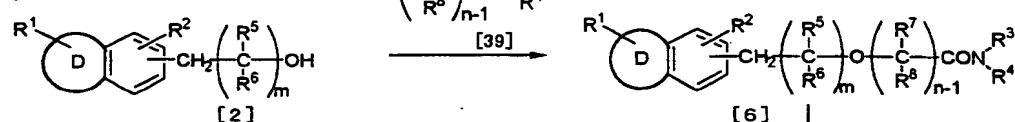
この反応は、通常、0～200°C、好ましくは、20～150°Cで、10分～20時間実施すればよい。

15 また、上記の製造法 1～3において用いられる反応試薬または塩基は、それらの性質に応じ、それらを溶媒として用いることができる。

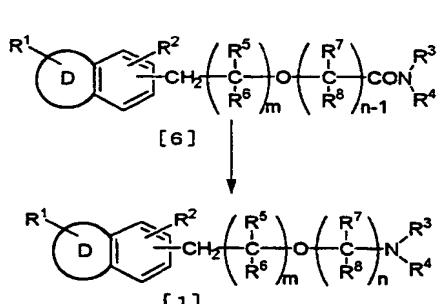
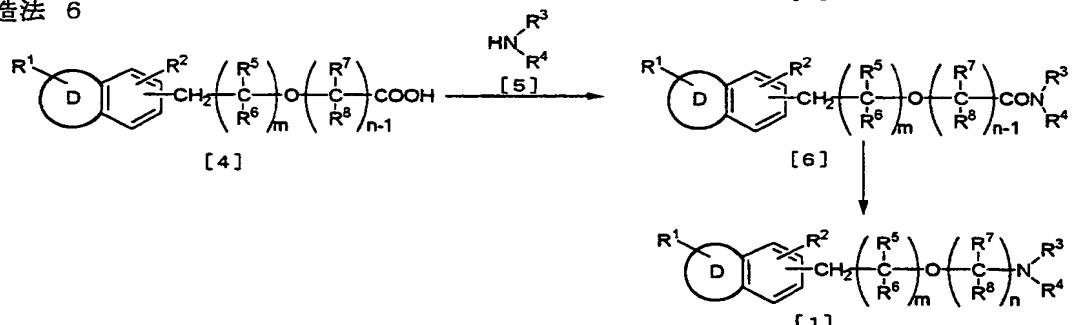


24

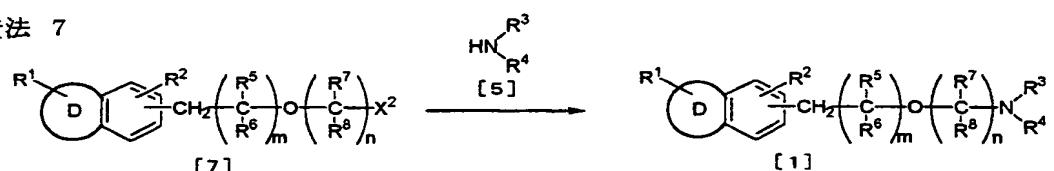
製造法 5



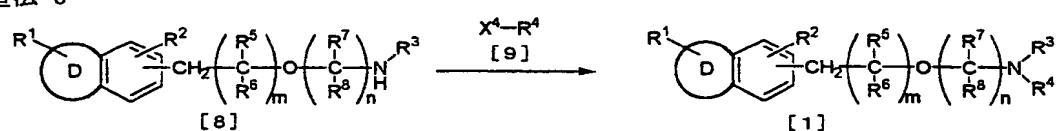
製造法 6



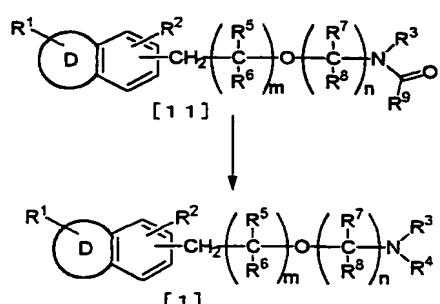
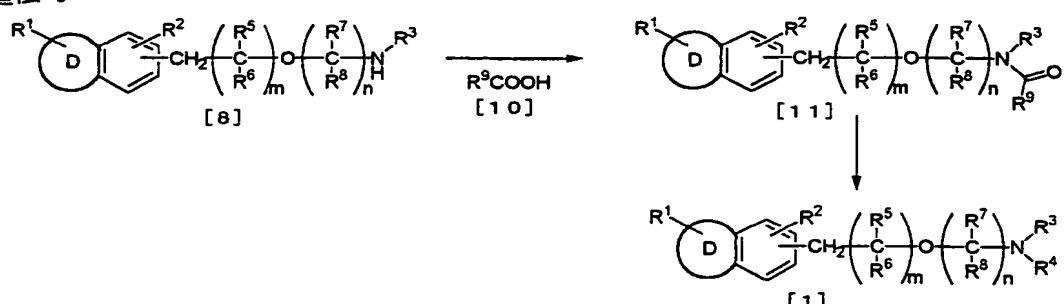
製造法 7



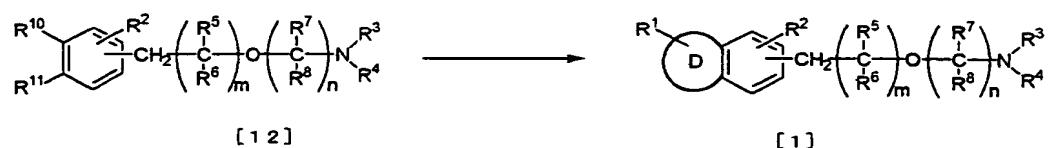
製造法 8



製造法 9



製造法 10



〔式中、R¹、R²、R³、R⁴、R⁵、R⁶、R⁷、R⁸、mおよびnは、前記したと同様の意味を有し；R⁹は、水素原子、置換されていてもよいアルキルおよびシクロアルキル基を；R¹⁰およびR¹¹は、一方のどちらかが水素原子であるかまたは5員もしくは6員の複素環または炭化水素環の環形成に必要な置換基を；X¹、X²、X³およびX⁴は、脱離基を、それぞれ示す。〕

5 員もしくは6員の複素環または炭化水素環の環形成に必要な置換基としては、例えば、ハロゲン原子、置換されていてもよいアルキル、アルケニル、アルキニル、アルコキシ、アルキルチオ、アルケニルオキシ、アミノ、アルキルスルホニル、アリールスルホニル、カルバモイルおよびアシル基、保護されていてもよいアミノ、ヒドロキシル、メルカプトもしくはカルボキシル基、ニトロ基などが挙げられる。脱離基としては、例えば、ハロゲン原子、低級アルキルスルホニルオキシ基およびアリールスルホニルオキシ基などが挙げられる。

次いで、各工程について説明する。

製造法4

15 塩基の存在下、一般式[2]の化合物を一般式[3]の化合物と反応させ、一般式[1]の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法1と同様の方法で実施すればよい。

製造法5

(1) 塩基の存在下、一般式[2]の化合物を一般式[39]の化合物と反応させ、一般式[6]の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第14巻、[I]、日本化学会編、第567～611頁(1977年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

塩基としては、例えば、トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン、1,25-ジアザビシクロ[5.4.0]ウンデク-7-エン、ピリジン、水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、炭酸カリウム、水素化ナトリウム、金属ナトリウム、リチウムジイソプロピルアミド、n-ブチルリチウムおよびtert-ブトキシカリウムなどの有機塩基または無機塩基が挙げられる。

この反応で使用される溶媒としては、例えば、水；塩化メチレンおよびクロロホルムなどのハロゲン化炭化水素類；テトラヒドロフランおよびジオキサンなどのエーテル類；ベンゼン、トルエンおよびキシレンなどの芳香族炭化水素類；ジメチルスルホキシドなどのスルホキシド類；N,N-ジメチルホルムアミドなどのアミド類；酢酸エチルなどのエステル類；アセトンおよびメチルエチルケトンなどのケトン類；アセトニトリルなどのニトリル類；tert-ブタノールなどの三級アルコール類；並びにピリジンなどのヘテロ芳香族類などが挙げられ、これらの溶媒は、混合して使用してもよい。

一般式 [39] の化合物および塩基の使用量は、一般式 [2] の化合物に対して、
10 それぞれ、等モル以上用いればよく、好ましくは、1~20 倍モルである。

この反応は通常、-50~200°C、好ましくは、0~150°Cで、10 分~20 時間実施すればよい。

(2)一般式 [6] の化合物を、通常の還元反応に付すことにより、一般式 [1] の化合物を製造することができる。

15 この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法 2(2)と同様の方法で実施すればよい。

製造法 6

(1)一般式 [4] の化合物またはその反応性誘導体に、一般式 [5] の化合物を反応させることにより、一般式 [6] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法 2(1)と同様の方法で実施すればよい。

20 (2)一般式 [6] の化合物を、通常の還元反応に付すことにより、一般式 [1] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法 2(2)と同様の方法で実施すればよい。

製造法 7

25 塩基の存在下または非存在下、一般式 [7] の化合物に、一般式 [5] の化合物を反応させることにより、一般式 [1] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法 3 と同様の方法で実施すればよい。

製造法 8

塩基の存在下または非存在下、一般式 [8] の化合物に、一般式 [9] の化合物

を反応させることにより、一般式 [1] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法 3 と同様の方法で実施すればよい。

製造法 9

- (1) 一般式 [8] の化合物に、一般式 [10] の化合物またはその反応性誘導体を
5 反応させることにより、一般式 [11] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法 2(1)と同様の方法で実施すればよい。

- (2) 一般式 [11] の化合物を、通常の還元反応に付すことにより、一般式 [1] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法 2(2)と同様の方法で実施すればよい。

10 製造法 10

一般式 [12] の化合物を、通常の閉環反応に付すことにより、一般式 [1] の化合物を製造することができる。

- この反応は、自体公知の方法、例えば、ヘテロ環化合物の化学、第 16~80 頁(1
988 年、講談社)、新実験化学講座、第 14 卷、[II]、日本化学会編、第 788~796
15 頁(1977 年、丸善)および新実験化学講座、第 14 卷、[IV]、日本化学会編、第 18
79~2406 頁(1977 年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

以下に、具体的な幾つかの例を挙げて説明する。

- (1) R^{10} がアミノ基で R^{11} がアミノ基、ヒドロキシル基もしくはメルカプト基の場合、カルボン酸もしくはカルボン酸等価体と反応することで一般式 [1] で表
20 されるベンゾアゾール誘導体を製造することができる。

- この反応で使用される溶媒としては、例えば、水；テトラヒドロフランおよびジオキサンなどのエーテル類；ベンゼン、トルエンおよびキシレンなどの芳香族炭化水素類；ジメチルスルホキシドなどのスルホキシド類；メタノール、エタノールおよびイソプロパノールなどのアルコール類；並びにピリジンなどのヘテロ
25 芳香族類などが挙げられ、これらの溶媒は、混合して使用してもよい。

カルボン酸としては、ギ酸、酢酸、プロピオン酸、ヒドロキシ酢酸およびフェニル酢酸などが挙げられる

カルボン酸等価体としては、無水酢酸などの酸無水物類；塩化アセチルおよび

クロロ炭酸エチルなどの酸塩化物；オルトギ酸エチルなどのオルトエステル類；アセトアミジンなどのアミジン類；アセトニトリルなどのニトリル類が挙げられる。

カルボン酸またはカルボン酸等価体の使用量は、一般式 [12] の化合物に対して、それぞれ、等モル以上用いればよく、好ましくは、1~20 倍モルである。

- 5 この反応は通常、-50~200°C、好ましくは、0~200°Cで、10 分~20 時間実施すればよい。

(2) R¹⁰ および R¹¹ がともにアミノ基の場合、α-カルボニルカルボニル誘導体と反応することで一般式 [1] で表されるキノキサリン誘導体を製造することができる。

- この反応で使用される溶媒としては、例えば、水；テトラヒドロフランおよび
10 ジオキサンなどのエーテル類；ベンゼン、トルエンおよびキシレンなどの芳香族炭化水素類；ジメチルスルホキシドなどのスルホキシド類；メタノール、エタノールおよびイソプロパノールなどのアルコール類；並びにピリジンなどのヘテロ芳香族類などが挙げられ、これらの溶媒は、混合して使用してもよい。

- α-カルボニルカルボニル誘導体としては、グリオキサール、グリオキシル酸エチル、ピルビンアルデヒドおよび 1-フェニル-1,2-プロパンジオンなどが挙げられる。

α-カルボニルカルボニル誘導体の使用量は、一般式 [12] の化合物に対して、それぞれ、等モル以上用いればよく、好ましくは、1~20 倍モルである。

この反応は通常、-50~200°C、好ましくは、0~200°Cで、10 分~20 時間実施すればよい。

- 20 (3) R¹⁰ がアルキルカルボニル基で R¹¹ がヒドロキシル基もしくはメルカプト基の場合、塩基存在下、エステルまたは反応性カルボン酸誘導体と反応することで一般式 [1] で表されるクロモンまたはチオクロモン誘導体を製造することができる。

- この反応で使用される溶媒としては、例えば、テトラヒドロフランおよびジオキサンなどのエーテル類；ベンゼン、トルエンおよびキシレンなどの芳香族炭化水素類；N,N-ジメチルホルムアミドなどのアミド類；ジメチルスルホキシドなどのスルホキシド類；メタノール、エタノールおよびイソプロパノールなどのアルコール類；並びにピリジンなどのヘテロ芳香族類などが挙げられ、これらの溶媒

は、混合して使用してもよい。

エステルとしては、ギ酸エチル、ギ酸メチル、酢酸エチルおよび安息香酸エチルなどが挙げられる。

反応性カルボン酸誘導体としては、無水酢酸などの酸無水物類；塩化アセチルなどの酸塩化物；オルトギ酸エチルなどのオルトエステル類；N,N-ジメチルホルムアミド ジメチルアセタールなどのアセタール類などが挙げられる。

エステルまたは反応性カルボン酸誘導体および塩基の使用量は、一般式 [12] の化合物に対して、それぞれ、等モル以上用いればよく、好ましくは、1～20倍モルである。

この反応は通常、-50～200°C、好ましくは、0～130°Cで、10分～20時間実施すればよい。

(4) R¹⁰ が β 及び γ 位がカルボキシル基で置換されたアルキル基の場合、酸存在下、環形成化反応を行うことで一般式 [1] で表される 5 員もしくは 6 員の炭化水素環誘導体を製造することができる。

この反応で使用される溶媒としては、例えば、ベンゼン、トルエンおよびキシリレンなどの芳香族炭化水素類；並びに塩化メチレンおよびクロロホルムなどのハロゲン化炭化水素類などが挙げられ、これらの溶媒は、混合して使用してもよい。

酸としては、リン酸、ポリリン酸、硫酸およびフッ化水素などの鉱酸類；五塩化リン、塩化アルミニウム、塩化亜鉛および塩化スズなどのルイス酸類などが挙げられる。

酸の使用量は、一般式 [12] の化合物に対して、それぞれ、等モル以上用いればよく、好ましくは、1～20倍モルである。

この反応は通常、-50～200°C、好ましくは、0～130°Cで、10分～20時間実施すればよい。

上記の製造法 1～10において用いられる反応試薬は、それらの性質に応じ、それらを溶媒として用いることができる。

上記の製造法 1～10において、一般式 [2] 、[2a] 、[3] 、[3a] 、[4] 、[4a] 、[5] 、[6] 、[6a] 、[7] 、[7a] 、[8] 、[9] 、[10] 、[11] 、[12]

および [39] の化合物は、塩として用いることもでき、それらの塩としては、一般式 [1] の化合物の塩と同様の塩が挙げられる。

また、一般式 [2] 、[2a] 、[3] 、[3a] 、[4] 、[4a] 、[5] 、[6] 、[6a] 、
[7] 、[7a] 、[8] 、[9] 、[10] 、[11] 、[12] および [39] の化合物において、
5 異性体(例えば、光学異性体、幾何異性体および互変異性体など)が存在する場合、
これらすべての異性体を使用することができ、また水和物、溶媒和物およびすべて
の結晶形を使用することができる。

また、一般式 [1] 、[1a] 、[2] 、[2a] 、[3] 、[3a] 、[4] 、[4a] 、[5] 、[6] 、
[6a] 、[7] 、[7a] 、[8] 、[9] 、[10] 、[11] 、[12] および [39] の化合物に
10 おいて、ヒドロキシル基、アミノ基またはカルボキシル基を有する化合物は、予
めこれらのヒドロキシル基、アミノ基またはカルボキシル基を通常の保護基で保
護しておき、反応後、必要に応じて自体公知の方法でこれらの保護基を脱離する
ことができる。

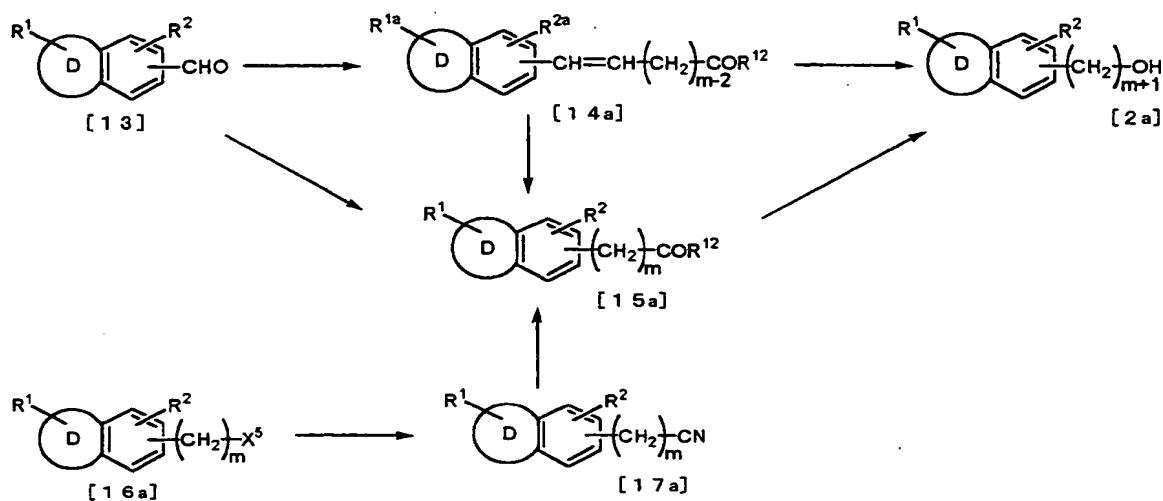
また、一般式 [1] および [1a] のN-アルコキシアルキル-N,N-ジアルキ
15 ルアミン誘導体またはその塩を、例えば、酸化反応、還元反応、アルキル化反応、
ハロゲン化反応、スルホニル化反応、置換反応、脱水反応および加水分解反応など
自体公知の方法を適宜組み合わせることによって、他の一般式 [1] のN-アル
コキシアルキル-N,N-ジアルキルアミン誘導体またはその塩に誘導するこ
ができる。

20 このようにして得られた一般式 [1] のN-アルコキシアルキル-N,N-ジアル
キルアミン誘導体またはその塩は、抽出、晶出、蒸留およびカラムクロマトグラ
フィーなどの通常の方法によって単離精製することができる。

次に、本発明化合物を製造するための原料である一般式 [2a] 、[4a] 、[7a] 、[2] 、
[4] 、[7] 、[8] および [12] の化合物の製造法について説明する。

25 一般式 [2a] の化合物は、自体公知の方法またはそれらを適宜組み合わせるこ
とによって、例えば、以下に示す製造法Aによって製造できる。

製造法A



「式中、R¹、R²およびmは、前記したと同様の意味を有し；R^{1a}は、アルケニル基以外のR¹と同様の基を；R^{2a}は、アルケニル基以外のR²と同様の基を；R¹²は、水素原子、ヒドロキシル基または低級アルコキシ基を；X⁵は、脱離基を、
5 それぞれ示す。」

脱離基としては、例えば、ハロゲン原子、低級アルキルスルホニルオキシ基およびアリールスルホニルオキシ基などが挙げられる。

(A-1) 一般式 [13] の化合物を、通常の炭素鎖延長反応に付すことにより、一般式 [14a] の化合物を製造することができる。

10 この反応は、自体公知の方法、例えば、実験化学講座、第22巻、日本化学会編、第54～68頁(1992年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。具体的には、炭素鎖延長反応としては、例えば、ウィティッヒ(Wittig)反応、ウィティッヒー・ホーナー(Wittig-Horner)反応などが挙げられる。

(A-2) 一般式 [14a] の化合物を、通常の還元反応に付すことにより、一般式 [2a] の化合物を製造することができる。

この還元反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第15巻、[II]、日本化学会編、第29～244頁(1977年、丸善)に記載されている方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

(A-3) 一般式 [14a] の化合物を、通常の接触水素添加反応に付すことにより、一般式 [15a] の化合物を製造することができる。

この水素添加反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第15巻、[II]、日本化学会編、第333～448頁(1977年、丸善)に記載されている方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

(A-4) 別法として、一般式[13]の化合物を、通常の炭素伸長反応に付すことにより、一般式[15a]の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、実験化学講座、第21巻、日本化学会編、第124～133頁(1992年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。具体的には、炭素鎖延長反応としては、例えば、ウィティッヒ(Wittig)反応などが挙げられる。

(A-5) 一般式[16a]の化合物を、通常のシアノ化反応に付すことにより、一般式[17a]の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第14巻、[III]、日本化学会編、第1428～1484頁(1977年、丸善)に記載されている方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

(A-6) 一般式[17a]の化合物を、通常の加水分解反応、アルコリシスによるエステル化または水素化ジイソブチルアルミニウムなどの金属水素化物による還元に付すことにより、一般式[15a]の化合物を製造することができる。

これらの反応は、自体公知の方法、例えば、実験化学講座、第22巻、日本化学会編、第1～83頁(1992年、丸善)および実験化学講座、第21巻、日本化学会編、第72～97頁(1992年、丸善)に記載されている方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

(A-7) 一般式[15a]の化合物を、通常の還元反応に付すことにより、一般式[2a]の化合物を製造することができる。

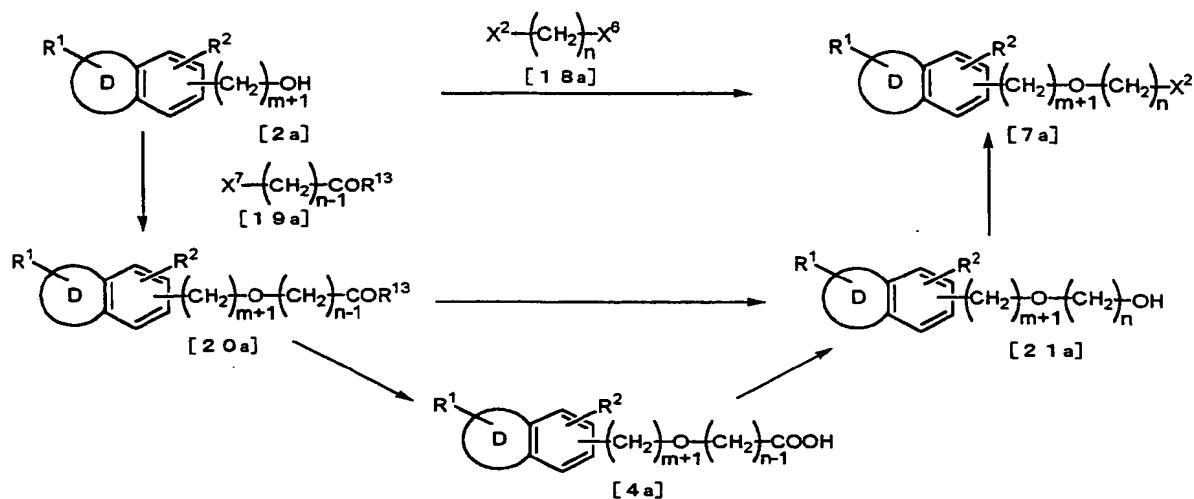
この還元反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第15巻、[II]、日本化学会編、第29～244頁(1977年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

さらに、一般式[15a]の化合物の内、R¹²が水素である化合物を原料として、(A-1)、(A-3)および(A-4)の反応を繰り返すことにより炭素鎖の長

い一般式 [2a] の化合物を製造することができる。

一般式 [4a] および [7a] の化合物は、自体公知の方法またはそれらを適宜組み合わせることによって、例えば、以下に示す製造法Bによって製造できる。

製造法B



- 5 「式中、R¹、R²、mおよびnは、前記したと同様の意味を有し；R¹³は、低級アルコキシ基、ジアルキルアミノもしくは環状アミノ基を；X⁶およびX⁷は、ハロゲン原子を、それぞれ示す。」

環状アミノ基とは、ピロリジニル、ピペリジニル、モルホリル、チオモルホリルなどの該環を形成する異項原子として一つの窒素原子を含み、さらに一つ以上の酸素原子または硫黄原子を含んでもよい5員、6員もしくは7員環の環状アミノ基を意味する。

(B-1) 一般式 [2a] の化合物を、一般式 [18a] の化合物と反応させ、一般式 [7a] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法1と同様の方法で実施すればよい。

15 (B-2) 一般式 [2a] の化合物を一般式 [19a] の化合物と、塩基の存在下に反応させ、一般式 [20a] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第14巻、[I]、日本化学会編、第567～611頁(1977年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

塩基としては、例えば、トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン、1,8-ジアザビシクロ[5.4.0]ウンデク-7-エン、ピリジン、水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、炭酸カリウム、水素化ナトリウム、金属ナトリウム、リチウムジイソプロピルアミド、n-ブチルリチウムおよびtert-ブトキシカリウムなどの有機
5 塩基または無機塩基が挙げられる。

この反応で使用される溶媒としては、例えば、水；塩化メチレンおよびクロロホルムなどのハロゲン化炭化水素類；テトラヒドロフランおよびジオキサンなどのエーテル類；ベンゼン、トルエンおよびキシレンなどの芳香族炭化水素類；ジメチルスルホキシドなどのスルホキシド類；N,N-ジメチルホルムアミドなどのアミド類；酢酸エチルなどのエステル類；アセトンおよびメチルエチルケトンなどのケトン類；アセトニトリルなどのニトリル類；tert-ブタノールなどの三級アルコール類；並びにピリジンなどのヘテロ芳香族類などが挙げられ、これらの溶媒は、混合して使用してもよい。

一般式 [19a] の化合物および塩基の使用量は、一般式 [2a] の化合物に対して、
15 それぞれ、等モル以上用いればよく、好ましくは、1~20 倍モルである。

この反応は通常、-50~200°C、好ましくは、0~150°Cで、10 分~20 時間実施すればよい。

(B-3) 一般式 [20a] の化合物を、通常のエステルもしくはアミドの加水分解反応に付すことにより、一般式 [4a] の化合物を製造することができる。

20 この反応は、自体公知の方法、例えば、プロテクティブ・グループス・イン・オーガニック・シンセシス(Protective Groups in Organic Synthesis)、[セオドラ・ダブリュー・グリーン(Theodra W. Green)(1981年)、ジョン・ウィリー・アンド・サンズ・インコーポレーテッド(John Wiley & Sons. Inc.)]に記載されている方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

25 (B-4) 一般式 [4a] の化合物または一般式 [20a] の化合物を、通常の還元反応に付すことにより、一般式 [21a] の化合物を製造することができる。

この還元反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第15巻、第26~244頁(1977年、丸善)に記載されている方法またはそれに準じた方法で実施

すればよい。

(B-5) 一般式 [21a] の化合物に、ハロゲン化剤またはスルホニル化剤を、塩基の存在下または非存在下で反応させることにより、一般式 [7a] の化合物を製造することができる。

5 この反応で使用される溶媒としては、例えば、塩化メチレンおよびクロロホルムなどのハロゲン化炭化水素類；テトラヒドロフランおよびジオキサンなどのエーテル類；ベンゼン、トルエンおよびキシレンなどの芳香族炭化水素類；ジメチルスルホキシドなどのスルホキシド類；N,N-ジメチルホルムアミドなどのアミド類；酢酸エチルなどのエステル類；並びにアセトニトリルなどのニトリル類など
10 が挙げられ、これらの溶媒は、混合して使用してもよい。

また、必要に応じて用いられる塩基としては、例えば、トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン、1,8-ジアザビシクロ[5.4.0]ウンデク-7-エン、ピリジン、tert-ブトキシカリウム、炭酸ナトリウム、炭酸カリウムおよび水素化ナトリウムなどの有機または無機塩基が挙げられる。

15 ハロゲン化剤としては、例えば、オキシ塩化リン、オキシ臭化リン、三塩化リン、五塩化リンおよび塩化チオニルなどが挙げられる。

スルホニル化剤としては、例えば、メタンスルホニルクロリドおよびp-トルエンスルホニルクロリドなどが挙げられる。

ハロゲン化剤またはスルホニル化剤および塩基の使用量は、一般式 [21a] の化合物に対して、それぞれ、等モル以上用いればよく、好ましくは、1~2倍モルである。
20

この反応は、通常、-50~200°C、好ましくは、0~50°Cで、10分~30時間実施すればよい。

上記の製造法AおよびBにおいて、一般式 [13]、[14a]、[15a]、[16a]、[17a]、
25 [2a]、[4a]、[19a]、[20a] および [21a] の化合物は、塩として用いることもでき、それらの塩としては、一般式 [1] の化合物の塩と同様の塩が挙げられる。

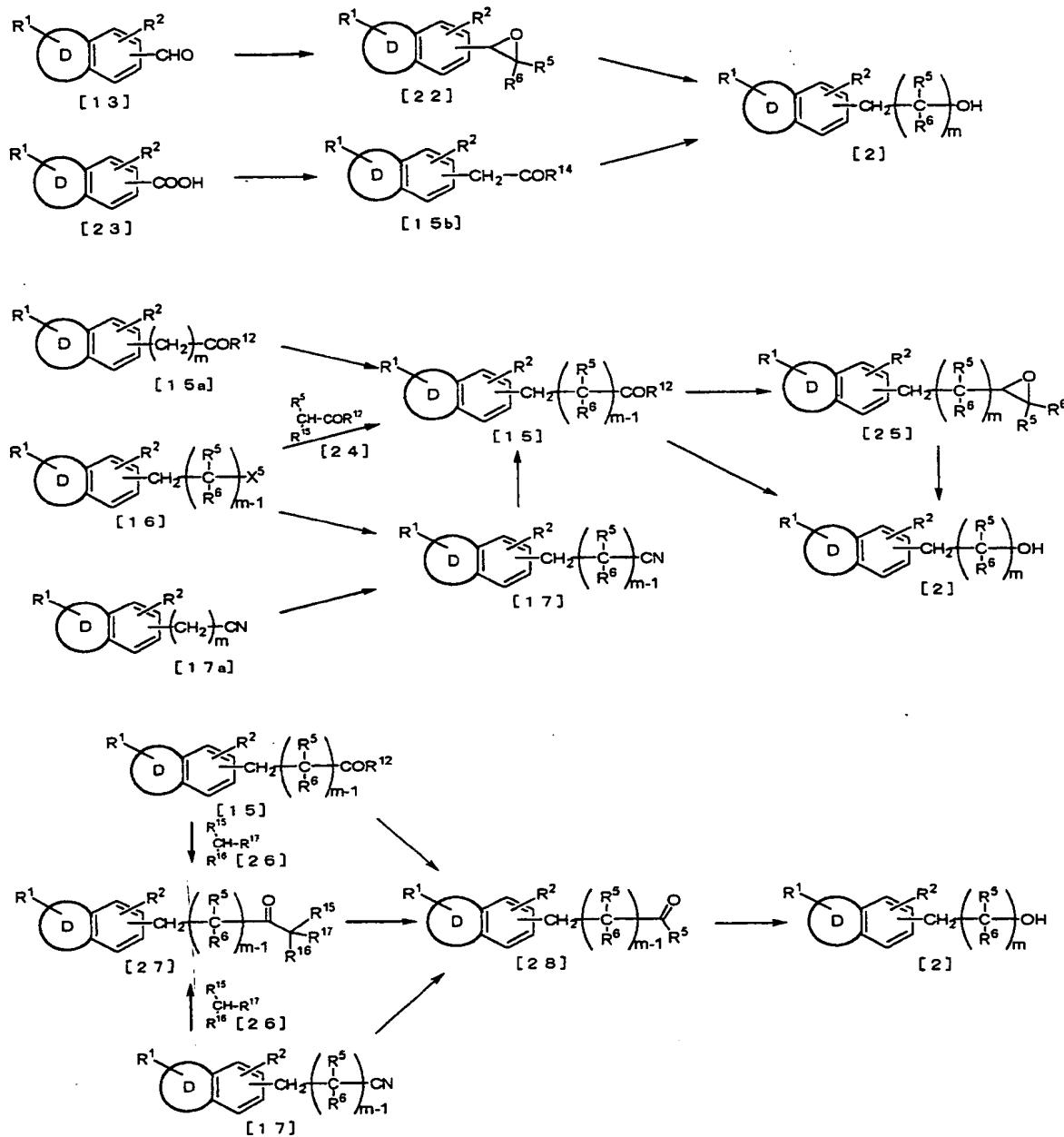
上で述べた製造法AおよびBにおいて、一般式 [13]、[14a]、[15a]、[16a]、
[17a]、[2a]、[4a]、[19a]、[20a] および [21a] の化合物に、異性体（例えば、光学異性体、幾何異性体および互変異性体など）が存在する場合、これらす

べての異性体を使用することができ、また水和物、溶媒和物およびすべての結晶形を使用することができる。

さらに、一般式 [13]、[14a]、[15a]、[16a]、[17a]、[2a]、[4a]、[19a]、[20a] および [21a] の化合物において、ヒドロキシル基、アミノ基またはカルボキシル基を有する化合物は、予めこれらのヒドロキシル基、アミノ基またはカルボキシル基を通常の保護基で保護しておき、反応後、必要に応じて自体公知の方法でこれらの保護基を脱離することができる。

一般式 [2] の化合物は、自体公知の方法またはそれらを適宜組み合わせることによって、例えば、以下に示す製造法 C によって製造できる。

製造法C



「式中、 R^1 、 R^2 、 R^5 、 R^6 、 R^{12} 、 m および X^5 は、前記したと同様の意味を有し； R^{14} は、低級アルコキシ基を； R^{15} は、水素原子、低級アルキル基または低級アルコキシカルボニル基を； R^{16} は、シアノ基または低級アルコキシカルボニル基を； R^{17} は、水素原子、シアノ基、カルボキシル基または低級アルコキシカルボニル基を、それぞれ示す。」

(C-1) 一般式 [13] の化合物を、通常のエポキシ化反応に付すことにより、一般式 [22] の化合物を製造することができる。

このエポキシ化反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第14巻、[I]、日本化学会編、第593～607頁(1977年、丸善)に記載されている方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

(C-2) 一般式 [22] の化合物を、通常の還元反応に付すことにより、一般式 [2] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第15巻、[II]、日本化学会編、第227～228頁(1977年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

(C-3) 一般式 [23] の化合物を、通常の炭素鎖延長反応に付すことにより、一般式 [15b] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第14巻、[II]、日本化学会編、第1031～1032頁(1977年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。具体的には、炭素鎖延長反応としては、例えば、アルントーアイステルト(Arndt-Eistert)反応などが挙げられる。

(C-4) 一般式 [15b] の化合物を、通常の還元反応または有機金属化合物の付加反応に付すことにより、一般式 [2] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第14巻、[I]、日本化学会編、第474～477頁および第512～520頁(1977年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

(C-5) 一般式 [15a] の化合物を、通常のアルキル化反応に付すことにより、一般式 [15] の化合物に誘導することができる。

このアルキル化反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第14巻、[II]、日本化学会編、第637～1062頁(1977年、丸善)に記載されている方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

(C-6) 別法として、一般式 [16] の化合物を、一般式 [24] の化合物と反応することにより、一般式 [15] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第14巻、[II]、日本化学会編、第637～1062頁(1977年、丸善)に記載されている方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

この反応において、反応後、必要に応じて自体公知の方法で、加水分解および
5 脱炭酸反応を行ってもよい。

(C-7) 一般式[16]の化合物を、通常のシアノ化反応に付すことにより、一般式[17]の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、(A-5)と同様の方法で実施すればよい。

(C-8) 別法として、一般式[17a]の化合物を、通常のアルキル化反応に付す
10 ことにより、一般式[17]の化合物を誘導することができる。

このアルキル化反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第14巻、
[III]、日本化学会編、第1447～1448頁(1977年、丸善)に記載されている方法ま
たはそれに準じた方法で実施すればよい。

(C-9) 一般式[17]の化合物を、通常の加水分解反応、アルコリシスによる
15 エステル化または水素化ジイソブチルアルミニウムなどの金属水素化物による還
元に付すことにより、一般式[15]の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、(A-6)と同様の方法で実施すればよい。

(C-10) 一般式[15]の内、R¹²が水素原子の化合物を、通常のエポキシ化
反応に付すことにより、一般式[25]の化合物を製造することができる。

20 この反応は、自体公知の方法、例えば、(C-1)と同様の方法で実施すればよい。

(C-11) 一般式[25]の化合物を、通常の還元反応または有機金属化合物の
開環反応に付すことにより、一般式[2]の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第15巻、[I]、日本
化学会編、第478～481頁および第524～529頁(1977年、丸善)に記載の方法また
25 はそれに準じた方法で実施すればよい。

(C-12) 一般式[15]の化合物を、通常の還元反応または有機金属化合物の
付加反応に付すことにより、一般式[2]の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、(C-4)と同様の方法で実施すればよい。

(C-13) 一般式 [15] の内、R¹²がヒドロキシル基または低級アルコキシ基の化合物を、R¹²がヒドロキシル基の場合は反応性誘導体に誘導した後、一般式 [26] の化合物と縮合反応させることにより、一般式 [27] の化合物を製造することができる。

5 この反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第15巻、[II]、日本化学会編、第767～775頁および第794～796頁(1977年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

(C-14) 一般式 [17] の化合物を、一般式 [26] の化合物と縮合反応させることにより、一般式 [27] の化合物を製造することができる。

10 この反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第15巻、[II]、日本化学会編、第808～811頁(1977年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

(C-15) 一般式 [27] の化合物を、通常の加水分解後、脱炭酸反応に付すことにより、一般式 [28] の化合物を製造することができる。

15 この反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第15巻、[II]、日本化学会編、第808～811頁(1977年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

(C-16) 別法として、一般式 [15] の内、R¹²がヒドロキシル基または低級アルコキシ基の化合物を、通常の還元反応または有機金属化合物の付加反応に付すことにより、一般式 [28] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第15巻、[II]、日本化学会編、第656～662頁および第775～792頁(1977年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

(C-17) 一般式 [17] の化合物を、通常の還元反応または有機金属化合物の付加反応に付すことにより、一般式 [28] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第15巻、[II]、日本化学会編、第652～656頁および第808～810頁(1977年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

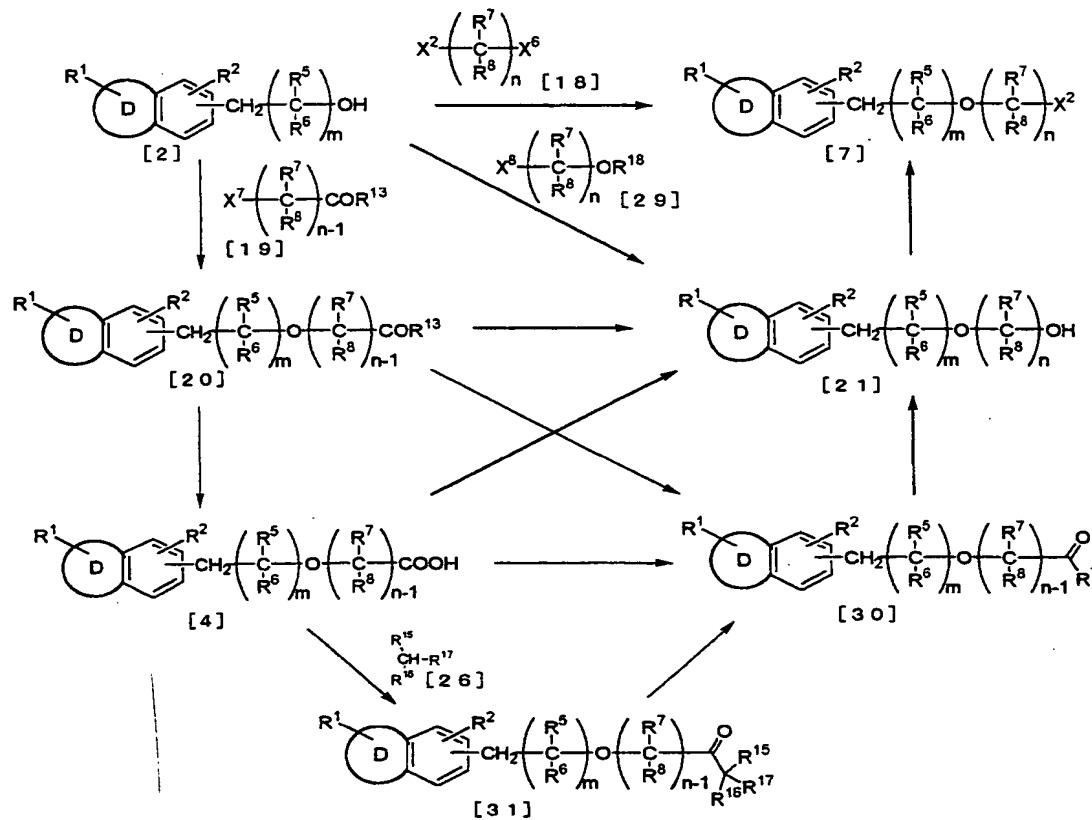
(C-18) 一般式 [28] の化合物を、通常の還元反応または有機金属化合物の付加反応に付すことにより、一般式 [2] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、(C-4)と同様の方法で実施すればよい。

一般式 [4] および [7] の化合物は、自体公知の方法またはそれらを適宜組み

5 合わせることによって、例えば、以下に示す製造法Dによって製造できる。

製造法D



「式中、 R^1 、 R^2 、 R^5 、 R^6 、 R^7 、 R^8 、 R^{13} 、 R^{15} 、 R^{16} 、 R^{17} 、 X^2 、 X^6 、 X^7 、 m および n は、前記したと同様の意味を有し； R^{18} は、塩基性で反応しないヒドロキシル保護基を； X^8 は、ハロゲン原子を、それぞれ示す。」

10 塩基性で反応しないヒドロキシル保護基としては、例えば、tert-ブチルなどの低級アルキル基；アリルなどの低級アルケニル基；ベンジル、p-メトキシベンジル、3,4-ジメトキシベンジル、ジフェニルメチルおよびトリチルなどのアルー低級アルキル基；テトラヒドロフリル、テトラヒドロピラニルおよびテトラヒドロチオピラニルなどの含酸素および含硫黄複素環式基；メトキシメチル、2-(トリメ

チルシリル)エトキシメチル、および 1-メチル-1-メトキシエチルなどの低級アルコキシ-低級アルキル基；並びに tert-ブチルジメチルシリルおよびジフェニルメチルシリルなどの置換シリル基などが挙げられる。

(D-1) 一般式 [2] の化合物を一般式 [18] の化合物と反応させ、一般式 [7] 5 の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法 1 と同様の方法で実施すればよい。

(D-2) 一般式 [2] の化合物を一般式 [29] の化合物と反応させ、保護基を脱離することにより、一般式 [21] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法 1 と同様の方法で実施し、保護 10 基を脱離すればよい。

(D-3) 一般式 [2] の化合物を一般式 [19] の化合物と、塩基の存在下に反応させ、一般式 [20] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法 5 (1) と同様の方法で実施すればよい。

15 (D-4) 一般式 [20] の化合物を、通常のエステルもしくはアミドの加水分解反応に付すことにより、一般式 [4] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、(B-3) と同様の方法で実施すればよい。

(D-5) 一般式 [4] の化合物または一般式 [20] の化合物を、通常の還元反応または有機金属化合物の付加反応に付すことにより、一般式 [21] の化合物または一般式 [30] 20 の化合物を製造することができる。

この還元反応または有機金属化合物の付加反応は、自体公知の方法、例えば、(C-12) または (C-16) と同様の方法で実施すればよい。

(D-6) 一般式 [4] の化合物を、反応性誘導体に誘導した後、一般式 [26] の化合物と縮合反応させることにより、一般式 [31] の化合物を製造することができる。

25 この反応は、自体公知の方法、例えば、(C-13) と同様の方法で実施すればよい。

(D-7) 一般式 [31] の化合物を、通常の加水分解後、脱炭酸反応に付すことにより、一般式 [30] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、(C-15) と同様の方法で実施すればよい。

(D-8) 一般式 [30] の化合物を、通常の還元反応または有機金属化合物の付加反応に付すことにより、一般式 [21] の化合物を製造することができる。

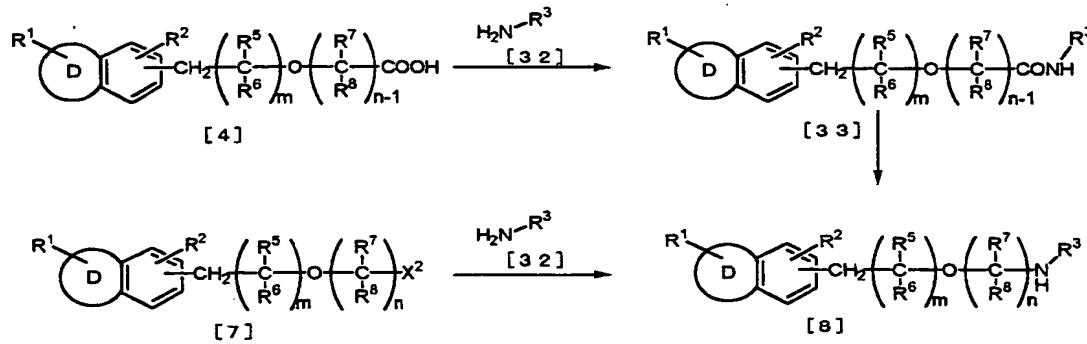
この反応は、自体公知の方法、例えば、(C-4)と同様の方法で実施すればよい。

(D-9) 一般式 [21] の化合物に、ハロゲン化剤またはスルホニル化剤を、塩基の存在下または非存在下で反応させることにより、一般式 [7] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、(B-5)と同様の方法で実施すればよい。

一般式 [8] の化合物は、自体公知の方法またはそれらを適宜組み合わせることによって、例えば、以下に示す製造法Eによって製造できる。

製造法E



10

「式中、R¹、R²、R³、R⁵、R⁶、R⁷、R⁸、X²、mおよびnは、前記したと同様の意味を有する。」

(E-1) 一般式 [4] の化合物またはその反応性誘導体に、一般式 [32] の化合物を反応させることにより、一般式 [33] の化合物を製造することができる。

15 この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法2(1)と同様の方法で実施すればよい。

(E-2) 一般式 [33] の化合物を、通常の還元反応に付すことにより、一般式 [8] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法2(2)と同様の方法で実施すればよい。

(E-3) 塩基の存在下または非存在下、一般式 [7] の化合物に、一般式 [32]

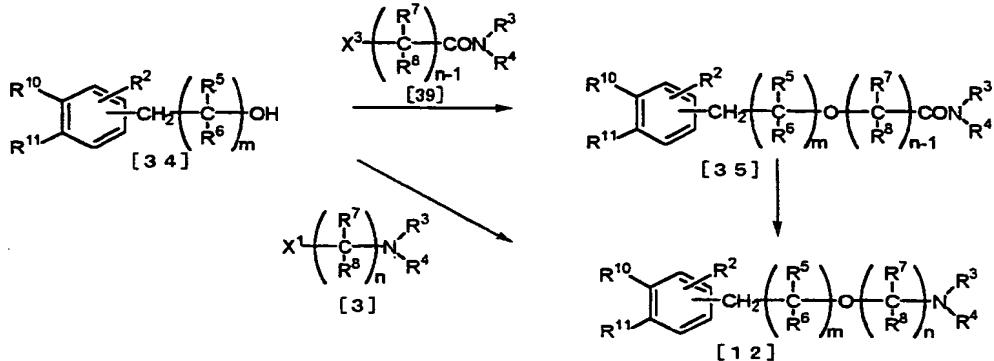
20 の化合物を反応させることにより、一般式 [8] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法3と同様の方法で実施すればよい。

一般式 [12] の化合物は、自体公知の方法またはそれらを適宜組み合わせるこ

とによって、例えば、以下に示す製造法Fによって製造できる。

製造法F



「式中、R²、R³、R⁴、R⁵、R⁶、R⁷、R⁸、R¹⁰、R¹¹、X¹、X³、mおよびnは、前記したと同様の意味を有する。」

- 5 (F-1) 塩基の存在下、一般式[34]の化合物を一般式[39]の化合物と反応させ、一般式[35]の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法5と同様の方法で実施すればよい。

- (F-2) 一般式[35]の化合物を、通常の還元反応に付すことにより、一般式[12]の化合物を製造することができる。

- 10 この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法2(2)と同様の方法で実施すればよい。

- (F-3) 塩基の存在下、一般式[34]の化合物を一般式[3]の化合物と反応させ、一般式[12]の化合物を製造することができる。

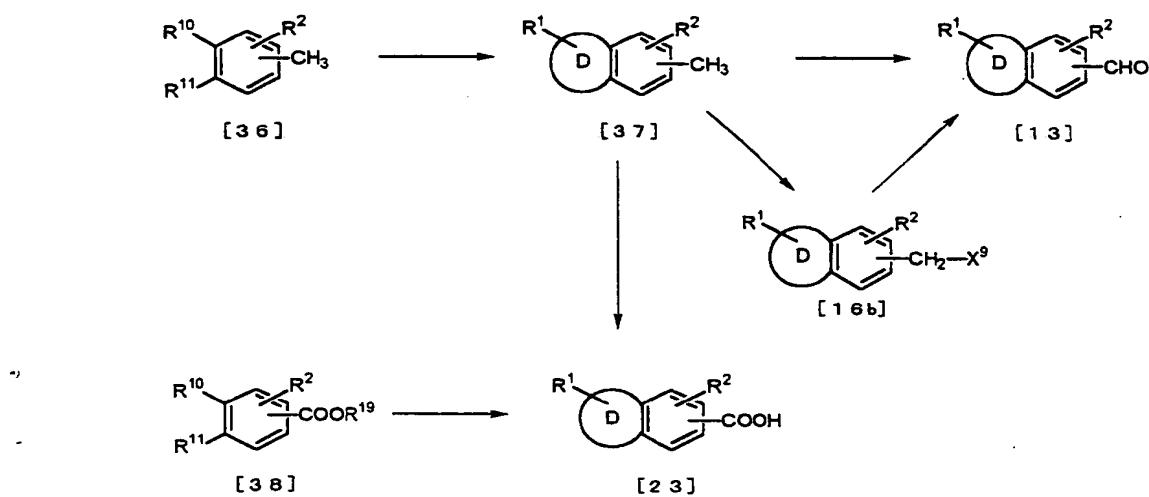
この反応は、自体公知の方法、例えば、製造法1と同様の方法で実施すればよい。

- また、一般式[34]の化合物を原料として、一般式[1]の製造法およびその原料15 の製造法を参考にし、上に述べた以外の方法で一般式[12]の化合物を製造することもできる。

次に、本原料中間体化合物を製造するための原料である一般式[13]および[23]の化合物は、自体公知の方法またはそれらを適宜組み合わせることによって、例えば、以下に示す製造法によって製造できる。

45

製造法G



「式中、R¹、R²、R¹⁰、R¹¹およびDは前記したと同様の意味を有し；R¹⁹は、水素原子もしくはカルボキシル保護基を、X⁹はハロゲン原子を、それぞれ示す。」

(G-1) 一般式 [36] の化合物を、通常の閉環反応に付すことにより、一般式 [37] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、ヘテロ環化合物の化学、第16~80頁(1988年、講談社)および新実験化学講座、第14巻、[IV]、日本化学会編、第1879~2406頁(1977年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

(G-2) 一般式 [37] の化合物を、通常の酸化反応に付すことにより、一般式 [13] または [23] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第14巻、[II]、日本化学会編、第636~643頁および第922~926頁(1977年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

(G-3) 別法として、一般式 [37] の化合物を、通常のハロゲン化反応に付することにより、一般式 [16b] とし、さらに酸化反応に付すことより一般式 [13] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、新実験化学講座、第14巻、[I]、日本化学会編、第331~344頁(1977年、丸善)および新実験化学講座、第14巻、[II]、日本化学会編、第636~643頁(1977年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

(G-4) 一般式 [38] の化合物を、通常の閉環反応に付すことにより、一般式 [23] の化合物を製造することができる。

この反応は、自体公知の方法、例えば、ヘテロ環化合物の化学、第 16~80 頁(1988 年、講談社)および新実験化学講座、第 14 卷、[IV]、日本化学会編、第 1879 5 ~2406 頁(1977 年、丸善)に記載の方法またはそれに準じた方法で実施すればよい。

なお、製造法 G の閉環方法は、例えば、一般式 [2]、[2a]、[15]、[15a]、[15b]、[20]、[20a]、[21] および [21a] などの化合物を製造する場合にも利用することができる。

上記した製造法 C、D、E、F および G において、一般式 [2]、[3]、[4]、[7]、
10 [8]、[12]、[13]、[15]、[15a]、[15b]、[16]、[16b]、[17]、[17a]、[18]、[19]、
[20]、[21]、[22]、[23]、[24]、[25]、[26]、[27]、[28]、[29]、[30]、[31]、
[32]、[33]、[34]、[35]、[36]、[37]、[38] および [39] の化合物は塩として用いることもでき、それらの塩としては、一般式 [1] の化合物の塩と同様の塩が挙げられる。

15 上記した製造法 C、D、E、F および G において、一般式 [2]、[3]、[4]、[7]、
[8]、[12]、[13]、[15]、[15a]、[15b]、[16]、[16b]、[17]、[17a]、[18]、[19]、
[20]、[21]、[22]、[23]、[24]、[25]、[26]、[27]、[28]、[29]、[30]、[31]、
[32]、[33]、[34]、[35]、[36]、[37]、[38] および [39] の化合物に、異性体(例えば、光学異性体、幾何異性体および互変異性体など)が存在する場合、
20 これらすべての異性体を使用することができ、また水和物、溶媒和物およびすべての結晶形を使用することができる。

さらに、一般式 [2]、[3]、[4]、[7]、[8]、[12]、[13]、[15]、[15a]、[15b]、
[16]、[16b]、[17]、[17a]、[18]、[19]、[20]、[21]、[22]、[23]、[24]、[25]、
[26]、[27]、[28]、[29]、[30]、[31]、[32]、[33]、[34]、[35]、[36]、[37]、[38] および [39] の化合物において、ヒドロキシル基、アミノ基またはカルボキシル基を有する化合物は、予めこれらのヒドロキシル基、アミノ基またはカルボキシル基を通常の保護基で保護しておき、反応後、必要に応じて自体公知の方法でこれらの保護基を脱離することができる。

本発明化合物は、賦形剤、結合剤、崩壊剤、崩壊抑制剤、固結・付着防止剤、滑沢剤、吸収・吸着担体、溶剤、增量剤、等張化剤、溶解補助剤、乳化剤、懸濁化剤、増粘剤、被覆剤、吸収促進剤、ゲル化・凝固促進剤、光安定化剤、保存剤、防湿剤、乳化・懸濁・分散安定化剤、着色防止剤、脱酸素・酸化防止剤、矯味・
5 矯臭剤、着色剤、起泡剤、消泡剤、無痛化剤、帯電防止剤、緩衝・pH調節剤などの各種医薬品添加物を配合して、経口剤（錠剤、カプセル剤、散剤、顆粒剤、細粒剤、丸剤、懸濁剤、乳剤、液剤、シロップ剤など）、注射剤、坐剤、外用剤（軟膏剤、貼付剤など）、エアゾール剤などの医薬品製剤とすることができます。

上記各種薬剤は、通常の方法により製剤化される。

- 10 錠剤、散剤、顆粒剤などの経口用固体製剤は、例えば、乳糖、白糖、塩化ナトリウム、ブドウ糖、デンプン、炭酸カルシウム、カオリン、結晶セルロース、無水第二リン酸カルシウム、部分アルファ化デンプン、コーンスタークおよびアルギン酸などの賦形剤；単シロップ、ブドウ糖液、デンプン液、ゼラチン溶液、ポリビニルアルコール、ポリビニルエーテル、ポリビニルピロリドン、カルボキシメチルセルロース、セラック、メチルセルロース、エチルセルロース、アルギン酸ナトリウム、アラビアゴム、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、水およびエタノールなどの結合剤；乾燥デンプン、アルギン酸、かんてん末、デンプン、架橋ポリビニルピロリドン、架橋カルボキシメチルセルロースナトリウム、カルボキシメチルセルロースカルシウムおよびデン
15 プングリコール酸ナトリウムなどの崩壊剤；ステアリルアルコール、ステアリン酸、カカオバターおよび水素添加油などの崩壊抑制剤；ケイ酸アルミニウム、リン酸水素カルシウム、酸化マグネシウム、タルク、無水ケイ酸などの固結防止・付着防止剤；カルナバロウ、軽質無水ケイ酸、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸マグネシウム、硬化油、硬化植物油誘導体、胡麻油、サラシミツロウ、酸化チタン、
20 乾燥水酸化アルミニウムゲル、ステアリン酸、ステアリン酸カルシウム、ステアリン酸マグネシウム、タルク、リン酸水素カルシウム、ラウリル硫酸ナトリウムおよびポリエチレングリコールなどの滑沢剤；第4級アンモニウム塩、ラウリル硫酸ナトリウム、尿素および酵素などの吸収促進剤；デンプン、乳糖、カオリン、

ベントナイト、無水ケイ酸、含水二酸化ケイ素、メタケイ酸アルミニ酸マグネシウムおよびコロイド状ケイ酸などの吸収・吸着担体などの固形製剤化用医薬用添加物を用い、常法に従い調製すればよい。

さらに錠剤は、必要に応じ、通常の剤皮を施した錠剤、例えば、糖衣錠、ゼラチン被包錠、胃溶性被覆錠、腸溶性被覆錠および水溶性フィルムコーティング錠とすることができる。

カプセル剤は、上記で例示した各種の医薬品と混合し、硬質ゼラチンカプセルおよび軟質カプセルなどに充填して調製される。

また、溶剤、增量剤、等張化剤、溶解補助剤、乳化剤、懸濁化剤、増粘剤などの上記した各種の液体製剤化用添加物を用い、常法に従い調製して、水性または油性の懸濁液、溶液、シロップおよびエリキシル剤とすることもできる。

坐剤は、例えば、ポリエチレングリコール、カカオ脂、ラノリン、高級アルコール、高級アルコールのエステル類、ゼラチン、半合成グリセライドおよびウイップソールなどに適当な吸収促進剤を添加し調製すればよい。

注射剤は、例えば、水、エチルアルコール、マクロゴール、プロピレングリコール、クエン酸、酢酸、リン酸、乳酸、乳酸ナトリウム、硫酸および水酸化ナトリウムなどの希釈剤；クエン酸ナトリウム、酢酸ナトリウムおよびリン酸ナトリウムなどのpH調整剤および緩衝剤；ピロ亜硫酸ナトリウム、エチレンジアミン四酢酸、チオグリコール酸およびチオ乳酸などの安定化剤；食塩、ブドウ糖、マンニトールまたはグリセリンなどの等張化剤；カルボキシメチルセルロースナトリウム、プロピレングリコール、安息香酸ナトリウム、安息香酸ベンジル、ウレタン、エタノールアミン、グリセリンなどの溶解補助剤；グルコン酸カルシウム、クロロブタノール、ブドウ糖、ベンジルアルコールなどの無痛化剤；および局所麻酔剤などの液体製剤化用の医薬品添加物を用い、常法に従い調製すればよい。

ペースト、クリームおよびゲル形態の軟膏剤は、例えば、白色ワセリン、ポリエチレン、パラフィン、グリセリン、セルロース誘導体、ポリエチレングリコール、シリコンおよびベントナイトなどの基剤；パラオキシ安息香酸メチル、パラオキシ安息香酸エチル、パラオキシ安息香酸プロピルなどの保存剤；安定剤；湿

潤剤などの医薬品添加物を用い、常法により混合、製剤化すればよい。

貼付剤を製造する場合には、通常の支持体に上記軟膏、クリーム、ゲルまたはペーストなどを常法により塗布すればよい。支持体としては、綿、スフおよび化学繊維からなる織布または不織布；軟質塩化ビニル、ポリエチレンおよびポリウ

5 レタンなどのフィルムまたは発泡体シートが使用できる。

上記製剤の投与方法は、特に限定されないが、製剤の形態、患者の年齢、性別その他の条件、患者の症状の程度に応じて適宜決定される。

本発明製剤の有効成分の投与量は、用法、患者の年齢、性別、疾患の形態、その他の条件などに応じて適宜選択されるが、通常成人に対して 1 日 0.1～500mg

10 を 1 回から数回に分割して投与すればよい。

次に、本発明の代表的化合物の薬理作用について述べる。

[抗ハイポキシア作用]

一群 6～10 匹の dd Y 系雄マウス(5～6 週齢)に、蒸留水に溶解させた試験化合物 100mg/kg を経口投与する。投与 30 分後に、マウスを 300mL のガラス容器に入れ、このガラス容器に 4%酸素および 96%窒素からなる混合気体を 5L/分で通気し、通気開始からマウスが死亡するまでの時間を測定した。

対照群には、蒸留水のみを経口投与した。試験化合物の抗ハイポキシア作用は、次式より求めた。

$$\text{(投与群マウスの生存時間)} \div \text{(対照群マウスの生存時間)} \times 100(\%)$$

20 その結果、抗ハイポキシア作用は、実施例 10 の化合物 : 170%、実施例 13 の化合物 : 160%、実施例 16 の化合物 : 158%、実施例 20 の化合物 : 155%、実施例 31 の化合物 : 248%、実施例 49 の化合物 : 173%、実施例 53 の化合物 : 200%、実施例 68 の化合物 : 202%、実施例 70 の化合物 : 213%、実施例 76 の化合物 : 194%、実施例 101 の化合物 : 187%、実施例 102 の化合物 : 210%、実施例 144 の化合物 : 250%、
25 実施例 158 の化合物 : 179% であった。

[神経再生促進作用]

試験は、エクスペリメンタル・ニューロロジー(Experimental Neurology)、第 1 40 卷、第 198 頁(1996)に記載の方法に準じて行った。

S D 系ラット(雄 6 週齢、体重 160~200g)をペントバルビタール麻酔し、大腿上部筋組織から筋纖維に傷害を与えないよう注意しながら、左側の坐骨神経を露出し、周辺組織から剥離した。

坐骨神経の分岐部より約 10mm、中枢部において幅 1.5mm にわたり接触面を平滑 5 にした持針器を用いて 90 秒間圧挫した。圧挫部位は、神経鞘の端に糸でマーキングし手術部位を縫合した。圧挫 1 時間後に生理食塩水で溶解した試験化合物を 10 mg/kg の用量で腹腔内投与し、以後 5 日間 1 日 2 回同様に投与した。

手術後 6 日目にペントバルビタール麻酔下にて、再度手術部位を開き、坐骨神経を露出し、圧挫部位の約 25mm 遠位部よりピンセットを接触させた。反射反応の出現 10 するまで徐々に圧挫部位の方向へ移動し、反応が生じた部位と圧挫部位との間隔を測定し再生距離とした。対照群には生理食塩水のみを投与した。

試験化合物の坐骨神経再生率は、次式より算出した。

$$(投与群の再生距離) \div (対照群の再生距離) \times 100 (\%)$$

その結果、坐骨神経再生率は、実施例 10 の化合物：117%、実施例 16 の化合物： 15 115%、実施例 27 の化合物：126%であった。

[A_β によって誘起される神経細胞死を抑制する作用]

A_β による培養神経細胞死に対する抑制効果は、ブレイン・リサーチ(Brain Research)、第 639 卷、第 240 頁(1994 年)に記載の方法に改変を加えて行なった。

Wistar 系ラットの胎仔の脳(胎齢 17~19 日)より摘出した大脳皮質を細切後、 20 トリプシン処理により神経細胞を解離した。細胞を 48 穴組織培養プレートの 1 ウエル当たり 1×10^5 個づつ播種し、B27 添加物(GIBCO BRL 社)および 3.6mg/mL グルコースを補足したダルベッコ改変イーグル培地下において、5%炭酸ガス、37℃ の条件下で培養を行った。

培養 12~13 日目に終濃度 25mmol/L となるように塩化カリウム溶液を添加後、 25 直ちに薬剤を添加した。薬剤添加 24 時間後に蒸留水に溶解した A_β (25~35 残基ペプチド)を終濃度 20 μmol/L となるように添加した。A_β 添加 24 時間後に、B2 7 添加物および 3.6mg/mL グルコースを補足したダルベッコ改変イーグル培地に被検化合物を添加した培地で培地交換した。

培養神経細胞死に対する薬剤の抑制作用は、MTT還元能の低下抑制作用を指標とした。すなわち、培地交換の48時間後にモスマンにより開発されたMTT assay [ジャーナル・オブ・イムノロジカル・メソッズ(Journal of Immunological Methods)、第65巻、第55頁(1983)]を行い、A_βによって誘起されたMTT assay 値の減少に対する薬剤の抑制率(%)を計算した。

$$\text{抑制率} = [(A\beta + \text{薬剤添加群の MTT assay 値}) - (A\beta \text{ 添加群の MTT assay 値})] \\ \div [\text{無添加群の MTT assay 値} - A\beta \text{ 添加群の MTT assay 値}] \times 100$$

その結果、0.1μMの濃度において、抑制率は、実施例68の化合物：28%、実施例119の化合物：39%、実施例137の化合物：37%であった。

10 [HNEによって誘起される神経細胞死を抑制する作用]

HNEによる培養神経細胞死に対する保護効果は、ザ・ジャーナル・オブ・ニューロサイエンス(The Journal of Neuroscience)、第17巻、第5089頁(1997年)に記載の方法に改変を加えて行なった。

Wistar系ラットの胎仔の脳(胎齢17~19日)より摘出した大脳皮質を細切後、
15 トリプシン処理により神経細胞を解離した。細胞を48穴組織培養プレートの1
ウエル当たり 5×10^5 個づつ播種し、10%牛胎仔血清および3.6mg/mLグルコースを
補足したダルベッコ改変イーグル培地下において、5%炭酸ガス、37°Cの条件下で
培養を行った。

グリア細胞の増殖を抑えるため培養1日後から終濃度10μmol/Lとなるようシ
20 トシンアラビノシドを添加した。培養2日目に10%牛胎仔血清および3.6mg/mL
グルコースを補足したダルベッコ改変イーグル培地で培地交換した。培養7~8
日後、薬剤を添加し、直ちにHNEを終濃度25μmol/Lとなるように添加した。

培養神経細胞死に対する薬剤の抑制作用は、MTT還元能の低下抑制作用を指
標とした。すなわち、添加24時間後にモスマンにより開発されたMTT assay [ジ
25 ャーナル・オブ・イムノロジカル・メソッズ (Journal of Immunological Methods)、
第65巻、第55頁(1983)]を行い、HNEによって誘起されたMTT assay 値の
減少に対する薬剤の抑制率(%)を計算した。

$$\text{抑制率} = [(HNE + \text{薬剤添加群の MTT assay 値}) - (HNE \text{ 添加群の MTT assay 値})]$$

÷ [無添加群の MTT assay 値 - HNE 添加群の MTT assay 値] ×100

その結果、0.1 μM の濃度において、抑制率は、実施例 10 の化合物：58%、実施例 20 の化合物：69%、実施例 68 の化合物：57%、実施例 76 の化合物：49%、実施例 105 の化合物：31% であった。

5 発明を実施するための最良の方法

次に本発明を実施例および参考例を挙げて説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。

なお、溶離液における混合比は、すべて容量比であり、また、カラムクロマトグラフィーにおける担体は、B.W.シリカゲル、BW-127ZH（富士シリシア化学社製）
10 を、逆層カラムクロマトグラフィーにおける担体は、クロマトレックス-ODS、D
M1020T（富士シリシア化学社製）を用いた。

実施例 1

2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イル-1-エタノール 2.00g をトルエン 2mL と 50% (W/V)
水酸化ナトリウム水溶液 10mL に懸濁させ、この懸濁液に N-(2-クロロエチル)-N,N
15 -ジエチルアミン・塩酸塩 2.51g および硫酸水素テトラ-n-ブチルアンモニウム 0.38
g を加え、1 時間還流する。反応混合物に水およびトルエンを加え、有機層を分取する。
有機層を水、飽和食塩水で順次洗浄後、有機層を無水硫酸マグネシウムで
乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー^(溶離液；クロロホルム：メタノール = 10:1) で精製すれば、油状の N-[2-(2-ベン
20 ゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジエチルアミン 3.10g を得る。

NMR (CDCl₃) δ 値 : 1.01 (6H, t, J=7Hz), 2.55 (4H, q, J=7Hz), 2.65 (2H, t, J=6Hz), 3.00
(2H, t, J=7Hz), 3.55 (2H, t, J=6Hz), 3.70 (2H, t, J=6Hz), 7.21 (1H, dd, J=1, 8Hz), 7.23
(1H, d, J=5Hz), 7.42 (1H, d, J=5Hz), 7.66 (1H, d, J=1Hz), 7.79 (1H, d, J=8Hz)

実施例 2 ~ 9

25 実施例 1 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 2:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジメチルアミ
ン

IR (neat) cm⁻¹: 2940, 2862, 1458, 1116, 1052, 701

NMR (CDCl₃) δ 値 : 2.25 (6H, s), 2.50 (2H, t, J=6Hz), 3.01 (2H, t, J=7Hz), 3.55 (2H, t,
30 J=6Hz), 3.70 (2H, t, J=7Hz), 7.21 (1H, dd, J=1, 8Hz), 7.26 (1H, d, J=5Hz), 7.40 (1H,

d, J=5Hz), 7.65(1H, d, J=1Hz), 7.78(1H, d, J=8Hz)

No. 3:N, N-ジメチル-N-{2-[2-(2-ナフチル)エトキシ]エチル}アミン

IR(neat) cm⁻¹: 2941, 2862, 1458, 1116, 817, 746

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.25(6H, s), 2.50(2H, t, J=6Hz), 3.07(2H, t, J=7Hz), 3.57(2H, t,
5 J=6Hz), 3.75(2H, t, J=7Hz), 7.2-7.6(3H, m), 7.6-8.0(4H, m)

No. 4:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N, N-ジイソプロピ
ルアミン

IR(neat) cm⁻¹: 2965, 1362, 1111, 700

NMR(CDCl₃) δ 値: 0.99(12H, d, J=7Hz), 2.59(2H, t, J=7Hz), 2.98(2H, sept, J=7Hz),
10 2.99(2H, t, J=7Hz), 3.42(2H, t, J=7Hz), 3.70(2H, t, J=7Hz), 7.20(1H, dd, J=1, 8H
z), 7.27(1H, d, J=5Hz), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.67(1H, d, J=1Hz), 7.79(1H, d, J=8Hz)

No. 5:N, N-ジエチル-N-{2-[2-(2-メチルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]
エチル}アミン

IR(neat) cm⁻¹: 2968, 2865, 1114

NMR(CDCl₃) δ 值: 1.01(6H, t, J=7Hz), 2.55(4H, q, J=7Hz), 2.57(3H, s), 2.65(2H, t,
J=6Hz), 2.96(2H, t, J=7Hz), 3.54(2H, t, J=6Hz), 3.68(2H, t, J=7Hz), 6.89(1H, s),
7.09(1H, d, J=8Hz), 7.48(1H, s), 7.64(1H, d, J=8Hz)

No. 6:N, N-ジエチル-N-{2-[2-(6-キノリル)エトキシ]エチル}アミン

IR(neat) cm⁻¹: 2968, 2868, 1501, 1114, 837

NMR(CDCl₃) δ 值: 1.00(6H, t, J=7Hz), 2.55(4H, q, J=7Hz), 2.65(2H, t, J=6Hz), 3.07
20 (2H, t, J=7Hz), 3.66(2H, t, J=6Hz), 3.76(2H, t, J=7Hz), 7.37(1H, dd, J=4, 8Hz), 7.
61(1H, dd, J=1, 8Hz), 7.65(1H, d, J=1Hz), 8.03(1H, d, J=8Hz), 8.09(1H, dd, J=1, 8H
z), 8.87(1H, dd, J=1, 4Hz),

No. 7:N, N-ジエチル-N-{2-[2-(2-ナフチル)エトキシ]エチル}アミン

IR(neat) cm⁻¹: 2966, 1109, 815, 739

NMR(CDCl₃) δ 值: 1.01(6H, t, J=7Hz), 2.55(4H, q, J=7Hz), 2.65(2H, t, J=6Hz), 3.05
25 (2H, t, J=7Hz), 3.56(2H, t, J=6Hz), 3.74(2H, t, J=7Hz), 7.2-7.6(3H, m), 7.6-8.0(4
H, m)

No. 8:N-[2-(2-ベンゾ[b]フラン-5-イルエトキシ)エチル]-N, N-ジメチルアミン

IR(neat) cm⁻¹: 2941, 2862, 2770, 1468, 1112

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.26(6H, s), 2.50(2H, t, J=6Hz), 2.99(2H, t, J=7Hz), 3.56(2H, t, J=6Hz), 3.68(2H, t, J=7Hz), 6.71(1H, dd, J=1, 2Hz), 7.14(1H, dd, J=2, 9Hz), 7.42(1H, d, J=9Hz), 7.44(1H, d, J=2Hz), 7.59(1H, d, J=2Hz)

No. 9:N-[2-(2-ベンゾ[b]フラン-5-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジエチルアミン

5 IR(neat) cm⁻¹: 2967, 2868, 1468, 1111

NMR(CDCl₃) δ 値: 1.01(6H, t, J=7Hz), 2.55(4H, q, J=7Hz), 2.65(2H, t, J=6Hz), 2.97(2H, t, J=7Hz), 3.54(2H, t, J=6Hz), 3.68(2H, t, J=7Hz), 6.70(1H, dd, J=1, 2Hz), 7.12(1H, dd, J=2, 9Hz), 7.41(1H, d, J=9Hz), 7.42(1H, d, J=2Hz), 7.59(1H, d, J=2Hz)

実施例 1 0

10 N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジエチルアミン
3.10gを酢酸エチル20mLに溶解させ、この溶液にシュウ酸1.10gを含む酢酸エチル10mL溶液を加え、室温で2時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジエチルアミン・シュウ酸塩3.10gを得る。

15 融点: 70-71°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3447, 1112, 720

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 1.08(6H, t, J=7Hz), 2.8-3.5(8H, m), 3.72(4H, brt, J=7Hz), 4.9(2H, brs), 7.25(1H, d, J=8Hz), 7.39(1H, d, J=5Hz), 7.73(1H, d, J=5Hz), 7.76(1H, s), 7.92(1H, d, J=8Hz)

20 実施例 1 1 ~ 1 5

実施例 1 0 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 11:N,N-ジエチル-N-{2-[2-(2-ナフチル)エトキシ]エチル}アミン・シュウ酸塩

融点: 67-72°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3425, 1636, 1404, 1113

25 NMR(DMSO-d₆) δ 値: 1.07(6H, t, J=7Hz), 2.8-3.3(8H, m), 3.6-3.9(4H, m), 7.3-7.6(3H, m), 7.7-8.0(4H, m), 8.1(2H, brs)

No. 12:N-[2-(2-ベンゾ[b]フラン-5-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジメチルアミン・シュウ酸塩

融点: 101-103°C

30 IR(KBr) cm⁻¹: 3418, 1470, 1112, 721

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 2.68(6H, s), 2.92(2H, t, J=7Hz), 3.17(2H, t, J=5Hz), 3.6-3.8(4H, m), 6.89(1H, d, J=1Hz), 7.19(1H, dd, J=2, 8Hz), 7.4-7.6(2H, m), 7.94(1H, d, J=2Hz), 9.1(2H, brs)

No. 13:N-[2-(2-ベンゾ[b]フラン-5-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジエチルアミ

5 ノン・シュウ酸塩

融点: 78-82°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3448, 1111, 720

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 1.10(6H, t, J=7Hz), 2.8-3.3(8H, m), 3.6-3.9(4H, m), 6.6(2H, brs), 6.89(1H, d, J=1Hz), 7.19(1H, dd, J=1, 9Hz), 7.51(1H, d, J=9Hz), 7.51(1H, J=2Hz), 7.94(1H, d, J=2Hz)

No. 14:N,N-ジエチル-N-[2-[2-(2-メチルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}アミン・シュウ酸塩

融点: 96-98°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3448, 1224, 1113, 720

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 1.08(6H, t, J=7Hz), 2.54(3H, s), 2.8-3.3(8H, m), 3.6-3.8(4H, m), 7.0-8.0(6H, m)

No. 15:N,N-ジエチル-N-[2-(6-キノリル)エトキシ]エチル}アミン・シュウ酸塩

融点: 90-92°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3422, 2664, 1114, 721

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 1.07(6H, t, J=7Hz), 2.9-3.3(8H, m), 3.6-3.9(4H, m), 7.55(1H, dd, J=4, 8Hz), 7.68(1H, dd, J=1, 8Hz), 7.81(1H, d, J=1Hz), 7.96(1H, d, J=8Hz), 8.38(1H, dd, J=1, 8Hz), 8.4(2H, brs), 8.85(1H, dd, J=1, 4Hz)

実施例 1 6

N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジメチルアミン

2.55gを酢酸エチル12.8mLに溶解させ、この溶液に、2.3mol/L乾燥塩化水素-酢酸エチル溶液5.8mLを加え、室温で1時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジメチルアミン・塩酸塩1.80gを得る。

融点: 116-117°C

IR(KBr) cm⁻¹: 2956, 2690, 1475, 1115, 704

NMR (DMSO-d₆) δ 値: 2.69 (6H, s), 2.96 (2H, t, J=7Hz), 3.21 (2H, t, J=6Hz), 3.71 (2H, t, J=7Hz), 3.78 (2H, t, J=6Hz), 7.28 (1H, d, J=8Hz), 7.40 (1H, d, J=5Hz), 7.73 (1H, d, J=5Hz), 7.76 (1H, s), 7.90 (1H, d, J=8Hz), 10.8 (1H, brs)

実施例 1 7 ~ 1 8

5 実施例 1 6 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 17:N, N-ジメチル-N-{2-[2-(2-ナフチル)エトキシ]エチル}アミン・塩酸塩

融点: 105-107°C

IR (KBr) cm⁻¹: 2686, 1464, 1112

NMR (DMSO-d₆) δ 値: 2.69 (6H, s), 3.02 (2H, t, J=7Hz), 3.22 (2H, t, J=5Hz), 3.76 (2H, t, J=7Hz), 3.78 (2H, t, J=5Hz), 7.3-7.6 (3H, m), 7.7-8.0 (4H, m), 10.4 (1H, brs)

No. 18:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジイソプロピルアミン・塩酸塩

融点: 78-79°C

IR (KBr) cm⁻¹: 3504, 2943, 1118

NMR (DMSO-d₆) δ 値: 1.21 (6H, d, J=7Hz), 1.25 (6H, d, J=7Hz), 2.96 (2H, t, J=7Hz), 3.1-3.9 (8H, m), 7.26 (1H, d, J=8Hz), 7.39 (1H, d, J=5Hz), 7.73 (1H, d, J=5Hz), 7.76 (1H, s), 7.91 (1H, d, J=8Hz), 9.6 (1H, brs)

実施例 1 9

2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル メタンスルホネート 1.89g
20 を N, N-ジメチルホルムアミド 10mL に溶解させ、この溶液に N-ベンジル-N-メチルアミン 0.99g および炭酸カリウム 1.74g を加え、80°C で 3 時間攪拌する。次いで、反応混合物を水および酢酸エチルの混合液中に導入し、有機層を分取する。有機層を水および飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液: クロロホルム: メタノール = 10:1) で精製すれば、油状の N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-ベンジル-N-メチルアミン 2.03g を得る。

IR (neat) cm⁻¹: 2941, 2862, 1678, 1113, 700

NMR (CDCl₃) δ 値: 2.24 (3H, s), 2.61 (2H, t, J=6Hz), 3.00 (2H, t, J=7Hz), 3.53 (2H, s), 3.66 (2H, t, J=6Hz), 3.69 (2H, t, J=7Hz), 7.1-7.5 (8H, m), 7.65 (1H, s), 7.77 (1H, d, J=8Hz)

実施例 2 0

N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-ベンジル-N-メチルアミン2.03gを酢酸エチル20mLに溶解させ、この溶液にシュウ酸0.65gを含む酢酸エチル10mL溶液を加え、室温で2時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗5 淨した後、乾燥すれば、N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-ベンジル-N-メチルアミン・シュウ酸塩1.98gを得る。

融点: 136-137°C

IR(KBr) cm^{-1} : 3446, 1404, 1118

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 2.49(3H, s), 2.8-3.1(4H, m), 3.6-3.8(4H, m), 4.02(2H, s), 5.0
10 (2H, brs), 7.2-8.0(10H, m)

実施例 2 1

2-[2-(1,3-ベンゾジオキソール-5-イル)エトキシ]エチル メタンスルホネート
1.00gをN,N-ジメチルホルムアミド3mLに溶解させ、この溶液にジエチルアミン2.
54gを加え、封管中100°Cで2時間攪拌する。冷却後、反応混合物を水および酢酸エ
15 チルの混合液中に導入し、2mol/L塩酸でpH1.0に調整した後、水層を分取する。分
取した水層に酢酸エチルを加え、炭酸ナトリウムでpH9.5に調整した後、有機層を
分取する。有機層を水および飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで
乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液;
20 クロロホルム:メタノール=20:1~10:1)で精製すれば、油状のN-[2-[2-(1,3-ベンゾジオキソール-5-イル)エトキシ]エチル]-N,N-ジエチルアミン0.75g
を得る。

IR(neat) cm^{-1} : 2968, 1490, 1247, 1112, 1042

NMR(CDCl₃) δ 値: 1.02(6H, t, J=7Hz), 2.52(4H, q, J=7Hz), 2.64(2H, t, J=6Hz), 2.76
25 (2H, t, J=7Hz), 3.52(2H, t, J=6Hz), 3.60(2H, t, J=7Hz), 5.91(2H, s), 6.70(3H, brs)

実施例 2 2 ~ 2 4

実施例 2 1と同様にして以下の化合物を得る。

No. 22:N-[2-[2-(1,3-ベンゾジオキソール-5-イル)エトキシ]エチル]-N,N-ジメチルアミン

IR(neat) cm^{-1} : 2864, 2771, 1490, 1247, 1115, 1041

30 NMR(CDCl₃) δ 値: 2.26(6H, s), 2.49(2H, t, J=6Hz), 2.81(2H, t, J=7Hz), 3.53(2H, t,

$J=6\text{Hz}$), 3.61(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 5.91(2H, s), 6.71(3H, s)

No. 23:N, N-ジメチル-N-{2-[2-(2-フェニルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}アミン

No. 24:N, N-ジエチル-N-{2-[2-(2-フェニルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]

5 エチル}アミン

実施例 2 5

N-{2-[2-(1,3-ベンゾジオキソール-5-イル)エトキシ]エチル}-N, N-ジエチルアミン0.75gを酢酸エチル3.8mLに溶解させ、この溶液に2.3mol/L乾燥塩化水素-酢酸エチル溶液1.6mLを加え、室温で1時間、さらに5°Cで1時間攪拌する。析出晶を10 濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、N-{2-[2-(1,3-ベンゾジオキソール-5-イル)エトキシ]エチル}-N, N-ジエチルアミン・塩酸塩0.67gを得る。

融点:83-84°C

IR(KBr) cm^{-1} : 3434, 1490, 1248

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 1.16(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.74(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.0-3.3(6H, m), 3.5-15 3.8(4H, m), 5.95(2H, s) 6.7-6.9(3H, m), 10.5(1H, brs)

実施例 2 6 ~ 2 7

実施例 2 5 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 26:N, N-ジメチル-N-{2-[2-(2-フェニルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}アミン・塩酸塩

20 融点:170-172°C

IR(KBr) cm^{-1} : 3406, 1118, 758

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.67(3H, s), 2.72(3H, s), 2.8-3.4(4H, m), 3.6-4.1(4H, m), 7.0-8.0(9H, m), 12.4(1H, brs)

No. 27:N, N-ジエチル-N-{2-[2-(2-フェニルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}アミン・塩酸塩

25 融点:131-138°C

IR(KBr) cm^{-1} : 2651, 1450, 1114, 758

NMR(CDCl₃) δ 値: 1.23(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.7-3.4(8H, m), 3.6-4.2(4H, m), 7.0-8.0(9H, m), 11.9(1H, brs)

30 実施例 2 8

N-[2-[2-(1,3-ベンゾジオキソール-5-イル)エトキシ]エチル]-N,N-ジメチルアミン0.66gを酢酸エチル2mLに溶解させ、この溶液にシュウ酸0.25gの酢酸エチル2mL溶液を加え、室温で2時間攪拌する。反応混合物にジイソプロピルエーテル10mLを加え希釈する。析出晶を濾取しジイソプロピルエーテルで洗浄した後、乾燥すれば、N-[2-[2-(1,3-ベンゾジオキソール-5-イル)エトキシ]エチル]-N,N-ジメチルアミン・シュウ酸塩0.76gを得る。

融点:109-112°C

IR(KBr)cm⁻¹:3432, 1490, 1248

NMR(DMSO-d₆) δ 値:2.69(6H, s), 2.75(2H, t, J=4Hz), 3.16(2H, t, J=6Hz), 3.5-3.7
10 (4H, m), 5.96(2H, s), 6.6-6.8(3H, m), 7.4(2H, brs)

実施例29

(1) 2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]酢酸1.00gを塩化メチレン10mLに溶解させ、次いでこの溶液を5°Cに冷却し、オキサリルクロリド0.55gとN,N-ジメチルホルムアミドを0.1mL加え、室温で30分攪拌する。次いで5°C
15 に冷却し、ジエチルアミン0.68gを加え室温で2時間攪拌する。この反応混合物に水を加え、2mol/L塩酸でpH1.0に調整した後、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させ、減圧下に溶媒を留去すれば、油状のN,N-ジエチル-2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]アセトアミド1.24gを得る。

20 NMR(CDCl₃) δ 値:1.10(6H, t, J=7Hz), 3.0-3.6(6H, m), 3.81(2H, t, J=7Hz), 4.14(2H, s), 7.24(1H, d, J=5Hz), 7.37(1H, d, J=5Hz), 7.51(1H, d, J=10Hz), 7.69(1H, d, J=7Hz)
同様にして以下の化合物を得る。

• N,N-ジメチル-2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-7-イルエトキシ)アセトアミド
NMR(CDCl₃) δ 値:2.83(3H, s), 2.88(3H, s), 3.22(2H, t, J=7Hz), 3.92(2H, t, J=7Hz),
25 4.15(2H, s), 7.2-7.5(4H, m), 7.71(1H, dd, J=2, 7Hz)

(2) N,N-ジエチル-2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]アセトアミド1.24gをテトラヒドロフラン20mLに溶解させ、この溶液を5°Cに冷却し、ボラン-テトラヒドロフラン錯体の1mol/Lテトラヒドロフラン溶液7.86mLを滴下する。次いで、室温で2時間攪拌した後、2mol/L塩酸4.00mLを滴下し、30分間還流する。冷却後、反応混合物に水および酢酸エチルを加え、5mol/L水酸化ナトリ

ウム水溶液でpH13に調整した後、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液；クロロホルム：メタノール=30:1～10:1)で精製すれば、油状のN,N-ジエチル-N-[2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}アミン0.90gを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 2968, 2870, 1458, 1256, 1114

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.00(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.55(4H, q, $J=7\text{Hz}$), 2.67(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.02(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.55(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.70(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.23(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.36(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.51(1H, d, $J=10\text{Hz}$), 7.66(1H, d, $J=7\text{Hz}$)

10 実施例 3 0

実施例 2 9 (2) と同様にして以下の化合物を得る。

No. 30:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-7-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジメチルアミン

IR(neat) cm^{-1} : 2863, 1459, 1117, 794

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.25(6H, s), 2.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.20(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.57(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.84(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.0-7.6(4H, m), 7.78(1H, d, $J=7\text{Hz}$)

実施例 3 1

N,N-ジエチル-N-[2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}アミン0.90gを酢酸エチル2.5mLに溶解させ、この溶液にシュウ酸0.27gを含む酢酸エチル2mL溶液を加え、室温で2時間攪拌する。反応混合物にジイソプロピルエーテル10mLを加え希釈する。析出晶を濾取しジイソプロピルエーテルで洗浄した後、乾燥すれば、N,N-ジエチル-N-[2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}アミン・シュウ酸塩0.83gを得る。

融点: 54-62°C

IR(KBr) cm^{-1} : 3446, 1457, 720

NMR(DMSO-d_6) δ 値: 1.08(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.8-3.3(8H, m), 3.5-3.9(4H, m), 7.39(1H, d, $J=6\text{Hz}$), 7.73(1H, d, $J=10\text{Hz}$), 7.78(1H, d, $J=6\text{Hz}$), 7.90(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 8.2(2H, brs)

実施例 3 2

N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-7-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジメチルアミン

0.49gを酢酸エチル2.5mLに溶解させ、この溶液に3.5mol/L乾燥塩化水素-酢酸エ

チル溶液0.73mLを加え、室温で1時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-7-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジメチルアミン・塩酸塩0.44gを得る。

融点:130-132°C

5 IR(KBr)cm⁻¹:2471, 1477, 1123, 713

NMR(DMSO-d₆) δ 値:2.68(6H, s), 3.0-3.6(4H, m), 3.6-4.0(4H, m), 7.2-7.6(3H, m), 7.7-7.9(2H, m), 10.4(1H, brs)

実施例3 3

N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジエチルアミン

10 6.00gをテトラヒドロフラン30mLに溶解させ、この溶液を-60°Cに冷却し、n-ブチルリチウムの1.57mol/Lヘキサン溶液10.6mLを滴下する。同温で1時間攪拌した後、過剰の乾燥炭酸ガスを導入し、室温に昇温し30分間攪拌する。反応混合物に水を加え、2mol/L塩酸でpH7に調整した後、減圧下に溶媒を留去する。得られた残留物を逆層カラムクロマトグラフィー(溶離液;水:メタノール=7:3)で精製し、酢酸エチルで濾取すれば結晶性の5-{2-[2-(ジエチルアミノ)エトキシ]エチル}ベンゾ[b]チオフェン-2-カルボン酸3.66gを得る。

IR(KBr)cm⁻¹:3421, 1616, 1333, 1102

NMR(CDCl₃) δ 値:1.13(6H, t, J=7Hz), 2.6-3.3(4H, m), 2.96(4H, q, J=7Hz), 3.5-4.0(4H, m), 7.18(1H, d, J=7Hz), 7.55(1H, s), 7.67(1H, d, J=7Hz), 7.71(1H, s), 9.8(1H, brs)

実施例3 4

5-{2-[2-(ジエチルアミノ)エトキシ]エチル}ベンゾ[b]チオフェン-2-カルボン酸1.90gをエタノール20mLに溶解させ、この溶液に1.38mol/L乾燥塩化水素-エタノール溶液5.6mLを加え、室温で2時間攪拌する。反応混合物に酢酸エチル20mLを加え希釈する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、5-{2-[2-(ジエチルアミノ)エトキシ]エチル}ベンゾ[b]チオフェン-2-カルボン酸・塩酸塩1.51gを得る。

融点:148-150°C

IR(KBr)cm⁻¹:2949, 1706, 1141, 898, 815

NMR(DMSO-d₆) δ 値:1.13(6H, t, J=7Hz), 2.8-3.3(8H, m), 3.6-3.9(4H, m), 7.43(1H, d, J=8Hz), 7.89(1H, s), 7.97(1H, d, J=8Hz), 8.07(1H, s), 10.6(1H, brs), 13.4(1H, brs)

実施例 3 5

5-{2-[2-(ジエチルアミノ)エトキシ]エチル}ベンゾ[b]チオフェン-2-カルボン酸2.18gをテトラヒドロフラン30mLに溶解させ、この溶液にN,N'-カルボニルジイミダゾール1.98gを加え、室温で1時間攪拌する。次いで、この反応混合物に25%5 アンモニア水50mLを加え、室温で1時間攪拌する。この反応混合物に酢酸エチルを加え、有機層を分取し、水および飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液；クロロホルム：メタノール～クロロホルム：メタノール：アンモニア水=5:1～100:10:1)で精製すれば、無色結晶の5-{2-[2-(ジエチルアミノ)エトキシ]エチル}ベンゾ[b]チオフェン-2-カルボキサミド2.00gを得る。

融点:82-84°C

IR(KBr)cm⁻¹: 3362, 1646, 1608, 1112, 894, 810

NMR(CDCl₃) δ 値: 1.00(6H, t, J=7Hz), 2.56(4H, q, J=7Hz), 2.65(2H, t, J=6Hz), 2.99(2H, t, J=7Hz), 3.55(2H, t, J=6Hz), 3.70(2H, t, J=7Hz), 6.2(2H, brs), 7.31(1H, dd, J=1, 8Hz), 7.67(1H, d, J=1Hz), 7.74(1H, s), 7.77(1H, d, J=8Hz)

実施例 3 6

2-(1-ナフチル)-1-エタノール0.70gをトルエン1mLと50% (W/V)水酸化ナトリウム水溶液3.5mLに懸濁させ、この懸濁液に、N-(2-クロロエチル)-N,N-ジエチルアミン・塩酸塩1.00gおよび硫酸水素テトラn-ブチルアンモニウム0.14gを加え、2.20 5時間還流する。反応混合物に水およびトルエンを加え、有機層を分取する。有機層を水、飽和食塩水で順次洗浄後、有機層を無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液；クロロホルム：メタノール=10:1)で精製すれば、油状のN,N-ジエチル-N-{2-[2-(1-ナフチル)エトキシ]エチル}アミン1.06gを得る。

25 IR(neat)cm⁻¹: 2968, 2871, 1114, 797

NMR(CDCl₃) δ 値: 1.02(6H, t, J=7Hz), 2.56(4H, q, J=7Hz), 2.66(2H, t, J=6Hz), 3.45(2H, t, J=7Hz), 3.56(2H, t, J=6Hz), 3.79(2H, t, J=7Hz), 7.4-7.6(4H, m), 7.7-7.9(2H, m), 8.0-8.1(1H, m)

実施例 3 7～4 8

30 実施例1と同様にして以下の化合物を得る。

No. 37:N, N-ジエチル-N-{2-[2-(6-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}アミン

IR(neat) cm^{-1} : 2968, 2869, 1469, 1245, 1082

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.01(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.55(4H, q, $J=7\text{Hz}$), 2.65(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.00
 5 (2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.55(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.67(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.88(3H, s), 7.25(2H, d, $J=7\text{Hz}$), 7.33(1H, s), 7.59(1H, s)

No. 38:N-{2-[2-(4-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}-N, N-ジメチルアミン

IR(neat) cm^{-1} : 2863, 1464, 1116

10 NMR(CDCl_3) δ 値: 2.25(6H, s), 2.49(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.14(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.80(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 6.90(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.15(1H, dd, $J=5, 8\text{Hz}$), 7.40(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.47(1H, d, $J=5\text{Hz}$)

No. 39:N, N-ジメチル-N-{2-[2-(1-ナフチル)エトキシ]エチル}アミン

IR(neat) cm^{-1} : 2942, 1116, 777

15 NMR(CDCl_3) δ 値: 2.26(6H, s), 2.51(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.39(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.58(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.79(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.3-7.5(4H, m), 7.7-7.9(2H, m), 8.0-8.2(1H, m)

No. 40:N, N-ジメチル-N-{2-[2-(6-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}アミン

IR(neat) cm^{-1} : 1467, 1114, 1045

20 NMR(CDCl_3) δ 値: 2.25(6H, s), 2.50(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.01(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.67(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.87(3H, s), 7.20(2H, s), 7.28(1H, s), 7.59(1H, s)

No. 41:N, N-ジメチル-N-{2-[2-(6-メトキシ-2-ナフチル)エトキシ]エチル}アミン

IR(neat) cm^{-1} : 1608, 1265, 1118

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.25(6H, s), 2.50(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.02(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.72(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.90(3H, s), 7.0-7.4(3H, m), 7.5-7.8(3H, m)

No. 42:N-{2-[2-(4-クロロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}-N, N-ジメチルアミン

IR(neat) cm^{-1} : 2939, 2862, 1116

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.26(6H, s), 2.50(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.17(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.57(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.71(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.26(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.49(2H, s), 7.69(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

No. 43:N-{2-[2-(4-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-イル)エトキシ]エチル}-N,N-ジメチルアミン

IR(neat) cm^{-1} : 2864, 1445, 1117

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.25(6H, s), 2.49(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.05(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.56(2H, t,
5 $J=6\text{Hz}$), 3.70(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.0-7.7(4H, m)

No. 44:N-{2-[2-(6-クロロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}-N,N-ジメチルアミン

IR(neat) cm^{-1} : 2862, 1436, 1116

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.25(6H, s), 2.50(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.14(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.58(2H, t,
10 $J=6\text{Hz}$), 3.64(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.24(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.40(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.71(1H, s),
7.86(1H, s)

No. 45:N,N-ジエチル-N-{2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-イル)エトキシ]
エチル}アミン

IR(neat) cm^{-1} : 2967, 1470, 1236, 1114

NMR(CDCl_3) δ 値: 0.99(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.53(4H, q, $J=7\text{Hz}$), 2.62(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.19
(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.55(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.76(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.09(1H, t, $J=9\text{Hz}$), 7.28(1
H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.38(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.62(1H, dd, $J=5, 9\text{Hz}$)

No. 46:N-{2-[2-(5,7-ジフルオロベンゾ[b]チオフェン-6-イル)エトキシ]エチル}
-N,N-ジエチルアミン

IR(neat) cm^{-1} : 2968, 1404, 1115, 1092

NMR(CDCl_3) δ 値: 0.98(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.53(4H, q, $J=7\text{Hz}$), 2.63(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.08
(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.55(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.68(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.23(1H, d, $J=2\text{Hz}$), 7.33(1
H, d, $J=2\text{Hz}$), 7.48(1H, d, $J=5\text{Hz}$)

No. 47:N,N-ジエチル-N-{2-[2-(5-メトキシベンゾ[b]フラン-6-イル)エトキシ]
エチル}アミン

IR(neat) cm^{-1} : 2967, 1465, 1206, 1112

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.02(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.57(4H, q, $J=7\text{Hz}$), 2.66(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.99
(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.56(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.67(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.86(3H, s), 6.6-6.8(1H,
m), 6.99(1H, s), 7.33(1H, s), 7.5-7.7(1H, m)

30 No. 48:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イル-1-メチルエトキシ)エチル]-N,N-ジ

エチルアミン

IR(neat) cm^{-1} : 2968, 2930, 1090

NMR(CDCl_3) δ 値: 0.98(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 1.15(3H, d, $J=6\text{Hz}$), 2.52(4H, q, $J=7\text{Hz}$), 2.60(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.88(2H, dd, $J=6, 14\text{Hz}$), 3.4-3.8(1H, m), 3.56(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.20(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.27(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.41(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.65(1H, s), 7.78(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

実施例 4 9

N,N-ジエチル-N-{2-[2-(1-ナフチル)エトキシ]エチル}アミン 1.06g を酢酸エチル 2.5mL に溶解させ、この溶液にシュウ酸 0.35g を含む酢酸エチル 3.0mL 溶液を加え、室温で 2 時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、N,N-ジエチル-N-{2-[2-(1-ナフチル)エトキシ]エチル}アミン・シュウ酸塩 1.01g を得る。

融点: 88-92°C

IR(KBr) cm^{-1} : 3418, 1403, 1113, 720

NMR(DMSO-d_6) δ 値: 1.10(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.02(4H, q, $J=7\text{Hz}$), 3.16(2H, t, $J=5\text{Hz}$), 3.33(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.72(4H, t, $J=6\text{Hz}$), 6.4(2H, brs), 7.4-7.6(4H, m), 7.8-8.0(2H, m), 8.0-8.2(1H, m)

実施例 5 0 ~ 5 1

実施例 4 9 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 50: N,N-ジエチル-N-{2-[2-(6-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}アミン・シュウ酸塩

融点: 80-83°C

IR(KBr) cm^{-1} : 3424, 2940, 1468, 1245, 1112, 720

NMR(DMSO-d_6) δ 値: 1.10(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.9-3.2(8H, m), 3.6-3.8(4H, m), 3.86(3H, s), 6.9(2H, brs), 7.29(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.51(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.58(1H, s), 7.66(1H, s)

No. 51: N-{2-[2-(4-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}-N,N-ジメチルアミン・シュウ酸塩

融点: 118-121°C

IR(KBr) cm^{-1} : 3434, 1464, 1116

NMR(DMSO-d_6) δ 値: 2.67(6H, s), 3.09(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.16(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.74(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.80(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.1(2H, brs), 7.11(1H, d, $J=7\text{Hz}$), 7.31(1H, dd, $J=$

4, 7Hz), 7.53(1H, d, J=6Hz), 7.86(1H, d, J=6Hz)

実施例 5 2

N, N-ジメチル-N-{2-[2-(1-ナフチル)エトキシ]エチル}アミン0.87gを酢酸エチル4.4mLに溶解させ、この溶液に3.5mol/L乾燥塩化水素-酢酸エチル溶液1.35mLを加え、室温で1時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、N, N-ジメチル-N-{2-[2-(1-ナフチル)エトキシ]エチル}アミン・塩酸塩0.77gを得る。

融点: 183-184°C

IR(KBr) cm⁻¹: 2628, 1478, 1401, 1128

10 NMR(CDCl₃) δ 値: 2.59(3H, s), 2.64(3H, s), 2.9-3.3(2H, m), 3.35(2H, t, J=6Hz), 3.7-4.0(4H, m), 7.3-8.2(7H, m), 12.5(1H, brs)

実施例 5 3 ~ 6 1

実施例 5 2 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 53:N, N-ジメチル-N-{2-[2-(6-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}アミン・塩酸塩

融点: 128-132°C

IR(KBr) cm⁻¹: 2964, 1470, 1119

15 NMR(CDCl₃) δ 値: 2.71(6H, s), 2.99(2H, t, J=7Hz), 3.1-3.3(2H, m), 3.73(2H, t, J=7Hz), 3.8-4.1(2H, m), 3.89(3H, s), 7.22(2H, s), 7.30(1H, s), 7.57(1H, s), 12.2(1H, brs)

No. 54:N, N-ジメチル-N-{2-[2-(6-メトキシ-2-ナフチル)エトキシ]エチル}アミン・塩酸塩

融点: 125-128°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3314, 1114, 1024

20 NMR(CDCl₃) δ 値: 2.64(6H, s), 3.00(2H, t, J=7Hz), 3.0-3.2(2H, m), 3.79(2H, t, J=7Hz), 3.8-4.0(2H, m), 3.92(3H, s), 7.0-7.4(3H, m), 7.5-7.8(3H, m), 12.6(1H, brs)

No. 55:N-{2-[2-(4-クロロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}-N,N-ジメチルアミン・塩酸塩

融点: 92-95°C

30 IR(KBr) cm⁻¹: 3418, 1471, 1417

NMR(CDC₃) δ 値: 2.71(3H, s), 2.76(3H, s), 3.16(2H, t, J=6Hz), 3.2-3.4(2H, m), 3.78(2H, t, J=6Hz), 3.8-4.1(2H, m), 7.24(1H, d, J=8Hz), 7.50(2H, s), 7.71(1H, d, J=8Hz), 12.6(1H, brs)

No. 56:N-{2-[2-(4-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-イル)エトキシ]エチル}-N,

5 -ジメチルアミン・塩酸塩

融点: 67-69°C

IR(KBr)cm⁻¹: 1117, 910, 704

NMR(CDC₃) δ 値: 2.68(3H, s), 2.74(3H, s), 2.8-3.3(4H, m), 3.76(2H, t, J=6Hz), 3.8-4.0(2H, m), 7.0-7.7(4H, m), 12.6(1H, brs)

10 No. 57:N-{2-[2-(6-クロロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}-N,

-ジメチルアミン・塩酸塩

融点: 105-108°C

IR(KBr)cm⁻¹: 2606, 1434, 1110

NMR(CDC₃) δ 値: 2.71(3H, s), 2.76(3H, s), 3.0-3.4(4H, m), 3.79(2H, t, J=7Hz), 3.

15 8-4.0(2H, m), 7.0-7.6(2H, m), 7.72(1H, s), 7.87(1H, s), 12.6(1H, brs)

No. 58:N, N-ジエチル-N-{2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-イル)エトキシ]エチル}アミン・塩酸塩

融点: 71-73.5°C

IR(KBr)cm⁻¹: 3422, 2650, 1469, 1234, 1114

20 NMR(CDC₃) δ 値: 1.24(6H, t, J=7Hz), 2.9-3.2(8H, m), 3.85(4H, t, J=6Hz), 7.11(1H, t, J=8Hz), 7.30(1H, d, J=5Hz), 7.40(1H, d, J=5Hz), 7.65(1H, dd, J=5, 8Hz), 12.0(1H, brs)

No. 59:N-{2-[2-(5,7-ジフルオロベンゾ[b]チオフェン-6-イル)エトキシ]エチル}-N, N-ジエチルアミン・塩酸塩

融点: 98-100°C

25 IR(KBr)cm⁻¹: 3422, 2937, 2654, 1404, 1112

NMR(CDC₃) δ 値: 1.29(6H, t, J=7Hz), 2.9-3.1(8H, m), 3.74(2H, t, J=6Hz), 3.92(2H, t, J=5Hz), 7.28(1H, d, J=2Hz), 7.36(1H, d, J=2Hz), 7.51(1H, d, J=5Hz), 12.1(1H, brs)

No. 60:N, N-ジエチル-N-{2-[2-(5-メトキシベンゾ[b]フラン-6-イル)エトキシ]エチル}アミン・塩酸塩

30 融点: 90-92°C

IR(KBr) cm^{-1} : 2939, 2659, 1470, 1108

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.28(6H, t, $J=5\text{Hz}$), 2.8-3.3(8H, m), 3.71(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.8-4.0(2H, m), 3.87(3H, s), 6.6-6.8(1H, m), 7.01(1H, s), 7.27(1H, s), 7.59(1H, dd, $J=2, 7\text{Hz}$)

5 No. 61: N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イル-1-メチルエトキシ)エチル]-N,N-ジエチルアミン・塩酸塩

融点: 84.5-87°C

IR(KBr) cm^{-1} : 3419, 2972, 2648, 1104

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.0-1.4(6H, m), 1.23(3H, d, $J=6\text{Hz}$), 2.8-2.9(2H, m), 2.87(2H, d, $J=7\text{Hz}$), 3.0-3.1(4H, m), 3.6-4.1(3H, m), 7.17(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.28(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.45(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.62(1H, s), 7.80(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 12.0(1H, brs)

実施例 6 2

2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル メタンスルホネート 0.80g をN,N-ジメチルホルムアミド8mLに溶解させ、この溶液にジプロピルアミン0.73mLおよび炭酸カリウム0.74gを加え、80°Cで3時間攪拌する。次いで、反応混合物を水および酢酸エチルの混合液中に導入し、有機層を分取する。有機層を水および飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液; クロロホルム:メタノール=10:1)で精製すれば、油状のN-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジプロピルアミン0.60gを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 2965, 1459, 1114, 700

NMR(CDCl_3) δ 値: 0.85(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 1.43(4H, sext, $J=7\text{Hz}$), 2.41(4H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.64(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.00(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.53(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.70(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.20(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.27(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.41(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.66(1H, s), 7.78(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

25 実施例 6 3 ~ 6 6

実施例 6 2と同様にして以下の化合物を得る。

No. 63: 2-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}-1-エタノール

IR(neat) cm^{-1} : 3422, 2863, 1113, 1044

30 NMR(CDCl_3) δ 値: 2.29(3H, s), 2.55(2H, t, $J=5\text{Hz}$), 2.63(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.95(1H, brs),

2. 99 (2H, t, J=7Hz), 3. 53 (2H, t, J=6Hz), 3. 55 (2H, t, J=5Hz), 3. 61 (2H, t, J=7Hz), 7. 20 (1H, d, J=8Hz), 7. 26 (1H, d, J=5Hz), 7. 40 (1H, d, J=5Hz), 7. 65 (1H, s), 7. 78 (1H, d, J=8Hz)

No. 64:2-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)-1-メチルエチル](メチ

5 ル)アミノ]-1-エタノール

IR(neat)cm⁻¹:3423, 2943, 2863, 1109

NMR(CDCl₃) δ 値:0. 95 (3H, d, J=7Hz), 2. 26 (3H, s), 2. 61 (2H, t, J=5Hz), 2. 7-3. 0 (1H,

10 m), 3. 00 (2H, t, J=7Hz), 3. 33 (2H, t, J=5Hz), 3. 50 (2H, t, J=5Hz), 3. 68 (2H, t, J=7Hz), 7.

21 (1H, d, J=8Hz), 7. 28 (1H, d, J=5Hz), 7. 42 (1H, d, J=5Hz), 7. 67 (1H, s), 7. 79 (1H, d, J=8

Hz)

No. 65:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-メチル-N-(2-プロピニル)アミン

IR(neat)cm⁻¹:3292, 2861, 1113, 1050, 755, 703

NMR(CDCl₃) δ 値:2. 21 (1H, t, J=2Hz), 2. 34 (3H, s), 2. 66 (2H, t, J=6Hz), 3. 01 (2H, t, J=

15 7Hz), 3. 39 (2H, d, J=2Hz), 3. 56 (2H, t, J=6Hz), 3. 71 (2H, t, J=7Hz), 7. 21 (1H, dd, J=1, 8Hz), 7. 29 (1H, d, J=5Hz), 7. 42 (1H, d, J=5Hz), 7. 66 (1H, d, J=1Hz), 7. 78 (1H, d, J=8Hz)

No. 66:2-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](2-ヒドロキシエチル)アミノ]-1-エタノール

IR(neat)cm⁻¹:3394, 2866, 1670, 1108, 1050, 756, 703

20 NMR(CDCl₃) δ 値:2. 6 (2H, brs), 2. 70 (4H, t, J=5Hz), 2. 76 (2H, t, J=6Hz), 3. 01 (2H, t, J=7Hz), 3. 51 (2H, t, J=6Hz), 3. 57 (4H, t, J=5Hz), 3. 73 (2H, t, J=7Hz), 7. 22 (1H, d, J=8Hz), 7. 29 (1H, d, J=5Hz), 7. 42 (1H, d, J=5Hz), 7. 67 (1H, s), 7. 79 (1H, d, J=8Hz)

z)

実施例 6 7

25 N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジプロピルアミン0. 60gを酢酸エチル1mLに溶解させ、この溶液にシュウ酸0. 18gを含む酢酸エチル2mL溶液を加え、室温で2時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すればN-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジプロピルアミン・シュウ酸塩0. 56gを得る。

30 融点:93-98°C

IR (KBr) cm^{-1} : 2968, 2631, 1637, 1114, 720

NMR (CDCl_3) δ 値: 0.84 (6H, t, $J=7\text{Hz}$), 1.4-1.9 (4H, m), 2.95 (2H, t, $J=8\text{Hz}$), 2.98 (4H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.2-3.4 (2H, m), 3.6-4.0 (4H, m), 4.4 (2H, brs), 7.22 (1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.28 (1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.44 (1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.63 (1H, s), 7.79 (1H, d, $J=8\text{Hz}$)

5 実施例 6 8 ~ 6 9

実施例 6 7 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 68: 2- {[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}-1-エタノール・シュウ酸塩

融点: 77-81°C

10 IR (KBr) cm^{-1} : 3394, 2867, 1113, 720

NMR (DMSO-d_6) δ 値: 2.88 (3H, s), 2.8-3.7 (6H, m), 3.4-4.0 (6H, m), 5.13 (2H, brs), 7.26 (1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.39 (1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.73 (1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.76 (1H, s), 7.91 (1H, d, $J=8\text{Hz}$)

No. 69: 2- {[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)-1-メチルエチル](メチル)アミノ}-1-エタノール・シュウ酸塩

融点: 72-74°C

IR (KBr) cm^{-1} : 3398, 1106, 720

NMR (DMSO-d_6) δ 値: 1.16 (3H, d, $J=5\text{Hz}$), 2.64 (3H, s), 2.8-3.3 (5H, m), 3.4-3.9 (6H, m), 7.26 (1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.38 (1H, d, $J=6\text{Hz}$), 7.72 (1H, d, $J=6\text{Hz}$), 7.75 (1H, s), 7.90 (1H, d, $J=8\text{Hz}$)

20 実施例 7 0

N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-メチル-N-(2-プロピニル)アミン 0.58g を酢酸エチル 2.9mL に溶解させ、この溶液に 3.5mol/L 乾燥塩化水素-酢酸エチル溶液 0.97mL を加え、室温で 1 時間、さらに 5°C で 1 時間攪拌する。

25 反応混合物にジイソプロピルエーテル 10mL を加え希釈する。析出晶を濾取し、ジイソプロピルエーテルで洗浄した後、乾燥すれば、N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-メチル-N-(2-プロピニル)アミン・塩酸塩 0.35g を得る。

融点: 101-102°C

30 IR (KBr) cm^{-1} : 3173, 2409, 1132, 714

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 2.50(1H, t, J=2Hz), 2.73(3H, s), 2.96(2H, t, J=7Hz), 3.2-3.5(2H, m), 3.71(2H, t, J=7Hz), 3.7-3.9(2H, m), 4.03(2H, d, J=2Hz), 7.28(1H, d, J=8Hz), 7.39(1H, d, J=5Hz), 7.72(1H, d, J=5Hz), 7.76(1H, s), 7.91(1H, d, J=8Hz), 11.4(1H, brs)

実施例 7 1

5 実施例 7 0 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 71: 2-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](2-ヒドロキシエチル)アミノ]-1-エタノール・塩酸塩

IR(neat)cm⁻¹: 3284, 2876, 1115, 705

10 NMR(CDCl₃) δ 値: 1.7(2H, brs), 2.9-3.5(8H, m), 3.7-4.0(8H, m), 4.7(1H, brs), 7.17(1H, d, J=8Hz), 7.27(1H, d, J=5Hz), 7.45(1H, d, J=5Hz), 7.63(1H, s), 7.80(1H, d, J=8Hz)

実施例 7 2

15 5-[2-(3-クロロプロピルオキシ)エチル]ベンゾ[b]チオフェン0.80gをN,N-ジメチルホルムアミド6mLに溶解させ、この溶液に、2-(メチルアミノ)エタノール0.51mLおよび炭酸カリウム0.87gを加え、80°Cで3時間攪拌する。次いで、反応混合物を水および酢酸エチルの混合液中に導入し、有機層を分取する。有機層を水および飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液; クロロホルム: メタノール=10:1)で精製すれば、油状の2-[3-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)プロピル](メチル)アミノ]-1-エタノール0.59gを得る。

20 IR(neat)cm⁻¹: 3408, 2945, 2859, 1111

25 NMR(CDCl₃) δ 値: 1.72(2H, qn, J=7Hz), 2.21(3H, s), 2.45(2H, t, J=7Hz), 2.47(2H, t, J=6Hz), 2.99(2H, t, J=7Hz), 3.49(2H, t, J=6Hz), 3.60(2H, t, J=7Hz), 3.67(2H, t, J=7Hz), 7.22(1H, d, J=8Hz), 7.28(1H, d, J=5Hz), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.67(1H, s), 7.79(1H, d, J=8Hz)

実施例 7 3 ~ 7 5

実施例 7 2 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 73: 2-[5-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)ペンチル](メチル)アミノ]-1-エタノール

30 IR(neat)cm⁻¹: 3422, 2938, 2860, 1112

NMR (CDCl₃) δ 値: 1.3-1.7 (6H, m), 2.22 (3H, s), 2.38 (2H, t, J=6Hz), 2.50 (2H, t, J=5Hz), 2.82 (1H, s), 3.00 (2H, t, J=7Hz), 3.44 (2H, t, J=6Hz), 3.57 (2H, t, J=5Hz), 3.67 (2H, t, J=7Hz), 7.21 (1H, d, J=8Hz), 7.28 (1H, d, J=5Hz), 7.42 (1H, d, J=5Hz), 7.67 (1H, s), 7.79 (1H, d, J=8Hz)

5 No. 74: 2-(メチル{2-[2-(6-キノキサリニル)エトキシ]エチル}アミノ)-1-エタノール

IR (neat) cm⁻¹: 3405, 2866, 1113, 1027

NMR (CDCl₃) δ 値: 2.30 (3H, s), 2.57 (2H, t, J=6Hz), 2.64 (2H, t, J=6Hz), 3.14 (2H, t, J=7Hz), 3.57 (4H, t, J=6Hz), 3.80 (2H, t, J=7Hz), 7.69 (1H, d, J=9Hz), 7.99 (1H, s), 8.04 (1H, d, J=9Hz), 8.81 (2H, s)

No. 75: 2-[{2-[2-(1H-ベンゾ[d]イミダゾール-5-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール

IR (neat) cm⁻¹: 3180, 1458, 1113, 1041

NMR (CDCl₃) δ 値: 2.30 (3H, s), 2.59 (2H, t, J=6Hz), 2.66 (2H, t, J=6Hz), 2.97 (2H, t, J=6Hz), 3.3-3.8 (6H, m), 7.08 (1H, d, J=8Hz), 7.51 (1H, s), 7.55 (1H, d, J=8Hz), 8.00 (1H, s)

実施例 7 6

2-[[3-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)プロピル](メチル)アミノ]-1-エタノール 0.59g を酢酸エチル 2mL に溶解させ、この溶液にシュウ酸 0.18g を含む酢酸エチル 2mL 溶液を加え、室温で 2 時間攪拌する。反応混合物にジイソプロピルエーテル 5mL を加え希釈する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば 2-[[3-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)プロピル](メチル)アミノ]-1-エタノール・シュウ酸塩 0.59g を得る。

融点: 83-85°C

IR (KBr) cm⁻¹: 3368, 2866, 1109, 720

25 NMR (DMSO-d₆) δ 値: 1.8-2.0 (2H, m), 2.70 (3H, s), 2.92 (2H, t, J=7Hz), 3.00 (2H, t, J=6Hz), 3.05 (2H, t, J=6Hz), 3.46 (2H, t, J=6Hz), 3.6-3.8 (4H, m), 5.5 (2H, brs), 7.25 (1H, d, J=8Hz), 7.39 (1H, d, J=5Hz), 7.72 (1H, d, J=5Hz), 7.75 (1H, s), 7.90 (1H, d, J=8Hz)

実施例 7 7

30 実施例 7 6 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 77: 2-[[5-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)ペンチル](メチル)アミノ]-1-エタノール・シュウ酸塩

融点: 78.5-80.5°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3422, 2937, 2861, 1116, 705

5 NMR(DMSO-d₆) δ 値: 1.2-1.6(6H, m), 2.72(3H, s), 2.92(2H, t, J=7Hz), 2.99(2H, t, J=7Hz), 3.08(2H, t, J=6Hz), 3.40(2H, t, J=6Hz), 3.62(2H, t, J=7Hz), 3.70(2H, t, J=7Hz), 7.24(1H, d, J=8Hz), 7.39(1H, d, J=5Hz), 7.72(1H, d, J=5Hz), 7.72(1H, s), 7.90(1H, d, J=8Hz)

実施例 7 8

10 2-(メチル{2-[2-(6-キノキサリニル)エトキシ]エチル}アミノ)-1-エタノール 0.23gをエタノール3mLに溶解させ、この溶液に3.8mol/L乾燥塩化水素-エタノール溶液0.8mLを加え、室温で1時間攪拌する。減圧下に溶媒を留去すれば、油状の2-(メチル{2-[2-(6-キノキサリニル)エトキシ]エチル}アミノ)-1-エタノール・三塩酸塩0.67gを得る。

15 IR(neat) cm⁻¹: 3384, 1522, 1113, 1042

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 2.6-4.2(12H, m), 2.77(3H, d, J=5Hz), 7.85(1H, d, J=9Hz), 8.02(1H, s), 8.07(1H, d, J=9Hz), 8.96(2H, s), 10.5(1H, brs)

実施例 7 9

実施例 7 0と同様にして以下の化合物を得る。

20 No. 79: 2-[[2-[2-(1H-ベンゾ[d]イミダゾール-5-イル)エトキシ]エチル](メチル)アミノ]-1-エタノール・三塩酸塩

IR(neat) cm⁻¹: 3347, 1449, 1376, 1112

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 2.2-4.2(12H, m), 2.75(3H, s), 7.50(1H, d, J=9Hz), 7.76(1H, s), 7.80(1H, d, J=9Hz), 9.0(1H, brs), 9.62(1H, s), 10.3(1H, brs)

25 実施例 8 0

2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)-1-メチルエチル メタンスルフォネート1.00gをN,N-ジメチルホルムアミド10mLに溶解させ、この溶液にジエチルアミン3.3mLを加え、封管中100°Cで15時間攪拌する。冷却後、反応混合物を水および酢酸エチルの混合液中に導入し、6mol/L塩酸でpH2.0に調整した後、水層を分取する。水層に酢酸エチルを加え、5mol/L水酸化ナトリウム水溶液でpH9.5に調整し

30

た後、有機層を分取する。有機層を水および飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液；クロロホルム：メタノール=20:1～10:1)で精製すれば、油状のN-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)-1-メチルエチル]-N,
5 N-ジエチルアミン0.63gを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 2967, 2867, 1111

NMR (CDCl_3) δ 値: 1.00 (3H, d, $J=6\text{Hz}$), 1.01 (6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.51 (4H, q, $J=7\text{Hz}$), 2.8-
2.9 (2H, m), 2.99 (2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.34 (1H, d, $J=7\text{Hz}$), 3.50 (1H, d, $J=5\text{Hz}$), 3.69 (2H,
t, $J=7\text{Hz}$), 7.22 (1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.28 (1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.42 (1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.68 (1H,
10 s), 7.79 (1H, d, $J=8\text{Hz}$)

実施例 8 1

5-[2-(3-クロロプロピルオキシ)エチル]ベンゾ[b]チオフェン0.80gをN,N-ジメチルホルムアミド6mLに溶解させ、この溶液にジエチルアミン3.2mLを加え、封管中100°Cで10時間攪拌する。冷却後、反応混合物を水および酢酸エチルの混合液中に導入し、6mol/L塩酸でpH1.0に調整した後、水層を分取する。分取した水層に酢酸エチルを加え、5mol/L水酸化ナトリウム水溶液でpH10.0に調整した後、有機層を分取する。有機層を水および飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液；クロロホルム：メタノール=10:1～4:1)で精製すれば、油状のN-[3
15 -(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)プロピル]-N,N-ジエチルアミン 0.48
20 gを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 2967, 2864, 2800, 1112

NMR (CDCl_3) δ 値: 0.99 (6H, t, $J=7\text{Hz}$), 1.70 (2H, qn, $J=7\text{Hz}$), 2.49 (4H, q, $J=7\text{Hz}$), 2.9
9 (2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.48 (2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.67 (2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.21 (1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.28
25 (1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.41 (1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.66 (1H, s), 7.79 (1H, d, $J=8\text{Hz}$)

実施例 8 2

実施例 8 1と同様にして以下の化合物を得る。

No. 82:N-[5-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)ペンチル]-N,N-ジエチルアミン

IR(neat) cm^{-1} : 2967, 2935, 2860, 1113

NMR (CDCl₃) δ 値: 1.01 (6H, t, J=7Hz), 1.3-1.7 (6H, m), 2.43 (2H, q, J=7Hz), 2.51 (2H, q, J=7Hz), 2.99 (2H, t, J=7Hz), 3.45 (2H, t, J=6Hz), 3.67 (2H, t, J=7Hz), 7.21 (1H, d, J=8Hz), 7.27 (1H, d, J=5Hz), 7.41 (1H, d, J=5Hz), 7.66 (1H, s), 7.79 (1H, d, J=8Hz)

実施例 8 3

5 N-[3-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)プロピル]-N,N-ジエチルアミン 0.46g を酢酸エチル 2mL に溶解させ、この溶液にシュウ酸 0.15g を含む酢酸エチル 2.5mL 溶液を加え、室温で 2 時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば N-[3-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)プロピル]-N,N-ジエチルアミン・シュウ酸塩 0.47g を得る。

10 融点: 87.5-89°C

IR (KBr) cm⁻¹: 2938, 2648, 1112, 706

NMR (DMSO-d₆) δ 値: 1.10 (6H, t, J=7Hz), 1.7-2.0 (2H, m), 2.93 (2H, t, J=7Hz), 3.01 (4H, q, J=7Hz), 3.46 (2H, t, J=7Hz), 3.65 (2H, t, J=7Hz), 4.6 (2H, brs), 7.25 (1H, d, J=8Hz), 7.39 (1H, d, J=5Hz), 7.73 (1H, d, J=5Hz), 7.73 (1H, s), 7.91 (1H, d, J=8Hz)

15 実施例 8 4

N-[5-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)ペンチル]-N,N-ジエチルアミン 0.62g を酢酸エチル 3.0mL に溶解させ、この溶液を 3.6mol/L 乾燥塩化水素 - 酢酸エチル溶液 1.1mL を加え、室温で 1 時間攪拌する。反応混合物にジイソプロピルエーテル 5mL を加え希釈し、室温で 1 時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、N-[5-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)ペンチル]-N,N-ジエチルアミン・塩酸塩 0.55g を得る。

融点: 138.5-140 °C

IR (KBr) cm⁻¹: 2933, 2594, 2503, 1104

NMR (DMSO-d₆) δ 値: 1.18 (6H, t, J=7Hz), 1.3-1.6 (6H, m), 2.9-3.1 (8H, m), 3.40 (2H, t, J=7Hz), 3.63 (2H, t, J=7Hz), 7.25 (1H, d, J=8Hz), 7.39 (1H, d, J=5Hz), 7.72 (1H, d, J=5Hz), 7.72 (1H, s), 7.90 (1H, d, J=8Hz), 10.2 (1H, brs)

実施例 8 5

(1) 2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-7-イルエトキシ)酢酸 1.20g を塩化メチレン 10mL に溶解させ、この溶液を 5°C に冷却し、オキサリルクロリド 0.49mL と N,N-ジメチルホルムアミドを 0.1mL 加え、室温で 1.5 時間攪拌する。次いで 5°C に冷却し、ジエ

チルアミン2.6mLを加え室温で2時間攪拌する。この反応混合物に水を加え、2mol/L塩酸でpH1.0に調整した後、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させ、減圧下に溶媒を留去すれば、油状の2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-7-イルエトキシ)-N,N-ジエチルアセトアミド1.36gを得る。

5 同様にして以下の化合物を得る。

- N-ベンジル-2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]-N-メチルアセトアミド

NMR(CDC₃) δ 値: 2.80(1.5H, s), 2.87(1.5H, s), 3.08(2H, t, J=7Hz), 3.80(2H, t, J=7Hz), 4.21(2H, s), 4.40(1H, s), 4.55(1H, s), 7.0-7.8(9H, m)

10 • 2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]-N,N-ジメチルアセトアミド

- 2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-4-イルエトキシ)-N,N-ジエチルアセトアミド
- NMR(CDC₃) δ 値: 1.07(6H, t, J=7Hz), 3.0-3.6(6H, m), 3.85(2H, t, J=7Hz), 4.13(2H, s), 7.2-7.4(2H, m), 7.46(2H, s), 7.75(1H, dd, J=2, 6Hz)

15 • 2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-6-イルエトキシ)-N,N-ジエチルアセトアミド

NMR(CDC₃) δ 値: 1.09(6H, t, J=7Hz), 3.0-3.6(6H, m), 3.81(2H, t, J=7Hz), 4.13(2H, s), 7.1-7.3(2H, m), 7.38(1H, d, J=5Hz), 7.73(1H, s), 7.73(1H, d, J=8Hz)

• 2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)-N-エチル-N-メチルアセトアミド

NMR(CDC₃) δ 値: 1.07(3H, t, J=7Hz), 2.82(1.5H, s), 2.88(1.5H, s), 3.05(2H, t, J=7Hz), 3.1-3.6(2H, m), 3.80(2H, t, J=7Hz), 4.13(2H, s), 7.21(1H, d, J=8Hz), 7.27(1H, d, J=5Hz), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.67(1H, s), 7.79(1H, d, J=8Hz)

• 2-(3-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルプロポキシ)-N,N-ジエチルアセトアミド

NMR(CDC₃) δ 値: 0.9-1.5(6H, m), 1.8-2.2(2H, m), 2.6-3.0(2H, m), 3.1-3.8(2H, m), 3.52(4H, q, J=6Hz), 4.13(2H, s), 7.18(1H, d, J=8Hz), 7.27(1H, d, J=5Hz), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.63(1H, s), 7.78(1H, d, J=8Hz)

• 2-[2-(2,3-ジヒドロ-1,4-ベンゾジオキシン-6-イル)エトキシ]-N,N-ジエチルアセトアミド

NMR(CDC₃) δ 値: 1.13(6H, t, J=7Hz), 2.83(2H, t, J=7Hz), 3.1-3.6(4H, m), 3.70(4H, t, J=7Hz), 4.12(2H, s), 4.23(4H, s), 6.6-6.9(3H, m)

30 • 2-[2-(2,3-ジヒドロ-1H-インデン-5-イル)エトキシ]-N,N-ジエチルアセトアミ

ド

NMR (CDCl₃) δ 値: 1.12 (6H, t, J=7Hz), 2.04 (2H, qn, J=7Hz), 2.7-3.0 (6H, m), 3.1-3.5 (4H, m), 3.73 (2H, t, J=7Hz), 4.13 (2H, s), 6.96 (1H, d, J=8Hz), 7.09 (1H, s), 7.13 (1H, d, J=8Hz)

5 • 2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-4-イルエトキシ)-N,N-ジメチルアセトアミド
NMR (CDCl₃) δ 値: 2.80 (3H, s), 2.89 (3H, s), 3.29 (2H, t, J=7Hz), 3.85 (2H, t, J=7Hz), 4.13 (2H, s), 7.1-7.4 (2H, m), 7.46 (2H, s), 7.7-7.9 (1H, m)

• N¹-[2-(ジメチルアミノ)エチル]-N¹-メチル-2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)アセトアミド

10 IR (neat) cm⁻¹: 3504, 2940, 2861, 2821, 2770, 1651, 1104, 703
NMR (CDCl₃) δ 値: 2.17 (3H, s), 2.2-2.6 (2H, m), 2.23 (6H, s), 3.05 (2H, t, J=7Hz), 3.1-3.6 (2H, m), 3.80 (2H, t, J=7Hz), 4.14 (2H, s), 7.21 (1H, dd, J=2, 8Hz), 7.26 (1H, d, J=5Hz), 7.41 (1H, d, J=5Hz), 7.67 (1H, s), 7.78 (1H, d, J=8Hz)

15 • N¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-[2-(2-メチル-1,3-ベンゾチアゾール-5-イル)エトキシ]アセトアミド

IR (neat) cm⁻¹: 3396, 2930, 1638, 1106

NMR (CDCl₃) δ 値: 1.30 (1H, t, J=7Hz), 2.81 (3H, s), 2.95 (3H, s), 3.05 (2H, t, J=7Hz), 3.2-4.0 (4H, m), 3.80 (2H, t, J=7Hz), 4.0-4.4 (2H, m), 7.21 (1H, d, J=8Hz), 7.71 (1H, d, J=8Hz), 7.80 (1H, s)

20 (2) 2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-7-イルエトキシ)-N,N-ジエチルアセトアミド
1.36gをテトラヒドロフラン14mLに溶解させ、この溶液を5°Cに冷却し、ボラン-テトラヒドロフラン錯体の1mol/Lテトラヒドロフラン溶液14mLを滴下する。次いで、室温で一夜攪拌した後、6mol/L塩酸5.00mLを滴下し、30分間還流する。冷却後、反応混合物に水および酢酸エチルを加え、5mol/L水酸化ナトリウム水溶液でpH9に調整した後、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液;クロロホルム:メタノール=10:1)で精製すれば、油状のN-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-7-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジエチルアミン1.10gを得る。

30 IR (neat) cm⁻¹: 2968, 1458, 1116, 794

NMR(CDC₁₃) δ 値: 1.01(6H, t, J=7Hz), 2.55(4H, q, J=7Hz), 2.65(2H, t, J=6Hz), 3.18
 (2H, t, J=7Hz), 3.56(2H, t, J=6Hz), 3.83(2H, t, J=7Hz), 7.0-7.6(4H, m), 7.68(1H, d
 d, J=1, 7Hz)

実施例 8 6 ~ 9 6

5 実施例 8 5 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 86:N-ベンジル-N-{2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}-N-メチルアミン

IR(neat) cm⁻¹: 2929, 1458, 1257, 1116, 747

NMR(CDC₁₃) δ 値: 2.43(3H, s), 2.93(2H, t, J=5Hz), 3.04(2H, t, J=7Hz), 3.76(2H, t,
 10 J=7Hz), 3.82(2H, t, J=5Hz), 3.87(2H, s), 7.21(2H, d, J=6Hz), 7.34(5H, s), 7.50(1
 H, d, J=10Hz), 7.66(1H, d, J=7Hz)

No. 87:N-{2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}-N,N-ジ
 メチルアミン

IR(neat) cm⁻¹: 2942, 2864, 2819, 2771, 1458, 1116

15 NMR(CDC₁₃) δ 値: 2.25(6H, s), 2.50(2H, t, J=6Hz), 3.04(2H, t, J=7Hz), 3.57(2H, t,
 J=6Hz), 3.71(2H, t, J=7Hz), 7.24(1H, d, J=5Hz), 7.36(1H, d, J=5Hz), 7.51(1H, d, J=
 10Hz), 7.67(1H, d, J=7Hz)

No. 88:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-4-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジエチルア
 ミン

20 IR(neat) cm⁻¹: 2968, 2869, 1114, 759

NMR(CDC₁₃) δ 値: 1.01(6H, t, J=7Hz), 2.55(4H, q, J=7Hz), 2.64(2H, t, J=6Hz), 3.24
 (2H, t, J=7Hz), 3.55(2H, t, J=6Hz), 3.75(2H, t, J=7Hz), 7.2-7.3(2H, m), 7.45(2H,
 s), 7.74(1H, dd, J=2, 7Hz)

No. 89:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-6-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジエチルア
 25 ミン

IR(neat) cm⁻¹: 2968, 2868, 1113, 818

NMR(CDC₁₃) δ 値: 1.01(6H, t, J=7Hz), 2.55(4H, q, J=7Hz), 2.65(2H, t, J=6Hz), 3.01
 (2H, t, J=7Hz), 3.54(2H, t, J=6Hz), 3.70(2H, t, J=7Hz), 7.22(1H, dd, J=1, 8Hz), 7.2
 8(1H, d, J=5Hz), 7.36(1H, d, J=5Hz), 7.72(1H, d, J=1Hz), 7.73(1H, d, J=8Hz)

30 No. 90:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-エチル-N-メチ

ルアミン

IR(neat) cm^{-1} : 2969, 2864, 1115, 1052, 702

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.04(3H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.25(3H, s), 2.45(2H, q, $J=7\text{Hz}$), 2.57(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.01(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.70(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.21(1H, d, $J=8\text{Hz}$)
 5 7.27(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.41(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.67(1H, s), 7.78(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

No. 91:N-[2-(3-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルプロピル)エチル]-N,N-ジエチルアミン

No. 92:N-{2-[2-(2,3-ジヒドロ-1,4-ベンゾジオキシン-6-イル)エトキシ]エチル}-N,N-ジエチルアミン

10 IR(neat) cm^{-1} : 2871, 1509, 1286, 1070

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.02(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.56(2H, q, $J=7\text{Hz}$), 2.64(4H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.73(2H, q, $J=7\text{Hz}$), 3.52(4H, t, $J=7\text{Hz}$), 4.23(4H, s), 6.73(3H, s)

No. 93:N-{2-[2-(2,3-ジヒドロ-1H-インデン-5-イル)エトキシ]エチル}-N,N-ジエチルアミン

15 IR(neat) cm^{-1} : 2966, 1114, 819, 754

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.02(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.05(2H, qn, $J=7\text{Hz}$), 2.57(4H, q, $J=7\text{Hz}$), 2.65(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.88(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.55(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.64(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 6.98(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.10(1H, s), 7.14(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

No. 94:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-4-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジメチルア

20 ミン

IR(neat) cm^{-1} : 2942, 1458, 1116, 760

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.25(6H, s), 2.49(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.26(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.76(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.0-7.7(4H, m), 7.74(1H, dd, $J=2, 6\text{Hz}$)

No. 95:N¹-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N¹, N², N²-トリメチル-1,2-エタンジアミン

IR(neat) cm^{-1} : 3361, 2941, 2858, 2815, 2758, 1463, 1113, 701

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.22(6H, s), 2.28(3H, s), 2.3-2.7(4H, m), 2.61(2H, t, $J=5\text{Hz}$), 3.00(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.69(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.19(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.26(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.41(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.65(1H, s), 7.78(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

30 No. 96: 2-(メチル{2-[2-(2-メチル-1,3-ベンゾチアゾール-5-イル)エトキシ]エ

チル}アミノ)-1-エタノール

IR(neat) cm^{-1} : 3387, 2942, 2864, 1459, 1114, 1043, 754

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.30(3H, s), 2.57(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.64(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.81(3H, s), 3.01(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.4-3.6(4H, m), 3.71(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.21(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.71(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.81(1H, s)

実施例 9 7

$\text{N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-7-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジエチルアミン}$ 1.10gを酢酸エチル10mLに溶解させ、この溶液にシュウ酸0.39gを含む酢酸エチル10mL溶液を加え、室温で2時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、 $\text{N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-7-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジエチルアミン・シュウ酸塩}$ 1.14gを得る。

融点: 75-76°C

IR(KBr) cm^{-1} : 3422, 2652, 1399, 1114, 798, 720

NMR(DMSO-d_6) δ 値: 1.08(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.99(4H, q, $J=7\text{Hz}$), 3.0-3.3(4H, m), 3.6-3.8(2H, m), 3.84(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.2-7.9(5H, m), 8.2(2H, brs)

実施例 9 8 ~ 10 3

実施例 9 7 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 98: $\text{N-ベンジル-N-[2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}-N-\text{メチルアミン・シュウ酸塩}$

融点: 96-98°C

IR(KBr) cm^{-1} : 3445, 2938, 2636, 1456, 1118

NMR(DMSO-d_6) δ 値: 2.50(3H, s), 2.8-3.2(4H, m), 3.5-3.9(4H, m), 4.05(2H, s), 7.36(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.38(5H, s), 7.69(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.85(1H, d, $J=10\text{Hz}$), 7.89(1H, d, $J=3\text{Hz}$), 9.0(2H, brs)

No. 99: $\text{N-[2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}-N,N-\text{-ジメチルアミン・シュウ酸塩}$

融点: 120-126°C

IR(KBr) cm^{-1} : 2956, 2679, 1123, 720

NMR(DMSO-d_6) δ 値: 2.69(6H, s), 2.98(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.18(2H, t, $J=5\text{Hz}$), 3.71(4H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.40(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.71(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.87(1H, d, $J=11\text{Hz}$), 7.90(1H,

d, J=4Hz), 9.1(2H, brs)

No. 100:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-4-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジエチルアミン・シュウ酸塩

融点:79-82°C

5 IR(KBr)cm⁻¹: 3431, 1405, 1112, 720

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 1.09(6H, t, J=7Hz), 2.99(4H, q, J=7Hz), 3.19(2H, t, J=7Hz), 3.7-3.8(6H, m), 4.4(2H, brs), 7.2-7.3(2H, m), 7.5-7.9(3H, m)

No. 101:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-6-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジエチルアミン・シュウ酸塩

10 融点:53-58°C

IR(KBr)cm⁻¹: 2945, 2655, 1634, 1112, 720

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 1.08(6H, t, J=7Hz), 2.8-3.3(8H, m), 3.77(4H, brt, J=6Hz), 6.1(2H, brs), 7.26(1H, d, J=8Hz), 7.40(1H, d, J=5Hz), 7.67(1H, d, J=5Hz), 7.80(1H, d, J=8Hz), 7.85(1H, s)

15 No. 102:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-エチル-N-メチルアミン・シュウ酸塩

融点:102-104°C

IR(KBr)cm⁻¹: 2944, 2664, 1635, 1404, 1114, 720

20 NMR(DMSO-d₆) δ 値: 1.10(3H, t, J=7Hz), 2.64(3H, s), 2.8-3.3(6H, m), 3.6-3.9(4H, m), 7.28(1H, d, J=8Hz), 7.39(1H, d, J=5Hz), 7.73(1H, d, J=5Hz), 7.76(1H, s), 7.91(1H, d, J=8Hz), 9.3(2H, brs)

No. 103:N-[2-(3-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルプロピル)エチル]-N,N-ジエチルアミン・シュウ酸塩

融点:58-60°C

25 IR(KBr)cm⁻¹: 3446, 2943, 2650, 1114

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 1.19(6H, t, J=7Hz), 1.6-2.1(2H, m), 2.75(2H, t, J=8Hz), 3.08(4H, t, J=7Hz), 3.22(2H, t, J=6Hz), 3.45(2H, t, J=6Hz), 3.69(2H, t, J=4Hz), 7.22(1H, d, J=8Hz), 7.39(1H, d, J=5Hz), 7.42(2H, brs), 7.69(1H, s), 7.72(1H, d, J=5Hz), 7.90(1H, d, J=8Hz)

30 実施例 1 0 4

N-{2-[2-(2,3-ジヒドロ-1,4-ベンゾジオキシン-6-イル)エトキシ]エチル}-N,N-ジエチルアミン0.38gを酢酸エチル1.9mLに溶解させ、この溶液に3.5mol/L乾燥塩化水素-酢酸エチル溶液0.51mLを加え、室温で1時間、さらに5°Cで1時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、N-{2-[2-(2,3-ジヒドロ-1,4-ベンゾジオキシン-6-イル)エトキシ]エチル}-N,N-ジエチルアミン・塩酸塩0.29gを得る。

融点:120-123°C

IR(KBr)cm⁻¹:3447, 2940, 1508, 1286, 1068

10 NMR(DMSO-d₆) δ 値:1.16(6H, t, J=7Hz), 2.70(2H, t, J=7Hz), 3.0-3.2(6H, m), 3.59(2H, t, J=7Hz), 3.73(2H, t, J=5Hz), 4.19(4H, s), 6.71(3H, s), 10.2(1H, brs)

実施例 105～107

実施例 103と同様にして以下の化合物を得る。

No. 105:N-{2-[2-(2,3-ジヒドロ-1H-インデン-5-イル)エトキシ]エチル}-N,N-ジエチルアミン・塩酸塩

15 融点:104-105°C

IR(KBr)cm⁻¹:2935, 2659, 1111, 1034, 818

NMR(DMSO-d₆) δ 値:1.16(6H, t, J=7Hz), 1.8-2.2(2H, m), 2.7-3.9(16H, m), 6.97(1H, d, J=8Hz), 7.10(1H, s), 7.15(1H, d, J=8Hz), 10.4(1H, brs)

No. 106:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-4-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジメチルアミ

20 ン・塩酸塩

融点:165-167°C

IR(KBr)cm⁻¹:2628, 1413, 1126, 768

NMR(DMSO-d₆) δ 値:2.68(6H, s), 3.0-3.6(4H, m), 3.6-4.0(4H, m), 7.2-7.5(2H, m), 7.61(1H, d, J=6Hz), 7.77(1H, d, J=6Hz), 7.87(1H, d, J=6Hz), 10.5(1H, brs)

25 No. 107:N¹-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N¹,N²-トリメチル-1,2-エタンジアミン・二塩酸塩

融点:228-230°C

IR(KBr)cm⁻¹:3446, 2633, 2468, 1473, 1119, 702

30 NMR(DMSO-d₆) δ 値:2.79(3H, s), 2.8-4.1(12H, m), 3.38(6H, s), 7.30(1H, dd, J=1, 8Hz), 7.40(1H, d, J=6Hz), 7.73(1H, d, J=6Hz), 7.77(1H, s), 7.91(1H, d, J=8Hz)

実施例 108

(1) 2-[2-(6-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]酢酸0.80gを塩化メチレン8mLに溶解させ、この溶液にトリエチルアミン1.38mLとイミダゾール0.22gを加える。5°Cに冷却後、塩化チオニル0.24mLと塩化メチレン8mLの混合液を滴5 下し、同温で1時間攪拌する。反応混合物を-60°Cに冷却後、トリエチルアミン0.47mLと2-(メチルアミノ)エタノール0.31mLを加え、同温で1時間、室温で1.5時間攪拌する。この反応混合物に水を加え、6mol/L塩酸でpH1.0に調整した後、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させ、減圧下に溶媒を留去すれば、油状のN¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-[2-(610 -メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]アセトアミド0.93gを得る。

NMR (CDCl₃) δ 値: 2.94(3H, s), 3.04(2H, t, J=7Hz), 3.4-3.6(2H, m), 3.77(4H, t, J=7Hz), 3.88(3H, s), 4.1-4.2(2H, m), 7.21(1H, s), 7.26(1H, s), 7.29(1H, s), 7.60(1H, s)

同様にして以下の化合物を得る。

15 • N¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]アセトアミド

IR (neat) cm⁻¹: 1659, 1644, 1456, 1107

NMR (CDCl₃) δ 値: 2.94(3H, s), 3.07(2H, t, J=7Hz), 3.3-3.9(7H, m), 4.1-4.3(2H, m), 7.1-7.8(4H, m)

20 • N¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-[2-(2-メチルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]アセトアミド

• N¹-エチル-N¹-(2-ヒドロキシエチル)-2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)アセトアミド

25 NMR (CDCl₃) δ 値: 1.09(3H, t, J=7Hz), 3.09(2H, q, J=7Hz), 3.30(2H, t, J=7Hz), 3.46(2H, t, J=7Hz), 3.81(4H, t, J=7Hz), 4.17(2H, s), 7.21(1H, d, J=8Hz), 7.28(1H, d, J=5Hz), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.68(1H, s), 7.79(1H, d, J=8Hz)

• N¹-ベンジル-N¹-(2-ヒドロキシエチル)-2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)アセトアミド

30 NMR (CDCl₃) δ 値: 2.9-3.1(2H, m), 3.3-3.9(6H, m), 4.1-4.3(2H, m), 4.4-4.6(2H, m), 7.1-7.3(7H, m), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.64(1H, s), 7.77(1H, d, J=8Hz)

• N¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-(3-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルプロポキシ)アセトアミド

NMR(CDCI₃) δ 値: 1.99(2H, qn, J=7Hz), 2.5-3.2(4H, m), 3.06(3H, s), 3.55(2H, t, J=7Hz), 3.5-3.9(2H, m), 4.0-4.4(2H, m), 7.17(1H, d, J=8Hz), 7.27(1H, d, J=5Hz), 7.45(1H, d, J=5Hz), 7.63(1H, s), 7.78(1H, d, J=8Hz)

(2) N¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-[2-(6-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]アセトアミド0.93gをテトラヒドロフラン8mLに溶解させ、この溶液を5°Cに冷却し、ボラン-テトラヒドロフラン錯体の1mol/Lテトラヒドロフラン溶液6mLを滴下する。次いで、室温で一夜攪拌した後、6mol/L塩酸1.5mLを滴下し、30分間還流する。冷却後、反応混合物に水および酢酸エチルを加え、5mol/L水酸化ナトリウム水溶液でpH9.5に調整した後、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液; クロロホルム:メタノール=10:1~5:1)で精製すれば、油状の2-[{2-[2-(6-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール0.67gを得る。

IR(neat) cm⁻¹: 3423, 2940, 2865, 1468, 1045

NMR(CDCI₃) δ 値: 2.31(3H, s), 2.57(2H, t, J=6Hz), 2.64(2H, t, J=6Hz), 3.00(2H, t, J=7Hz), 3.56(4H, t, J=5Hz), 3.67(2H, t, J=7Hz), 3.88(3H, s), 7.23(2H, s), 7.29(1H, s), 7.60(1H, s)

20 実施例 109~113

実施例108と同様にして以下の化合物を得る。

No. 109: 2-[{2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール

IR(neat) cm⁻¹: 3422, 2868, 1457, 1113

NMR(CDCI₃) δ 値: 2.29(3H, s), 2.4-2.8(5H, m), 3.02(2H, t, J=7Hz), 3.4-3.9(6H, m), 7.2-7.8(4H, m)

No. 110: 2-(メチル){2-[2-(2-メチルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}アミノ)-1-エタノール

IR(neat) cm⁻¹: 3398, 2862, 1113, 1040

NMR(CDCI₃) δ 値: 2.31(3H, s), 2.56(3H, s), 2.57(2H, t, J=6Hz), 2.70(2H, t, J=6Hz)

z), 2.96(2H, t, J=7Hz), 3.54(2H, t, J=6Hz), 3.56(2H, t, J=6Hz), 3.68(2H, t, J=7Hz), 6.91(1H, s), 7.09(1H, d, J=8Hz), 7.48(1H, s), 7.64(1H, d, J=8Hz)

No. 111: 2-[[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](エチル)アミノ]-1-エタノール

5 IR(neat) cm^{-1} : 3409, 2921, 2864, 1112

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.02(3H, t, J=7Hz), 2.5-2.8(6H, m), 3.00(2H, t, J=7Hz), 3.53(4H, t, J=6Hz), 3.70(2H, t, J=7Hz), 7.21(1H, d, J=8Hz), 7.27(1H, d, J=5Hz), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.66(1H, s), 7.79(1H, d, J=8Hz)

No. 112: 2-[[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](ベンジル)アミノ]-1-エタノール

10 IR(neat) cm^{-1} : 3448, 2863, 1111, 1051, 700

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.67(2H, t, J=5Hz), 2.73(2H, t, J=5Hz), 2.99(2H, t, J=7Hz), 3.50(2H, t, J=5Hz), 3.53(2H, t, J=5Hz), 3.6-3.7(4H, m), 7.2-7.3(7H, m), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.66(1H, s), 7.79(1H, d, J=8Hz)

15 No. 113: 2-[[2-(3-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルプロピル)エチル](メチル)アミノ]-1-エタノール

IR(neat) cm^{-1} : 3422, 2942, 2861, 1115

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.94(2H, qn, J=7Hz), 2.35(3H, s), 2.60(2H, t, J=6Hz), 2.66(2H, t, J=6Hz), 2.82(2H, t, J=7Hz), 3.46(2H, t, J=6Hz), 3.53(2H, t, J=6Hz), 3.58(2H, t, J=7Hz), 7.19(1H, d, J=8Hz), 7.27(1H, d, J=5Hz), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.63(1H, s), 7.78(1H, d, J=8Hz)

実施例 1 1 4

2-[{2-[2-(6-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール 0.59g を酢酸エチル 1mL に溶解させ、この溶液にシュウ酸 0.17g を含む酢酸エチル 2mL 溶液を加え、室温で 2 時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、2-[{2-[2-(6-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール・シュウ酸塩 0.60g を得る。

融点: 82.5-85 °C

30 IR(KBr) cm^{-1} : 3366, 1469, 1244, 720

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 2.71(3H, s), 2.91(2H, t, J=7Hz), 3.07(2H, t, J=6Hz), 3.23(2H, t, J=6Hz), 3.65(6H, t, J=7Hz), 3.86(3H, s), 6.2(2H, brs), 7.29(1H, d, J=5Hz), 7.51(1H, d, J=5Hz), 7.56(1H, s), 7.66(1H, s)

実施例 115～119

5 実施例 114 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 115: 2-[{2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール・シュウ酸塩

融点: 96-99°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3284, 1460, 1404, 1127

10 NMR(DMSO-d₆) δ 値: 2.4-3.4(10H, m), 3.6-4.0(6H, m), 5.8(2H, brs), 7.4-8.0(4H, m)

No. 116: 2-(メチル{2-[2-(2-メチルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}アミノ)-1-エタノール・シュウ酸塩

融点: 73-75°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3274, 2928, 1404, 1115

15 NMR(DMSO-d₆) δ 値: 2.55(3H, s), 2.6-3.4(6H, m), 2.70(3H, s), 3.4-3.9(6H, m), 6.0(2H, brs), 7.06(1H, s), 7.17(1H, d, J=8Hz), 7.57(1H, s), 7.75(1H, d, J=8Hz)

No. 117: 2-[{2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル}(エチル)アミノ]-1-エタノール・シュウ酸塩

融点: 53-56°C

20 IR(KBr) cm⁻¹: 3365, 1636, 1120, 720

NMR(CDCl₃) δ 値: 1.13(3H, t, J=7Hz), 2.9-3.4(8H, m), 3.70(6H, t, J=7Hz), 7.16(1H, d, J=8Hz), 7.25(1H, d, J=5Hz), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.62(1H, s), 7.78(1H, d, J=8Hz), 8.1(2H, brs)

No. 118: 2-[{2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル}(ベンジル)アミ

25 ノ]-1-エタノール・シュウ酸塩

融点: 104-105.5°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3365, 1119, 720, 700

NMR(CDCl₃) δ 値: 3.00(4H, t, J=6Hz), 3.3-3.4(2H, m), 3.78(6H, t, J=6Hz), 4.21(2H, s), 7.1-7.3(7H, m), 7.41(1H, d, J=5Hz), 7.65(1H, s), 7.77(1H, d, J=8Hz), 8.6(2H, brs)

No. 119: 2-[[2-(3-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルプロピル)エチル](メチル)アミノ]-1-エタノール・シュウ酸塩

融点: 67-69°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3382, 2945, 2867, 1112

5 NMR(DMSO-d₆) δ 値: 1.8-1.9(2H, m), 2.7-2.8(2H, m), 2.79(3H, s), 3.15(2H, t, J=5Hz), 3.23(2H, t, J=5Hz), 3.45(2H, t, J=6Hz), 3.7-3.8(4H, m), 7.22(1H, d, J=8Hz), 7.39(1H, d, J=5Hz), 7.69(1H, s), 7.72(1H, d, J=5Hz), 7.90(1H, d, J=8Hz)

実施例 120

(1) 2-ベンゾ[b]チオフェン-6-イル-1-エタノール0.76gをN,N-ジメチルホルムアミド8mLに溶解させ、この溶液に、冰冷下、tert-ブトキシカリウム1.25gおよびN¹-メチル-N¹-[2-(トリチルオキシ)エチル]-2-クロロアセトアミド2.67gを加え、同温度で30分間、室温で2時間攪拌する。この反応混合物に、酢酸エチルおよび水を加え、有機層を分取する。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー（溶離液;n-ヘキサン:酢酸エチル=5:1～3:1）で精製すれば、油状のN¹-メチル-N¹-[2-(トリチルオキシ)エチル]-2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-6-イルエトキシ)アセトアミド2.07gを得る。

IR(neat) cm⁻¹: 2935, 1659, 759, 707

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.80(3/2H, s), 2.98(3/2H, s), 2.9-3.1(2H, m), 3.2-3.4(2H, m), 3.4-3.6(2H, m), 3.76(2H, t, J=7Hz), 4.1-4.3(2H, m), 7.1-7.5(18H, m), 7.6-7.8(2H, m)

同様にして以下の化合物を得る。

- N¹-メチル-N¹-[2-(トリチルオキシ)エチル]-2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-4-イルエトキシ)アセトアミド

IR(neat) cm⁻¹: 3006, 1654, 758, 707

25 NMR(CDCl₃) δ 値: 2.80(3/2H, s), 2.94(3/2H, s), 3.2-3.3(4H, m), 3.4-3.6(2H, m), 3.7-3.8(2H, m), 4.1-4.3(2H, m), 7.1-7.4(21H, m), 7.6-7.8(2H, m)

- N¹-メチル-N¹-[2-(トリチルオキシ)エチル]-2-[2-(5-メトキシベンゾ[b]フラン-6-イル)エトキシ]アセトアミド

IR(neat) cm⁻¹: 2933, 1650, 1464, 1109

30 NMR(CDCl₃) δ 値: 2.8-3.9(8H, m), 3.04(3/2H, s), 3.82(3H, s), 3.84(3/2H, s), 4.1-

4.4(2H, m), 6.6-6.8(1H, m), 6.98(1H, s), 7.1-7.7(17H, m)

(2) N¹-メチル-N¹-[2-(トリチルオキシ)エチル]-2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-6-イルエトキシ)アセトアミド2.07gをテトラヒドロフラン20mLに溶解させ、この溶液を5°Cに冷却し、ボラン-テトラヒドロフラン錯体の1mol/Lテトラヒドロフラン溶液7.5mLを滴下する。次いで、室温で一夜攪拌した後、6mol/L塩酸1.9mLを滴下し、1時間還流する。冷却後、反応混合物に水および酢酸エチルを加え、5mol/L水酸化ナトリウム水溶液でpH10に調整した後、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液;クロロホルム:メタノール=30:1~20:1)で精製すれば、油状の2-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-6-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ]-1-エタノール0.54gを得る。

IR(neat) cm⁻¹: 3408, 2864, 1113, 1041

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.31(3H, s), 2.56(2H, t, J=5Hz), 2.64(2H, t, J=6Hz), 3.01(2H, t, J=7Hz), 3.55(4H, t, J=6Hz), 3.70(2H, t, J=7Hz), 7.2-7.4(3H, m), 7.7-7.8(2H, m)

15 実施例 1 2 1 ~ 1 2 2

実施例 1 2 0 (2) と同様にして以下の化合物を得る。

No. 121: 2-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-4-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ]-1-エタノール

IR(neat) cm⁻¹: 3408, 2868, 1113, 760

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.30(3H, s), 2.56(2H, t, J=6Hz), 2.63(2H, t, J=6Hz), 3.24(2H, t, J=7Hz), 3.54(2H, t, J=6Hz), 3.56(2H, t, J=6Hz), 3.75(2H, t, J=7Hz), 7.25(2H, dd, J=2, 5Hz), 7.46(2H, s), 7.76(1H, dd, J=2, 7Hz)

No. 122: 2-[{2-[2-(5-メトキシベンゾ[b]フラン-6-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール

IR(neat) cm⁻¹: 2943, 2864, 1464, 1111

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.31(3H, s), 2.58(2H, t, J=6Hz), 2.65(2H, t, J=5Hz), 2.99(2H, t, J=7Hz), 3.4-3.8(6H, m), 3.85(3H, s), 6.6-6.8(1H, m), 6.98(1H, d, J=2Hz), 7.2-7.4(1H, m), 7.59(1H, dd, J=2, 8Hz)

実施例 1 2 3

30 2-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-4-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ} -1-

エタノール0.85gを酢酸エチル4.25mLに溶解させ、この溶液に3.6mol/L乾燥塩化水素-酢酸エチル溶液1.1mLを加え、室温で1時間、さらに5°Cで1時間攪拌する。反応混合物に、ジイソプロピルエーテル10mLを加え希釈する。析出晶を濾取しジイソプロピルエーテルで洗浄した後、乾燥すれば、2-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-4-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ]-1-エタノール・塩酸塩0.81gを得る。

融点:84-87°C

IR(KBr)cm⁻¹:3232, 1116, 760

NMR(CDCl₃) δ 値:2.64(3/2H, s), 2.69(3/2H, s), 2.8-3.0(2H, m), 3.22(4H, t, J=6Hz), 3.7-3.9(6H, m), 7.24(1H, dd, J=2, 7Hz), 7.29(1H, t, J=7Hz), 7.45(2H, s), 7.75
10 (1H, dd, J=2, 7Hz), 11.2(1H, brs)

実施例124

2-[{2-[2-(5-メトキシベンゾ[b]フラン-6-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール0.37gを6mol/L塩酸0.21mLおよび水1mLの混合液に溶解させ、次いで、この溶液を凍結し、減圧下に水を留去すれば、油状の2-[{2-[2-(5-メトキシベンゾ[b]フラン-6-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール・塩酸塩0.40gを得る。

IR(neat)cm⁻¹:3358, 1468, 1428, 1130

NMR(CDCl₃) δ 値:2.6-2.9(3H, m), 2.97(2H, t, J=6Hz), 3.0-3.7(6H, m), 3.71(2H, t, J=6Hz), 3.8-4.0(3H, m), 3.86(3H, s), 6.6-6.8(1H, m), 7.00(1H, s), 7.28(1H, s), 7.59(1H, dd, J=2, 8Hz), 11.2(1H, brs)

実施例125

(1) 2-(2-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)-1-エタノール0.60gをtert-ブタノール4.8mLおよびN,N-ジメチルホルムアミド1.2mLの混合液に溶解させ、この溶液に、冰冷下、tert-ブトキシカリウム0.45gおよびN¹-メチル-N¹-[2-(トリチルオキシ)エチル]-2-クロロアセトアミド1.81gを加え、同温度で30分間、室温で2時間攪拌する。この反応混合物に、酢酸エチルおよび水を加え、有機層を分取する。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物にエタノール6mL、水0.6mLおよびp-トルエンスルホン酸・一水和物0.29gを加え、室温で一夜攪拌する。この反応混合物に、酢酸エチルおよび水を加え、有機層を分取する。有機層を水および飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、

得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液; クロロホルム:メタノール = 50:1~30:1)で精製すれば、油状のN¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-[2-(2-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]アセトアミド0.74gを得る。

IR(neat) cm⁻¹: 3405, 2936, 1647, 1106

5 NMR(CDCl₃) δ 値: 2.93(3H, s), 3.00(2H, t, J=7Hz), 3.4~3.6(2H, m), 3.79(4H, t, J=7 Hz), 4.1~4.3(2H, m), 6.65(1H, d, J=3Hz), 7.1~7.3(1H, m), 7.4~7.8(2H, m)

同様にして以下の化合物を得る。

- N¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-イル)エトキシ]アセトアミド

10 IR(neat) cm⁻¹: 3397, 1646, 1470, 1106

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.88(3H, s), 3.24(2H, t, J=7Hz), 3.46(2H, t, J=5Hz), 3.6~3.8(2 H, m), 3.87(2H, t, J=7Hz), 4.1~4.3(2H, m), 7.15(1H, dd, J=9, 19Hz), 7.29(1H, d, J=5 Hz), 7.39(1H, d, J=5Hz), 7.64(1H, dd, J=5, 9Hz)

- N¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-[2-(5,7-ジフルオロベンゾ[b]チオフェン-6-イル)エトキシ]アセトアミド

15 IR(neat) cm⁻¹: 3405, 2937, 2878, 1638, 1107

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.96(3H, s), 3.12(2H, t, J=7Hz), 3.4~3.6(2H, m), 3.78(4H, t, J=7 Hz), 4.1~4.3(2H, m), 7.24(1H, d, J=3Hz), 7.34(1H, d, J=3Hz), 7.49(1H, d, J=5Hz)

- N¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-7-イルエトキシ)アセトアミド

20 IR(neat) cm⁻¹: 3396, 2932, 1654, 1459, 1105, 703

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.86(3H, s), 3.1~4.1(5H, m), 3.22(2H, t, J=7Hz), 3.92(2H, t, J=7Hz), 4.20(2H, d, J=6Hz), 7.1~7.6(4H, m), 7.70(1H, dd, J=2, 7Hz)

- N¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-[2-(1-ナフチル)エトキシ]アセトアミド

25 ド

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.85(3H, s), 3.2~3.6(4H, m), 3.6~4.0(2H, m), 3.87(2H, t, J=7Hz), 4.1~4.4(2H, m), 7.2~7.6(4H, m), 7.6~8.0(2H, m), 8.0~8.2(1H, m)

- N¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-[2-(6-フルオロ-7-ヒドロキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]アセトアミド

30 NMR(CDCl₃) δ 値: 2.8~3.2(2H, m), 2.88(3H, s), 3.2~4.0(6H, m), 4.0~4.6(2H, m), 6.

9-7. 6 (3H, m)

- N¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-[2-[6-フルオロ-7-(メチルチオ)-ベン
- ゾ[b]チオフェン-5-イル]エトキシ]アセトアミド

IR (neat) cm⁻¹: 3405, 2927, 1643, 1427, 1259, 1107

5 NMR (CDCl₃) δ 値: 2.53 (3H, s), 2.94 (3H, s), 3.08 (2H, t, J=7Hz), 3.2-4.0 (4H, m), 3.81 (2H, t, J=7Hz), 4.1-4.3 (2H, m), 7.25 (1H, dd, J=2, 5Hz), 7.41 (1H, d, J=5Hz), 7.65 (1H, d, J=7Hz)

- N¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-[2-(6-フルオロ-7-メトキシベンゾ[b]
- チオフェン-5-イル]エトキシ]アセトアミド

10 IR (neat) cm⁻¹: 3404, 2935, 1654, 1465, 1358, 1108

NMR (CDCl₃) δ 値: 2.95 (3H, s), 3.07 (2H, t, J=7Hz), 3.2-4.1 (4H, m), 3.80 (2H, t, J=7Hz), 4.11 (3H, d, J=2Hz), 4.1-4.4 (2H, m), 7.22 (1H, d, J=5Hz), 7.30 (1H, d, J=5Hz), 7.39 (1H, d, J=6Hz)

- N¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-[2-(6-フルオロ-7-メチルベンゾ[b]チ

15 オフェン-5-イル]エトキシ]アセトアミド

IR (neat) cm⁻¹: 3399, 2934, 1654, 1458, 1107

NMR (CDCl₃) δ 値: 2.16 (3H, s), 2.45 (3H, d, J=2Hz), 2.8-3.2 (4H, m), 3.4-3.6 (2H, m), 3.80 (2H, t, J=7Hz), 4.1-4.3 (2H, m), 7.24 (1H, d, J=5Hz), 7.36 (1H, d, J=5Hz), 7.53 (1H, d, J=6Hz)

20 • N¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-(2-ベンゾ[b]フラン-5-イルエトキシ)アセトアミド

IR (neat) cm⁻¹: 3397, 2935, 1648, 1469, 1108, 1030

NMR (CDCl₃) δ 値: 2.91 (3H, s), 2.6-3.2 (1H, m), 3.02 (2H, t, J=7Hz), 3.2-3.6 (2H, m), 3.70 (2H, t, J=7Hz), 3.78 (2H, t, J=7Hz), 4.1-4.3 (2H, m), 6.71 (1H, d, J=2Hz), 7.

25 13 (1H, dd, 2, 8Hz), 7.32 (1H, d, J=8Hz), 7.45 (1H, d, J=2Hz), 7.59 (1H, d, J=2Hz)

(2) N¹-(2-ヒドロキシエチル)-N¹-メチル-2-[2-(2-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]アセトアミド 0.70gをテトラヒドロフラン7mLに溶解させ、この溶液を5°Cに冷却し、ボラン-テトラヒドロフラン錯体の1mol/Lテトラヒドロフラン溶液6.7mLを滴下する。次いで、室温で一夜攪拌した後、6mol/L塩酸1.5mLを

30 滴下し、1時間還流する。冷却後、反応混合物に水および酢酸エチルを加え、5mo

1/L水酸化ナトリウム水溶液でpH10.5に調整した後、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液；クロロホルム：メタノール=10:1～5:1)で精製すれば、油状の2-[{2-[2-(2-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール0.58gを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 3422, 2864, 1579, 1451, 1113

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.31(3H, s), 2.57(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.64(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.95(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.54(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.68(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 6.65(1H, d, $J=2\text{Hz}$), 7.1-7.4(1H, m), 7.4-7.9(2H, m)

10 実施例 126～134

実施例 125(2)と同様にして以下の化合物を得る。

No. 126: 2-[{2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール

IR(neat) cm^{-1} : 3420, 2868, 1469, 1235

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.27(3H, s), 2.53(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.62(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.19(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.55(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.77(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.10(1H, dd, $J=9, 10\text{Hz}$), 7.29(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.39(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.63(1H, dd, $J=5, 9\text{Hz}$)

No. 127: 2-[{2-[2-(5,7-ジフルオロベンゾ[b]チオフェン-6-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール

IR(neat) cm^{-1} : 3394, 2868, 1114

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.28(3H, s), 2.54(2H, t, $J=5\text{Hz}$), 2.63(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.09(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.54(2H, t, $J=5\text{Hz}$), 3.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.68(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.25(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.34(1H, d, $J=3\text{Hz}$), 7.48(1H, d, $J=5\text{Hz}$)

No. 128: 2-[{2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-7-イルエトキシ)エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール

IR(neat) cm^{-1} : 3413, 2865, 1460, 1116, 796, 702

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.28(3H, s), 2.54(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.63(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.8(1H, br s), 3.18(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.55(4H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.82(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.1-7.5(4H, m), 7.69(1H, dd, $J=2, 7\text{Hz}$)

No. 129: 2-(メチル){2-[2-(1-ナフチル)エトキシ]エチル}アミノ)-1-エタノール

IR(neat) cm^{-1} : 3420, 2868, 1113, 778

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.30(3H, s), 2.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.62(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.4-3.9(8H, m), 7.2-7.9(4H, m), 7.8-8.0(2H, m), 8.0-8.2(1H, m)

No. 130: 6-フルオロ-5-(2-{2-[(2-ヒドロキシエチル)(メチル)アミノ]エトキシ}

5 エチル)-ベンゾ[b]チオフェン-7-オール

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.37(3H, s), 2.5-2.9(4H, m), 2.96(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.4-3.8(6H, m), 7.11(1H, d, $J=6\text{Hz}$), 7.16(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.32(1H, d, $J=5\text{Hz}$)

No. 131: 2-{2-[(2-フルオロ-7-(メチルチオ)-ベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール

10 IR(neat) cm^{-1} : 3422, 2868, 1427, 1114, 1040, 755

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.30(3H, s), 2.54(3H, s), 2.4-2.9(4H, m), 3.04(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.4-3.8(2H, m), 3.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.71(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.29(1H, dd, $J=2, 6\text{Hz}$), 7.41(1H, d, $J=6\text{Hz}$), 7.63(1H, d, $J=6\text{Hz}$)

No. 132: 2-{2-[2-(6-フルオロ-7-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキ

15 シ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール

IR(neat) cm^{-1} : 3408, 2867, 1464, 1114, 1041

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.30(3H, s), 2.4-2.9(4H, m), 3.03(2H, dt, $J=1, 7\text{Hz}$), 3.3-3.8(2H, m), 3.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.71(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 4.11(3H, d, $J=2\text{Hz}$), 7.22(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.35(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.36(1H, d, $J=7\text{Hz}$)

20 No. 133: 2-{2-[2-(6-フルオロ-7-メチルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール

IR(neat) cm^{-1} : 3397, 2868, 1458, 1115, 1044

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.33(3H, s), 2.47(3H, d, $J=2\text{Hz}$), 2.5-2.8(4H, m), 3.01(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.56(2H, t, $J=5\text{Hz}$), 3.67(2H, t, $J=5\text{Hz}$), 3.70(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.25(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.36(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.51(1H, d, $J=7\text{Hz}$)

25 No. 134: 2-{[2-(2-ベンゾ[b]フラン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}-1-エタノール

IR(neat) cm^{-1} : 3422, 2865, 1467, 1110, 1031

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.31(3H, s), 2.4-3.2(1H, m), 2.57(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.64(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.97(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.54(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.68(2H, t, $J=7\text{Hz}$)

30

z), 6.71(1H, d, J=2Hz), 7.13(1H, dd, J=2, 9Hz), 7.31(1H, d, J=9Hz), 7.44(1H, d, J=2Hz), 7.59(1H, d, J=2Hz)

実施例 1 3 5

5 2-[{2-[2-(2-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール0.58gを酢酸エチル1mLに溶解させ、この溶液にシュウ酸0.18gの酢酸エチル1mL溶液を加え、室温で2時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、2-[{2-[2-(2-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール・シュウ酸塩0.61gを得る。

10 融点:77-80°C

IR(KBr)cm⁻¹: 3393, 1579, 1450, 1113

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.79(3H, s), 2.93(2H, t, J=7Hz), 3.11(2H, t, J=5Hz), 3.31(2H, t, J=5Hz), 3.6-3.9(6H, m), 6.66(1H, d, J=2Hz), 6.8(2H, brs), 7.17(1H, d, J=8Hz), 7.43(1H, s), 7.58(1H, d, J=8Hz)

15 実施例 1 3 6

20 2-[{2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール0.48gを酢酸エチル2.9mLに溶解させ、この溶液に3.6mol/L乾燥塩化水素-酢酸エチル溶液0.57mLを加え、室温で1時間攪拌する。反応混合物にジイソプロピルエーテル5mLを加え希釈し、室温で1時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、2-[{2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-イル)エトキシ]エチル}(メチル)アミノ]-1-エタノール・塩酸塩0.45gを得る。

融点:69-72°C

IR(KBr)cm⁻¹: 3253, 1469, 1116, 811

25 NMR(CDCl₃) δ 値: 2.71(3H, s), 3.1-3.2(2H, m), 3.19(2H, t, J=7Hz), 3.26(2H, t, J=6Hz), 3.85(6H, t, J=7Hz), 4.7(1H, brs), 7.10(1H, dd, J=9, 10Hz), 7.30(1H, d, J=5Hz), 7.40(1H, d, J=5Hz), 7.65(1H, dd, J=5, 9Hz)

実施例 1 3 7 ~ 1 3 8

実施例 1 3 6 と同様にして以下の化合物を得る。

30 No. 137: 2-[{2-[2-(5, 7-ジフルオロベンゾ[b]チオフェン-6-イル)エトキシ]エチ

ル} (メチル)アミノ]-1-エタノール・塩酸塩

融点: 95.5-97.5°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3272, 1405, 1129, 1093

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.81(3H, s), 3.0-3.4(6H, m), 3.75(2H, t, J=6Hz), 3.8-4.0(4H,

5 m), 4.6(1H, brs), 7.27(1H, d, J=5Hz), 7.36(1H, d, J=2Hz), 7.51(1H, d, J=5Hz)

No. 138: 2-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-7-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}-1-エタノール・塩酸塩

融点: 74-76°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3383, 1459, 1106, 798, 707

10 NMR(CDCl₃) δ 値: 2.67(3H, s), 2.8-3.5(6H, m), 3.5-4.1(6H, m), 4.8(1H, brs), 7.1-7.6(4H, m), 7.71(1H, d, J=7Hz)

実施例 139

(1) ギ酸ナトリウム0.38gをアセトン2.4mLに懸濁させ、この懸濁液に、ピバロイルクロリド0.37mLを加え、室温で2時間攪拌する。次いで、水冷下、2-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]アミノ}-1-プロパノール0.50gを含むアセトン4mL溶液を加え、室温で2時間攪拌する。反応混合物に水および酢酸エチルを加え、2mol/L水酸化ナトリウム水溶液でpH 8.5に調整し、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた油状物をカラムクロマトグラフィー(溶離液;クロロホルム)で精製すれば、油状のN-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-(2-ヒドロキシ-1-メチルエチル)ホルムアミド0.46gを得る。

IR(neat) cm⁻¹: 3423, 2935, 2870, 1655, 1421, 1110, 703

25 NMR(CDCl₃) δ 値: 1.05(3H, d, J=6Hz), 2.97(2H, t, J=7Hz), 3.1-4.4(10H, m), 7.16(1H, dd, J=2, 8Hz), 7.26(1H, d, J=5Hz), 7.41(1H, d, J=5Hz), 7.62(1H, s), 7.78(1H, d, J=8Hz), 8.11(1H, s)

同様にして以下の化合物を得る。

- N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-(2-ヒドロキシプロピル)ホルムアミド

IR(neat) cm⁻¹: 3405, 2867, 1655, 1115

30 NMR(CDCl₃) δ 値: 1.0-1.2(3H, m), 3.0-3.1(4H, m), 3.3-3.4(1H, m), 3.4-3.6(2H,

m), 3.6-3.8(5H, m), 7.21(1H, d, J=8Hz), 7.28(1H, d, J=5Hz), 7.43(1H, d, J=5Hz), 7.65(1H, s), 7.80(1H, d, J=8Hz), 8.04(1/2H, s), 8.12(1/2H, s)

・N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-(3-ヒドロキシプロピル)ホルムアミド

5 IR(neat) cm⁻¹: 3421, 2938, 2868, 1652, 1436, 1117, 704

NMR(CDCl₃) δ 値: 1.5-1.9(2H, m), 2.97(2H, t, J=7Hz), 3.2-3.9(10H, m), 7.19(1H, d, J=8Hz), 7.29(1H, d, J=5Hz), 7.43(1H, d, J=5Hz), 7.65(1H, s), 7.80(1H, d, J=8Hz), 8.09(1H, s)

・N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-(2-メトキシエチル)ホルムアミド

10 IR(neat) cm⁻¹: 3504, 2931, 2867, 1668, 1436, 1117, 704

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.96(2H, t, J=7Hz), 3.1-3.8(10H, m), 3.47(3H, s), 7.18(1H, d, J=8Hz), 7.26(1H, d, J=5Hz), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.63(1H, s), 7.78(1H, d, J=8Hz), 7.99(1/2H, s), 8.07(1/2H, s)

15 (2) N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-(2-ヒドロキシ-1-メチルエチル)ホルムアミド 0.43g をテトラヒドロフラン 4.3mL に溶解させ、この溶液に、氷冷下、ボラン-テトラヒドロフラン錯体の 1mol/L テトラヒドロフラン溶液 5.60mL を滴下し、室温で 1.5 時間攪拌する。反応混合物に 6mol/L 塩酸 1.9mL を加え、1 時間加熱還流する。室温に冷却した後、水および酢酸エチルを加え、2mol/L 水酸化ナトリウム水溶液で pH 9.5 に調整し、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた油状物をカラムクロマトグラフィー（溶離液：クロロホルム：メタノール = 30:1）で精製すれば、淡黄色油状の 2-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ]-1-プロパノール 0.20g を得る。

20 IR(neat) cm⁻¹: 3422, 2937, 2862, 1113, 703

NMR(CDCl₃) δ 値: 0.83(3H, d, J=7Hz), 2.26(3H, s), 2.3-3.2(5H, m), 3.2-3.8(6H, m), 7.21(1H, d, J=8Hz), 7.27(1H, d, J=5Hz), 7.41(1H, d, J=5Hz), 7.67(1H, s), 7.79(1H, d, J=8Hz)

実施例 140～142

30 実施例 139 (2) と同様にして以下の化合物を得る。

No. 140: 1-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ]-2-プロパノール

IR(neat) cm^{-1} : 3448, 2864, 1114, 1051

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.10(3H, d, $J=6\text{Hz}$), 2.31(3H, s), 2.60(2H, t, $J=5\text{Hz}$), 2.71(2H, d, $J=7\text{Hz}$), 3.00(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.5-3.8(1H, m), 3.53(2H, t, $J=5\text{Hz}$), 3.70(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.21(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.28(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.42(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.67(1H, s), 7.79(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

No. 141: 3-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ]-1-プロパノール

IR(neat) cm^{-1} : 3397, 2922, 1115, 1049, 755

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.62(2H, qn, $J=6\text{Hz}$), 2.25(3H, s), 2.56(4H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.98(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.53(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.67(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.74(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 4.5(1H, br s), 7.20(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.25(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.38(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.65(1H, s), 7.76(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

No. 142: N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-(2-メトキシエチル)-N-メチルアミン

IR(neat) cm^{-1} : 2937, 2868, 1117, 1052, 702

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.31(3H, s), 2.5-2.8(4H, m), 3.00(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.32(3H, s), 3.45(2H, t, $J=5\text{Hz}$), 3.57(2H, t, $J=5\text{Hz}$), 3.69(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.20(1H, dd, $J=2, 8\text{Hz}$), 7.27(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.41(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.66(1H, s), 7.78(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

実施例 1 4 3

2-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ]-1-プロパノール0.18gを酢酸エチル0.9mLに溶解させ、この溶液にシュウ酸0.055gを含む酢酸エチル2mL溶液を加え、次いで、アセトン1mLを加え、室温で3.5時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、2-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ]-1-プロパノール・シュウ酸塩0.23gを得る。

融点: 97-99°C

IR(KBr) cm^{-1} : 3354, 1114, 720

NMR(DMSO-d_6) δ 値: 1.08(3H, d, $J=6\text{Hz}$), 2.64(3H, s), 2.95(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.1-3.9

(9H, m), 7.26 (1H, dd, J=1, 8Hz), 7.39 (1H, d, J=5Hz), 7.72 (1H, d, J=5Hz), 7.76 (1H, s), 7.91 (1H, d, J=8Hz)

実施例 1 4 4 ~ 1 4 5

実施例 1 4 3 と同様にして以下の化合物を得る。

5 No. 144:1-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}-2-プロパノール・シュウ酸塩

融点: 64.5-66°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3396, 1112, 720

10 NMR(DMSO-d₆) δ 値: 1.01 (3H, d, J=6Hz), 2.69 (3H, s), 2.91 (2H, d, J=6Hz), 2.92 (2H, t, J=7Hz), 3.21 (2H, t, J=7Hz), 3.71 (4H, t, J=7Hz), 3.8-4.0 (1H, m), 6.8 (2H, brs), 7.27 (1H, d, J=8Hz), 7.39 (1H, d, J=5Hz), 7.73 (1H, d, J=5Hz), 7.76 (1H, s), 7.91 (1H, d, J=8Hz)

No. 145:3-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}-1-プロパノール・シュウ酸塩

15 融点: 93-95°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3410, 2952, 1112, 720

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 1.5-2.0 (2H, m), 2.67 (3H, s), 2.95 (4H, t, J=7Hz), 3.19 (2H, t, J=5Hz), 3.43 (2H, t, J=6Hz), 3.6-4.0 (4H, m), 7.27 (1H, d, J=8Hz), 7.39 (1H, d, J=5Hz), 7.72 (1H, d, J=5Hz), 7.75 (1H, s), 7.90 (1H, d, J=8Hz)

20 実施例 1 4 6

N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-(2-プロピニル)アミン 0.60g を N,N-ジメチルホルムアミド 3mL に溶解させ、この溶液にベンジルプロミド 0.40g および炭酸カリウム 0.35g を加え、室温で 1 時間攪拌する。反応混合物に水および酢酸エチルを加え、有機層を分取する。有機層を水および飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液: クロロホルム: メタノール = 10: 1 ~ 7:1) で精製すれば、油状の N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-ベンジル-N-(2-プロピニル)アミン 0.67g を得る。

IR(neat) cm⁻¹: 3292, 2863, 1112, 700

30 NMR(CDCl₃) δ 値: 2.22 (1H, t, J=2Hz), 2.77 (2H, t, J=6Hz), 2.99 (2H, t, J=7Hz), 3.36

(2H, d, J=2Hz), 3.59(2H, t, J=6Hz), 3.67(2H, s), 3.67(2H, t, J=7Hz), 7.0-7.6(3H, m), 7.29(5H, s), 7.66(1H, s), 7.77(1H, d, J=8Hz)

実施例 147～153

実施例 146 と同様にして以下の化合物を得る。

5 No. 147:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-(4-メトキシベンジル)-N-メチルアミン

IR(neat) cm^{-1} : 3422, 2938, 2863, 1511, 1246, 1112, 1036, 704

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.23(3H, s), 2.65(2H, t, J=6Hz), 3.00(2H, t, J=7Hz), 3.47(2H, s), 3.58(2H, t, J=6Hz), 3.69(2H, t, J=7Hz), 3.79(3H, s), 6.82(2H, d, J=9Hz), 7.1-7.3(1H, m), 7.20(2H, d, J=9Hz), 7.25(1H, d, J=5Hz), 7.41(1H, d, J=5Hz), 7.65(1H, s), 7.78(1H, d, J=8Hz)

No. 148:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-(4-フルオロベンジル)-N-メチルアミン

IR(neat) cm^{-1} : 3398, 2940, 2864, 1508, 1221, 1113, 703

15 NMR(CDCl_3) δ 値: 2.22(3H, s), 2.59(2H, t, J=6Hz), 3.00(2H, t, J=7Hz), 3.48(2H, s), 3.58(2H, t, J=6Hz), 3.68(2H, t, J=7Hz), 6.8-7.3(5H, m), 7.19(1H, d, J=5Hz), , 7.41(1H, d, J=5Hz), 7.65(1H, s), 7.77(1H, d, J=8Hz)

No. 149:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-メチル-N-(4-ニトロベンジル)アミン

20 IR(neat) cm^{-1} : 3422, 2942, 2864, 1519, 1345, 1111, 703

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.23(3H, s), 2.63(2H, t, J=6Hz), 3.00(2H, t, J=7Hz), 3.5-3.7(2H, m), 3.58(2H, s), 3.70(2H, t, J=7Hz), 7.2-7.3(1H, m), 7.20(1H, d, J=8Hz), 7.40(2H, d, J=9Hz), 7.41(1H, d, J=6Hz), 7.65(1H, s), 7.76(1H, d, J=8Hz), 8.11(2H, d, J=9Hz)

25 No. 150:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-シクロプロピル-N-メチルアミン

IR(neat) cm^{-1} : 2861, 1116, 700

NMR(CDCl_3) δ 値: 0.3-0.6(4H, m), 1.5-1.9(1H, m), 2.36(3H, s), 2.75(2H, t, J=6Hz), 3.00(2H, t, J=7Hz), 3.60(2H, t, J=6Hz), 3.70(2H, t, J=7Hz), 7.21(1H, d, J=8Hz)

30 z), 7.28(1H, d, J=5Hz), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.67(1H, s), 7.79(2H, d, J=8Hz)

100

No. 151:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-エチル-N-(2-プロピニル)アミン

IR(neat) cm^{-1} : 3293, 2862, 1112, 701

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.05(3H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.16(1H, t, $J=2\text{Hz}$), 2.58(2H, q, $J=7\text{Hz}$), 2.71(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.01(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.44(2H, d, $J=2\text{Hz}$), 3.57(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.71(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.21(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.25(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.38(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.67(1H, s), 7.78(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

No. 152:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-シクロプロピル-N-エチルアミン

IR(neat) cm^{-1} : 2861, 1114, 700

NMR(CDCl_3) δ 値: 0.4-0.5(4H, m), 1.05(3H, t, $J=7\text{Hz}$), 1.6-1.9(1H, m), 2.70(3H, q, $J=7\text{Hz}$), 2.81(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.00(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.61(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.70(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.21(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.28(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.42(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.67(1H, s), 7.79(2H, d, $J=8\text{Hz}$)

No. 153:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-ベンジル-N-シクロプロピルアミン

IR(neat) cm^{-1} : 2922, 2861, 1458, 1114, 755, 699

NMR(CDCl_3) δ 値: 0.4-0.5(4H, m), 1.7-1.9(1H, m), 2.75(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.97(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.57(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.65(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.79(2H, s), 7.1-7.3(7H, m), 7.41(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.65(1H, s), 7.77(2H, d, $J=8\text{Hz}$)

実施例 154

N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-ベンジル-N-(2-プロピニル)アミン 0.67g を酢酸エチル 1mL に溶解させ、この溶液に、シュウ酸 0.26g を含む酢酸エチル 2.3mL 溶液を加え、室温で 2 時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-ベンジル-N-(2-プロピニル)アミン・シュウ酸塩 0.63g を得る。

融点: 107-108°C

IR(KBr) cm^{-1} : 3134, 1717, 1645, 700

NMR(DMSO-d_6) δ 値: 2.71(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.91(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.22(1H, s), 3.35(2H, s), 3.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.64(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.67(2H, s), 7.0-7.5(2H, m), 7.29(5H,

s), 7.70(1H, d, J=5Hz), 7.74(1H, s), 7.88(1H, d, J=8Hz), 9.2(2H, brs)

実施例 155～157

実施例 154 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 155:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-(4-メトキシ
5 ベンジル)-N-メチルアミン・シュウ酸塩

融点: 78.5-81°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3424, 2935, 1114, 720

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 2.51(3H, s), 2.8-3.2(4H, m), 3.6-3.9(4H, m), 3.75(3H, s), 4.0
4(2H, s), 6.91(2H, d, J=9Hz), 7.1-7.5(2H, m), 7.30(1H, d, J=8Hz), 7.36(1H, d, J=6H
10 z), 7.71(1H, d, J=6Hz), 7.74(1H, s), 7.88(1H, d, J=8Hz)

No. 156:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-(4-フルオロ
ベンジル)-N-メチルアミン・シュウ酸塩

融点: 149-150.5°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3427, 2939, 1226, 1118, 720

15 NMR(DMSO-d₆) δ 値: 2.49(3H, s), 2.8-3.2(4H, m), 3.6-3.9(4H, m), 4.02(2H, s), 7.1-
7.5(5H, m), 7.31(1H, d, J=6Hz), 7.71(1H, d, J=6Hz), 7.75(1H, s), 7.89(1H, d, J=8Hz)

No. 157:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-メチル-N-(4-
ニトロベンジル)アミン・シュウ酸塩

融点: 112-114°C

20 IR(KBr) cm⁻¹: 3426, 2863, 1522, 1349, 1120, 707

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 2.39(3H, s), 2.9-3.0(4H, m), 3.5-3.8(4H, m), 3.96(2H, s), 7.2
7(1H, d, J=8Hz), 7.35(1H, d, J=6Hz), 7.59(2H, d, J=9Hz), 7.70(1H, d, J=6Hz), 7.74
(1H, s), 7.88(1H, d, J=8Hz), 8.19(2H, d, J=9Hz)

実施例 158

25 N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-シクロプロピル-N-
メチルアミン 0.44g を酢酸エチル 2.2mL に溶解させ、この溶液に 3.5mol/L 乾燥塩化
水素-酢酸エチル溶液 0.60mL を加え、室温で 1 時間攪拌する。反応混合物にジイソ
プロピルエーテル 5mL を加え室温で 1 時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチル
で洗浄した後、乾燥すれば、N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチ
30 ル]-N-シクロプロピル-N-メチルアミン・塩酸塩 0.31g を得る。

融点:67-70°C

IR(KBr)cm⁻¹:3418, 2628, 1111, 706

NMR(CDCl₃) δ 値:0.5-0.9(2H, m), 1.3-1.6(2H, m), 2.0-2.6(1H, m), 2.70(3H, s), 3.00(2H, t, J=7Hz), 3.27(2H, brs), 3.6-4.2(2H, m), 3.78(2H, t, J=7Hz), 7.19(1H, d, J=8Hz), 7.27(1H, d, J=5Hz), 7.44(1H, d, J=5Hz), 7.65(1H, s), 7.80(1H, d, J=8Hz), 12.0(1H, brs)

実施例 159

実施例 158 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 159:N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-エチル-N-(2-
10 プロピニル)アミン・塩酸塩

融点:115-123°C

IR(KBr)cm⁻¹:3174, 2420, 1465, 1118, 709

NMR(CDCl₃) δ 値:1.33(3H, t, J=7Hz), 2.55(1H, t, J=3Hz), 3.01(2H, t, J=7Hz), 2.8-
15 3.4(4H, m), 3.78(2H, t, J=7Hz), 3.7-4.4(4H, m), 7.22(1H, d, J=8Hz), 7.29(1H, d, J=5Hz), 7.43(1H, d, J=5Hz), 7.69(1H, s), 7.80(1H, d, J=8Hz), 12.8(1H, brs)

実施例 160

水素化ナトリウム(60%ミネラルオイル懸濁液)0.44gをトルエン3.0mLに懸濁させ、この懸濁液に、氷冷下、1-(5-{2-[2-(ジメチルアミノ)エトキシ]エチル}-2-ヒドロキシフェニル)-1-エタノン0.93g、トルエン6.0mLおよびギ酸エチル9.0mLの混合物を滴下し、室温で1時間攪拌する。反応混合物に冰水および酢酸エチルを加え、無水炭酸カリウムでpH11に調整した後、有機層を分取する。水層を酢酸エチルで2回、抽出した後、水層を塩析し、さらに酢酸エチルで1回、クロロホルムで4回抽出する。有機層を合わせ、無水硫酸マグネシウムで乾燥させた後、減圧下に溶媒を留去する。得られた残留物を酢酸13mLに溶解させ、この混合物に12mol/L塩酸水溶液6.5mLを加え、60°Cで15分間攪拌する。冷却後、クロロホルムおよび水を加え、無水炭酸カリウムでpH7.0に調整し、有機層を分取する。無水硫酸マグネシウムで乾燥後、減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液;クロロホルム:メタノール=50:1~5:1)で精製すれば、油状の6-{2-[2-(ジメチルアミノ)エトキシ]エチル}-4H-クロメン-4-オンを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 1694, 1619, 1483, 1116

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.24(6H, s), 2.48(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.99(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.54(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.70(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 6.32(1H, d, $J=6\text{Hz}$), 7.37(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.57(1H, dd, $J=2, 8\text{Hz}$), 7.83(1H, d, $J=6\text{Hz}$), 8.03(1H, d, $J=2\text{Hz}$)

5 実施例 1 6 1

実施例 1 6 0 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 161: 6-{2-[2-(ジエチルアミノ)エトキシ]エチル}-4H-クロメン-4-オン

IR(neat) cm^{-1} : 3422, 2972, 1655, 1619

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.08(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.6-3.1(8H, m), 3.5-4.0(4H, m), 6.33(1H, d, $J=6\text{Hz}$), 7.31(1H, d, $J=7\text{Hz}$), 7.58(1H, dd, $J=2, 7\text{Hz}$), 7.84(1H, d, $J=7\text{Hz}$), 8.04(1H, d, $J=2\text{Hz}$)

10 実施例 1 6 2

6-{2-[2-(ジメチルアミノ)エトキシ]エチル}-4H-クロメン-4-オン 0.46g を酢酸エチル 5mL に溶解させ、この溶液に 3.6mol/L 乾燥塩化水素 - 酢酸エチル溶液 0.8mL を加え、室温で 12 時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、6-{2-[2-(ジメチルアミノ)エトキシ]エチル}-4H-クロメン-4-オン・塩酸塩 0.45g を得る。

融点: 154-156°C

IR(KBr) cm^{-1} : 1653, 1619, 1483, 1324

20 NMR(CDCl_3) δ 値: 2.73(3H, s), 2.78(3H, s), 2.99(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.1-3.3(2H, m), 3.75(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.9-4.1(2H, m), 6.33(1H, d, $J=6\text{Hz}$), 7.41(1H, d, $J=9\text{Hz}$), 7.57(1H, dd, $J=2, 9\text{Hz}$), 7.86(1H, d, $J=6\text{Hz}$), 8.03(1H, d, $J=2\text{Hz}$), 12.0(1H, brs)

実施例 1 6 3

実施例 1 6 2 と同様にして以下の化合物を得る。

25 No. 163: 6-{2-[2-(ジエチルアミノ)エトキシ]エチル}-4H-クロメン-4-オン・塩酸塩

融点: 173-176°C

IR(KBr) cm^{-1} : 1660, 1619, 1481, 1113

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.32(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.8-3.4(8H, m), 3.75(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.8-4.1(2H, m), 6.33(1H, d, $J=6\text{Hz}$), 7.42(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.56(1H, dd, $J=2, 8\text{Hz}$), 7.86(1H,

d, J=6Hz), 8.01(1H, d, J=2Hz)

実施例 1 6 4

2-{{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}-1-エタノール1.00gを塩化メチレン10mLに溶解させ、この溶液を5°Cに冷却し、ピリジン0.32mL、無水酢酸0.37mLおよびN,N-ジメチルアミノピリジン0.04gを加え、室温で30分攪拌する。この反応混合物に水を加え、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液でpH7.5に調整した後、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液；クロロホルム：メタノール=100:1～50:1)で精製すれば、油状の2-{{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}エチル アセテート1.14gを得る。

IR(neat) cm⁻¹: 2945, 2858, 1738, 1238, 1115

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.05(3H, s), 2.32(3H, s), 2.65(2H, t, J=6Hz), 2.68(2H, t, J=6Hz), 3.00(2H, t, J=7Hz), 3.56(2H, t, J=6Hz), 3.70(2H, t, J=7Hz), 4.14(2H, t, J=6Hz), 7.20(1H, d, J=8Hz), 7.27(1H, d, J=5Hz), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.66(1H, s), 7.79(1H, d, J=8Hz)

実施例 1 6 5

2-{{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}エチル アセテート1.14gを酢酸エチル2mLに溶解させ、この溶液にシュウ酸0.32gを含む酢酸エチル3mL溶液を加え、室温で2時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、2-{{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}エチル アセテート・シュウ酸塩1.15gを得る。

融点: 98-100.5°C

IR(KBr) cm⁻¹: 3446, 1743, 1229, 1114

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 2.01(3H, s), 2.61(3H, s), 2.95(2H, t, J=7Hz), 3.0-3.2(4H, m), 3.70(4H, t, J=6Hz), 4.20(2H, t, J=5Hz), 6.25(2H, brs), 7.27(1H, d, J=8Hz), 7.40(1H, d, J=5Hz), 7.73(1H, d, J=5Hz), 7.76(1H, s), 7.91(1H, d, J=8Hz)

実施例 1 6 6

2-{{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}-1-エタノール0.50gを塩化メチレン5mLに溶解させ、この溶液を-60°Cに冷却し、トリエチルアミン0.37mLおよびピバロイルクロライド0.31mLを加え、同温で30分、

室温で1時間攪拌する。この反応混合物に水を加え、1 mol/mL水酸化ナトリウム水溶液でpH9.0に調整した後、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液；クロロホルム：メタノール=100:1～50:1)で精製すれば、油状の2-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}エチル ピバレート0.54gを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 2958, 2868, 1726, 1156

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.19(9H, s), 2.33(3H, s), 2.65(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.69(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.00(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.55(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.70(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 4.15(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 7.20(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.27(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.42(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.66(1H, s), 7.79(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

実施例 167～169

実施例166と同様にして以下の化合物を得る。

No. 167: 2-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}エチル エチル カーボネート

IR(neat) cm^{-1} : 2943, 2862, 1744, 1260, 1115, 1015, 702

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.29(3H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.33(3H, s), 2.65(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.71(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.00(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.70(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 4.18(2H, q, $J=7\text{Hz}$), 4.19(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 7.21(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.28(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.42(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.66(1H, s), 7.79(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

No. 168: 2-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}エチル ベンゾエート

IR(neat) cm^{-1} : 1718, 1274, 1114, 711

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.39(3H, s), 2.71(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.84(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.99(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.58(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.70(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 4.41(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 7.19(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.27(1H, d, $J=3\text{Hz}$), 7.39(1H, d, $J=3\text{Hz}$), 7.4-7.6(3H, m), 7.65(1H, s), 7.77(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 8.04(2H, dd, $J=2, 8\text{Hz}$)

実施例 169

2-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}エチル ピバレート0.54gを酢酸エチル3.2mLに溶解させ、この溶液に3.6mol/L乾燥塩化

水素-酢酸エチル溶液0.53mLを加え、室温で1時間攪拌する。反応混合物にジイソ

プロピルエーテル5mLを加え希釈し、室温で1時間攪拌する。析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、2-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}エチル ピバレート・塩酸塩0.46gを得る。

融点:118-119°C

5 IR(KBr) cm⁻¹: 2970, 1722, 1154, 1108

NMR(CDCl₃) δ 値: 1.19(9H, s), 2.67(3/2H, s), 2.73(3/2H, s), 2.99(2H, t, J=7Hz), 3.06(2H, t, J=5Hz), 3.24(2H, t, J=4Hz), 3.77(2H, t, J=7Hz), 3.95(2H, t, J=4Hz), 4.39(2H, t, J=5Hz), 7.18(1H, d, J=8Hz), 7.29(1H, d, J=5Hz), 7.44(1H, d, J=5Hz), 7.65(1H, s), 7.80(1H, d, J=8Hz), 12.9(1H, brs)

10 実施例 170 ~ 171

実施例 169 と同様にして以下の化合物を得る。

No. 170: 2-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}エチル エチル カーボネート・塩酸塩

融点:73.5-76°C

15 IR(KBr) cm⁻¹: 1747, 1253, 1114, 1011, 702

NMR(CDCl₃) δ 値: 1.31(3H, t, J=7Hz), 2.71(3/2H, s), 2.76(3/2H, s), 2.99(2H, t, J=6Hz), 3.2-3.4(4H, m), 3.77(2H, t, J=6Hz), 3.94(2H, t, J=5Hz), 4.22(2H, q, J=7Hz), 4.43(2H, t, J=5Hz), 7.20(1H, d, J=8Hz), 7.30(1H, d, J=5Hz), 7.44(1H, d, J=5Hz), 7.67(1H, s), 7.81(1H, d, J=8Hz), 12.9(1H, brs)

20 No. 171: 2-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}エチル ベンゾエート・塩酸塩

融点:97-98°C

IR(KBr) cm⁻¹: 1719, 1266, 1115, 719

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.75(3H, s), 2.98(2H, t, J=7Hz), 3.2-3.4(4H, m), 3.76(2H, t, J=7Hz), 3.95(2H, t, J=4Hz), 4.63(2H, t, J=5Hz), 7.1-7.6(6H, m), 7.64(1H, s), 7.78(1H, d, J=8Hz), 8.03(2H, d, J=8Hz), 13.0(1H, brs)

実施例 172

(1) 2-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}-1-エタノール4.80gをN,N-ジメチルホルムアミド4.80mLに溶解させ、この溶液に30 イミダゾール1.40gおよびt-ブチルジメチルクロロシラン3.10gを順次加え、室温

で1時間攪拌する。反応混合物に水および酢酸エチルを加え、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液でpH10に調整した後、有機層を分取する。有機層を水、飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液；クロロホルム：メタノール=50:5 1~40:1)で精製すれば、油状のN-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-({[1-(tert-ブチル)-1,1-ジメチルシリル]オキシ}エチル)-N-メチルアミン6.21gを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 2952, 2856, 1112, 835

NMR(CDCl_3) δ 値: 0.05(6H, s), 0.89(9H, s), 2.32(3H, s), 2.58(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.65(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.01(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.56(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.71(4H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.21(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.28(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.42(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.66(1H, s), 7.79(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

(2) N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-({[1-(tert-ブチル)-1,1-ジメチルシリル]オキシ}エチル)-N-メチルアミン2.00gをテトラヒドロフラン20mLに溶解させ、この溶液を-60°Cに冷却し、n-ブチルリチウムの1.6mol/Lヘキサン溶液4.8mLを滴下し、同温下30分攪拌する。次いで、アセトン7.5mLを加えた後室温まで昇温し、1.5時間攪拌する。反応混合物を水および酢酸エチルの混合液中に導入し、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄した後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液；クロロホルム：メタノール=100:1~20:1)で精製すれば、油状の2-[5-(2-{2-[({[1-(1-(tert-ブチル)-1,1-ジメチルシリル]オキシ}エチル)(メチル)アミノ]エトキシ}エチル)ベンゾ[b]チオフェン-2-イル]-2-プロパノール1.38gを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 3397, 2929, 2857, 1109

NMR(CDCl_3) δ 値: 0.05(6H, s), 0.89(9H, s), 1.72(6H, s), 2.32(3H, s), 2.57(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.64(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.97(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.55(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.67(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.71(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 7.10(1H, s), 7.22(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.53(1H, s), 7.70(1H, d, $J=8\text{Hz}$)
(3) 2-[5-(2-{2-[({[1-(1-(tert-ブチル)-1,1-ジメチルシリル]オキシ}エチル)(メチル)アミノ]エトキシ}エチル)ベンゾ[b]チオフェン-2-イル]-2-プロパノール1.38gを90%メタノール14mLに溶解させ、この溶液に、フッ化カリウム0.39gを

加え、3時間還流する。反応混合物に水および酢酸エチルを加え、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー（溶離液；クロロホルム：メタノール=50:1～10:1）で精製すれば、油状の2-[5-(2-{2-[(2-ヒドロキシエチル)(メチル)アミノ]エトキシ}エチル)ベンゾ[b]チオフェン]-2-プロパノール0.65gを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 3386, 2932, 2867, 1112

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.71(6H, s), 2.30(3H, s), 2.55(2H, t, $J=5\text{Hz}$), 2.63(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.97(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.53(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.55(2H, t, $J=5\text{Hz}$), 3.68(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.12(1H, s), 7.23(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.54(1H, s), 7.70(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

実施例 1 7 3

2-[5-(2-{2-[(2-ヒドロキシエチル)(メチル)アミノ]エトキシ}エチル)ベンゾ[b]チオフェン]-2-プロパノール0.50gを酢酸エチル1mLに溶解し、この溶液にシュウ酸0.13gを含む酢酸エチル2mL溶液を加え、室温で2時間攪拌する。さらに、5°Cで1時間攪拌後、析出晶を濾取し、酢酸エチルで洗浄した後、乾燥すれば、2-[5-(2-{2-[(2-ヒドロキシエチル)(メチル)アミノ]エトキシ}エチル)ベンゾ[b]チオフェン]-2-プロパノール・シュウ酸塩0.41gを得る。

融点: 62.5-65.5°C

IR(KBr) cm^{-1} : 3374, 2973, 1111

NMR(DMSO-d_6) δ 値: 1.56(6H, s), 2.70(3H, s), 2.92(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.06(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.22(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.68(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 4.6(2H, brs), 7.14(1H, s), 7.18(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.59(1H, s), 7.78(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

実施例 1 7 4

(1) N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N,N-ジエチルアミン4.75gをテトラヒドロフラン30mLに溶解させ、この溶液を-60°Cに冷却し、n-ブチルリチウムの1.57mol/Lヘキサン溶液16.4mLを滴下する。同温で30分間攪拌した後、ほう酸トリイソプロピル4.3mLを加える。反応混合物に水を加え、酢酸でpH6に調整した後、室温で攪拌する。この混合物にジエチルエーテルおよび1 mol/L水酸化ナトリウム水溶液を加え、水層を分取する。得られた水層を濃塩酸でpH9に調整した後、塩化メチレンで抽出する。この有機層を飽和食塩水で洗浄し、無

水硫酸ナトリウムで乾燥した後、減圧下に溶媒を留去すれば、5-{2-[2-(ジエチルアミノ)エトキシ]エチル}ベンゾ[b]チオフェン-2-ホウ酸2.13gを得る。

- (2) 5-{2-[2-(ジエチルアミノ)エトキシ]エチル}ベンゾ[b]チオフェン-2-ホウ酸1.63gをジメトキシエタン8mLおよび水8mLの混合液に溶解させ、この溶液に炭酸ナトリウム0.81g、ジクロロビス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(II)9mgおよび3-ブロモピリジン0.44mLを加え、窒素雰囲気下、2時間還流する。反応混合物に酢酸エチルおよび水を加え、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去する。得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液; クロロホルム:メタノール=10:1)で精製すれば、N,N-ジエチル-N-(2-{2-[2-(3-ピリジル)ベンゾ[b]チオフェン-5-イル]エトキシ}エチル)アミン0.41gを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 2968, 2868, 1113, 803, 754

- NMR(CDCl_3) δ 値: 1.02(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.57(4H, q, $J=7\text{Hz}$), 2.67(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.01(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.57(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.72(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.22(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.35(1H, dd, $J=5, 8\text{Hz}$), 7.55(1H, s), 7.66(1H, s), 7.76(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.96(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 8.57(1H, dd, $J=2, 5\text{Hz}$), 8.98(1H, d, $J=2\text{Hz}$)

実施例 175

- N,N-ジエチル-N-(2-{2-[2-(3-ピリジル)ベンゾ[b]チオフェン-5-イル]エトキシ}エチル)アミン0.41gを酢酸エチル1mLに溶解させ、この溶液にシュウ酸0.10gを含む酢酸エチル2mL溶液およびエタノールを加え、室温で攪拌する。析出晶を濾取し、エタノールで洗浄後、乾燥すれば、N,N-ジエチル-N-(2-{2-(3-ピリジル)ベンゾ[b]チオフェン-5-イル]エトキシ}エチル)アミン・シュウ酸塩0.32gを得る。

融点: 131-133°C

IR(KBr) cm^{-1} : 2949, 1113, 804, 720, 702

- NMR(DMSO-d_6) δ 値: 1.10(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.8-3.3(8H, m), 3.6-3.9(4H, m), 5.0(2H, brs), 7.31(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.52(1H, dd, $J=5, 8\text{Hz}$), 7.75(1H, s), 7.94(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.95(1H, s), 8.15(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 8.58(1H, dd, $J=1, 5\text{Hz}$), 9.01(1H, d, $J=1\text{Hz}$)

実施例 176

- 2-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}-1-エタノール12.69gをエタノール20mLに溶解させ、この溶液にフマル酸5.01gを加

え、加熱溶解する。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物にアセトン100mLおよびジエチルエーテル100mLを加え、室温で2時間攪拌する。さらに、5°Cで1時間攪拌後、析出晶を濾取し、ジエチルエーテル-アセトン(1:1)の混合液で洗浄した後、乾燥すれば、2-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}-1-エタノール・フマル酸塩15.03gを得る。

融点:86-88°C

IR(KBr)cm⁻¹:3400, 1684, 984, 647

NMR(DMSO-d₆) δ 値:2.42(3H, s), 2.72(2H, t, J=6Hz), 2.85(2H, t, J=6Hz), 2.92(2H, t, J=6Hz), 3.54(2H, t, J=6Hz), 3.60(2H, t, J=6Hz), 3.67(2H, t, J=6Hz), 6.56(2H, s), 7.0(2H, brs), 7.25(1H, d, J=8Hz), 7.39(1H, d, J=5Hz), 7.72(1H, d, J=5Hz), 7.75(1H, s), 7.89(1H, d, J=8Hz)

参考例 1

(1) 2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イル-1-エタノール5.60gをN,N-ジメチルホルムアミド28mLに溶解させ、この溶液に、冰冷下、tert-ブトキシカリウム4.23gおよび1-クロロアセチルピペリジン6.09gを加え、同温度で30分間攪拌し、次いで、室温で2時間攪拌する。この反応混合物を、酢酸エチルおよび水の混合液中に導入し、2mol/L塩酸でpH2.0に調整した後、有機層を分取する。有機層を水および飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー（溶離液;n-ヘキサン:酢酸エチル=5:1~2:1）で精製すれば、油状の2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)-1-ピペリジノ-1-エタノン8.50gを得る。

IR(KBr)cm⁻¹:2935, 1652, 1444, 1255, 1118

NMR(CDCl₃) δ 値:1.2-1.8(6H, m), 3.05(2H, t, J=7Hz), 3.1-3.8(4H, m), 3.81(2H, t, J=7Hz), 4.15(2H, s), 7.1-7.6(3H, m), 7.7-8.0(2H, m)

同様にして以下の化合物を得る。

- 2-[2-(1,3-ベンゾジオキソール-5-イル)エトキシ]-1-ピペリジノ-1-エタノン
- 2-[2-(2-フェニルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]-1-ピペリジノ-1-エタノン
- 2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]-1-ピペリジノ-1-エタノン

30 タノン

- 2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-7-イルエトキシ)-1-ピペリジノ-1-エタノン
(2) 2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)-1-ピペリジノ-1-エタノン6.

40gをエタノール58mLおよび水6mLの混合液に溶解させ、この溶液に水酸化ナトリウム1.27gを加え4時間還流する。冷却後、析出物を濾取する。この析出物を酢酸

- 5 エチルおよび水の混合液中に加え、2mol/L塩酸でpH1.5に調整した後、有機層を分取する。有機層を水および飽和食塩水で順次洗浄した後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去すれば、無色結晶の2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)酢酸3.72gを得る。

IR(KBr) cm^{-1} : 2955, 1763, 1221, 1128

- 10 同様にして以下の化合物を得る。

- 2-[2-(1,3-ベンゾジオキソール-5-イル)エトキシ]酢酸

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.86(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.74(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 4.12(2H, s), 5.92(2H, s), 6.6-6.8(3H, m)

- 2-[2-(2-フェニルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]酢酸

- 15 • 2-[2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]酢酸

NMR(CDCl_3) δ 値: 3.09(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.85(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 4.14(2H, s), 7.1-7.9(4H, m)

- 2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-7-イルエトキシ)酢酸

NMR(CDCl_3) δ 値: 3.24(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.96(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 4.12(2H, s), 6.9-7.9(6H, m)

参考例 2

- 20 (1) 2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)酢酸2.70gをテトラヒドロフラン27mLに溶解させ、この溶液に、氷冷下、水素化ホウ素ナトリウム0.65gを加え、同温度で10分間攪拌する。次いで、氷冷下、反応混合物に三フッ化ホウ素ジエチルエーテル錯体3.24gを20分間で滴下し、同温度で30分間、さらに室温で2時間攪拌する。反応混合物を酢酸エチルおよび水の混合液中に導入し、2mol/L塩酸でpH 1.0に調整した後、有機層を分取する。有機層を水および飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液; n-ヘキサン: 酢酸エチル = 3:1 ~ 2:1)で精製すれば、油状の2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)-1-エタノール2.34gを得る。

- 30 IR(KBr) cm^{-1} : 3422, 2864, 1119, 1051

NMR (CDCl₃) δ 値: 1.8-2.3 (1H, m), 3.02 (2H, t, J=7Hz), 3.4-4.0 (6H, m), 7.1-7.6 (3H, m), 7.6-8.0 (2H, m)

同様にして以下の化合物を得る。

- 2-[2-(1,3-ベンゾジオキソール-5-イル)エトキシ]-1-エタノール

5 NMR (CDCl₃) δ 値: 2.82 (2H, t, J=7Hz), 3.4-4.3 (7H, m), 5.92 (2H, s), 6.7-6.9 (3H, m)

- 2-[2-(2-フェニルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]-1-エタノール

NMR (CDCl₃) δ 値: 1.90 (1H, s), 3.01 (2H, t, J=7Hz), 3.5-4.0 (6H, m), 7.1-7.9 (9H, m)

(2) 2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)-1-エタノール 2.10gを塩化メチレン20mLに溶解させ、この溶液に、氷冷下、メタンスルホニルクロリド1.63g

10 およびピリジン1.47gを加え、同温度で30分間、さらに室温で12時間攪拌する。次いで、反応混合物に塩化メチレンおよび水を加え、2mol/L塩酸でpH2.0に調整した後、有機層を分取する。分取した有機層を水および飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー（溶離液;n-ヘキサン:酢酸エチル=4:1～2:1）で精製すれば、2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル メタンスルホネート 2:

15 50gを得る。

IR (KBr) cm⁻¹: 1347, 1170, 1127

NMR (CDCl₃) δ 値: 2.86 (3H, s), 3.00 (2H, t, J=7Hz), 3.5-4.0 (4H, m), 4.2-4.5 (2H, m), 7.2-7.6 (3H, m), 7.6-8.0 (2H, m)

20 同様にして以下の化合物を得る。

- 2-[2-(1,3-ベンゾジオキソール-5-イル)エトキシ]エチル メタンスルホネート

NMR (CDCl₃) δ 値: 2.7-3.0 (5H, m), 3.6-3.8 (4H, m), 4.3-4.4 (2H, m), 5.92 (2H, s), 6.6-6.8 (3H, m)

- 2-[2-(2-フェニルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]エチル メタンスル

25 ホネート

参考例3 (1)

参考例1 (1)と同様にして以下の化合物を得る。

- 2-[2-(2,3-ジヒドロ-1,4-ベンゾジオキシン-6-イル)エトキシ]-1-ピペラジノ-1-エタノン

30 NMR (CDCl₃) δ 値: 1.2-1.9 (6H, m), 2.81 (2H, t, J=7Hz), 3.1-3.7 (4H, m), 3.68 (2H, t,

$J=7\text{Hz}$), 6.6-7.0(3H, m)

- 2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-6-イルエトキシ)-1-ピペラジノ-1-エタノン
- 2-[2-(2,3-ジヒドロ-1H-5-インデニル)エトキシ]-1-ピペラジノ-1-エタノン
- 2-[2-(6-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]-1-ピペリジノ-1-エ

5 タノン

- 2-[2-(2-メチルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]-1-ピペリジノ-1-エタノン
- 2-(3-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルプロポキシ)-1-ピペリジノ-1-エタノン
- 2-[2-(2-メチル-1,3-ベンゾチアゾール-5-イル)エトキシ]-1-ピペリジノ-1-エ

10 タノン

参考例3 (2)

参考例1 (2) と同様にして以下の化合物を得る。

- 2-(2-(2,3-ジヒドロ-1,4-ベンゾジオキシン-6-イル)エトキシ)酢酸
NMR(CDCl_3) δ 値: 2.83(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.74(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 4.12(2H, s), 4.24(4H, s), 6.6-7.2(3H, m)
- 2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-6-イルエトキシ)酢酸
NMR(CDCl_3) δ 値: 3.05(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.84(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 4.12(2H, s), 7.1-7.5(3H, m), 7.6-7.9(2H, m), 9.23(1H, s)
- 2-[2-(2,3-ジヒドロ-1H-5-インデニル)エトキシ]酢酸
NMR(CDCl_3) δ 値: 1.8-2.3(2H, m), 2.7-3.1(6H, m), 3.78(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 4.12(2H, s), 6.8-7.8(4H, m)
- 2-[2-(6-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]酢酸
IR(KBr) cm^{-1} : 1732, 1250, 1130, 1042, 752
NMR(CDCl_3) δ 値: 3.06(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.83(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.89(3H, s), 4.11(2H, s), 7.19(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.26(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.32(1H, s), 7.59(1H, s)
- 2-[2-(2-メチルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)エトキシ]酢酸
NMR(CDCl_3) δ 値: 1.8-2.3(2H, m), 2.85(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.59(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 4.12(2H, s), 7.17(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.27(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.42(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.63(1H, s), 7.79(1H, d, $J=8\text{Hz}$)
- 2-(3-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルプロポキシ)酢酸

• 2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-4-イルエトキシ)酢酸

NMR(CDCl₃) δ 値: 3.30(2H, t, J=7Hz), 3.87(2H, t, J=7Hz), 4.12(2H, s), 7.1-8.0(5H,

m)

• 2-[2-(2-メチル-1,3-ベンゾチアゾール-5-イル)エトキシ]酢酸

5 IR(KBr) cm⁻¹: 2916, 2867, 1716, 1428, 1220, 1136, 928

NMR(DMSO-d₆) δ 値: 2.78(3H, s), 2.97(2H, t, J=7Hz), 3.74(2H, t, J=7Hz), 4.02(2H, s), 7.29(1H, dd, J=2, 8Hz), 7.80(1H, d, J=2Hz), 7.91(1H, d, J=8Hz), 12.5(1H, brs)

参考例 4

2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イル-1-エタノール2.0gをトルエン4mLと50%(W/V)水酸化ナトリウム水溶液8mLの混合液に懸濁させ、この懸濁液に1-ブロモ-3-クロロプロパン4.4mLおよび硫酸水素テトラn-ブチルアンモニウム0.11gを加え、2時間加熱還流する。反応混合物を水およびトルエンの混合液中に導入し、有機層を分取する。分取した有機層を水で洗浄した後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液:n-ヘキサン:酢酸エチル=10:1~5:1)で精製すれば、油状の5-[2-(3-クロロプロピルオキシ)エチル]ベンゾ[b]チオフェン1.85gを得る。

同様にして以下の化合物を得る。

• 5-{2-[(5-クロロペンチル)オキシ]エチル}ベンゾ[b]チオフェン

NMR(CDCl₃) δ 値: 1.2-2.1(6H, m), 2.99(2H, t, J=7Hz), 3.1-3.8(4H, m), 3.68(2H, t, J=7Hz), 7.20(1H, d, J=8Hz), 7.28(1H, d, J=5Hz), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.67(1H, s), 7.79(1H, d, J=8Hz)

参考例 5

(1) 2-[(3,4-ジアミノフェネチル)オキシ]-1-エタノール・二塩酸塩1.50gを水20mLに溶解させ、この溶液に炭酸水素ナトリウムを加えてpH6.5に調整した後、60°Cでグリオキサール重亜硫酸ナトリウム2.22gを加え、同温度で30分間攪拌する。次いで、この反応混合物に酢酸エチルを加え、2mol/L水酸化ナトリウム水溶液でpH10に調整した後、有機層を分取する。分取した有機層を飽和食塩水で洗浄した後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去すれば、油状の2-[2-(6-キノキサリニル)エトキシ]-1-エタノール0.73gを得る。

30 IR(neat) cm⁻¹: 3384, 2868, 1119, 1052

NMR (CDCl₃) δ 値: 2.18 (1H, brs), 3.15 (2H, t, J=7Hz), 3.4-4.1 (4H, m), 3.85 (2H, t, J=7Hz), 7.68 (1H, d, J=9Hz), 7.94 (1H, s), 8.05 (1H, d, J=9Hz), 8.80 (2H, s)

(2) 2-[2-(6-キノキサリニル)エトキシ]-1-エタノール0.73gをベンゼン10mLに溶解させ、この溶液に塩化チオニル0.32mLを加え、30分間還流する。溶媒を留去した後、析出晶を濾取すれば、6-[2-(2-クロロエトキシ)エチル]キノキサリン・塩酸塩0.37gを得る。

NMR (CDCl₃) δ 値: 3.25 (2H, t, J=6Hz), 3.61 (2H, t, J=6Hz), 3.74 (2H, t, J=6Hz), 3.90 (2H, t, J=6Hz), 8.05 (1H, dd, J=2, 8Hz), 8.45 (1H, s), 8.47 (1H, d, J=8Hz), 9.15 (2H, d, J=2, 8Hz), 11.2 (1H, br s)

10 参考例 6

(1) 2-[(3,4-ジアミノフェネチル)オキシ]-1-エタノール・二塩酸塩1.2gをエチレングリコールモノメチルエーテル10mLに溶解させ、この溶液に酢酸ホルムアミジン0.93gを加えて30分間加熱還流する。次いで、減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物に水および塩化メチレンを加え、2mol/L水酸化ナトリウム水溶液でpH9に調整する。有機層を分取し、水層を塩析した後、さらに塩化メチレンで抽出する。有機層を合わせて飽和食塩水で洗浄した後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー（溶離液；クロロホルム：メタノール=10:1）で精製すれば、油状の2-[2-(1H-ベンゾ[d]イミダゾール-5-イル)エトキシ]-1-エタノール0.52gを得る。

20 IR(neat) cm⁻¹: 3198, 2866, 1117, 1049

NMR (CDCl₃) δ 値: 3.02 (2H, t, J=7Hz), 3.4-3.9 (6H, m), 7.12 (1H, d, J=9Hz), 7.49 (1H, s), 7.57 (1H, d, J=9Hz), 7.98 (1H, s)

(2) 2-[2-(1H-ベンゾ[d]イミダゾール-5-イル)エトキシ]-1-エタノール0.52gをベンゼン10mLおよびクロロホルム5mLの混合液に溶解させ、この溶液に塩化チオニル0.22mLを加え、2時間還流する。溶媒を留去した後、析出晶を濾取すれば、5-[2-(2-クロロエトキシ)エチル]-1-H-ベンゾ[d]イミダゾール・塩酸塩0.56gを得る。

IR (KBr) cm⁻¹: 3406, 2933, 1448, 1115

NMR (DMSO-d₆) δ 値: 3.03 (2H, t, J=6Hz), 3.5-3.9 (6H, m), 7.48 (1H, d, J=8Hz), 7.74 (1H, s), 7.78 (1H, d, J=8Hz), 9.57 (1H, s)

参考例 7

2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル メタンスルホネート 3.00g を N,N-ジメチルホルムアミド 15mL に溶解させ、この溶液にプロパルギルアミン 1.40mL および炭酸カリウム 2.76g を加え、80°C で 3 時間攪拌する。次いで、反応混合物を水および酢酸エチルの混合液中に導入し、有機層を分取する。有機層を水および飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液:クロロホルム:メタノール = 30:1 ~ 20:1) で精製すれば、油状の N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-(2-プロピニル)アミン 1.63g を得る。

10 IR(neat) cm⁻¹: 3292, 2863, 1112, 756, 703

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.20(1H, t, J=2Hz), 2.85(2H, t, J=5Hz), 3.00(2H, t, J=7Hz), 3.40(2H, d, J=2Hz), 3.59(2H, t, J=5Hz), 3.72(2H, t, J=7Hz), 7.20(1H, d, J=9Hz), 7.29(1H, d, J=5Hz), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.67(1H, s), 7.79(1H, d, J=9Hz)

同様にして以下の化合物を得る。

15 • N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-シクロプロピルアミン

IR(neat) cm⁻¹: 2938, 2861, 1438, 1115, 755, 701

NMR(CDCl₃) δ 値: 0.3-0.4(4H, m), 1.9-2.2(1H, m), 2.83(2H, t, J=5Hz), 3.00(2H, t, J=7Hz), 3.56(2H, t, J=5Hz), 3.71(2H, t, J=7Hz), 7.21(1H, d, J=8Hz), 7.28(1H, d, J=5Hz), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.67(1H, s), 7.79(1H, d, J=8Hz)

20 • 1-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]アミノ}-2-プロパンール

IR(neat) cm⁻¹: 3314, 2864, 1109, 755

NMR(CDCl₃) δ 値: 1.10(3H, d, J=6Hz), 2.28(1H, d, J=3Hz), 2.32(1H, s), 2.43(1H, s), 2.57(1H, d, J=3Hz), 2.74(2H, t, J=5Hz), 3.00(2H, t, J=7Hz), 3.5-3.8(1H, m), 3.55(2H, t, J=5Hz), 3.72(2H, t, J=7Hz), 7.21(1H, d, J=8Hz), 7.28(1H, d, J=5Hz), 7.42(1H, d, J=5Hz), 7.66(1H, s), 7.80(1H, d, J=8Hz)

• 3-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]アミノ}-1-プロパンール

30 IR(neat) cm⁻¹: 3302, 2932, 2861, 1437, 1099, 703

NMR (CDCl₃) δ 値: 1.60 (2H, qn, J=5Hz), 2.74 (2H, t, J=5Hz), 2.80 (2H, t, J=5Hz), 2.99 (2H, t, J=5Hz), 3.55 (2H, t, J=5Hz), 3.71 (2H, t, J=5Hz), 3.77 (2H, t, J=5Hz), 7.21 (1H, d, J=8Hz), 7.29 (1H, d, J=5Hz), 7.42 (1H, d, J=5Hz), 7.66 (1H, s), 7.80 (1H, d, J=8Hz)

参考例 8

5 2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)酢酸1.0gを塩化メチレン10mLに溶解させ、この溶液に、氷冷下、オキサリルクロリド0.41mLおよびN,N-ジメチルホルムアミド0.1mLを加え、室温で1.5時間攪拌する。-50°Cに冷却後、DL-アラニノール0.41mLおよびトリエチルアミン1.77mLを滴下し、室温で4時間攪拌する。反応混合物に氷水を加え、6mol/L塩酸でpH1に調整し、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥後、減圧下に溶媒を留去する。

10 得られた残留物をテトラヒドロフラン10mLに溶解し、氷冷化、ボラン-テトラヒドロフラン錯体の1mol/Lテトラヒドロフラン溶液16.9mLを滴下し、室温で13時間攪拌する。反応混合物に6mol/L塩酸5.6mLを加え、1時間加熱還流する。冷却した後、減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物に水および酢酸エチルを加え、水層を分取する。水層に酢酸エチルを加え、50%水酸化ナトリウム水溶液でpH 9.5に調整し、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた油状物をカラムクロマトグラフィー(溶離液; クロロホルム:メタノール=40:1~30:1)で精製すれば、淡黄色油状の2-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]アミノ}-1-プロパノール0.80

15 gを得る。

IR (neat) cm⁻¹: 3301, 2864, 1438, 1113, 702

NMR (CDCl₃) δ 値: 0.98 (3H, d, J=6Hz), 2.2 (2H, brs), 2.5-3.4 (5H, m), 3.50 (2H, t, J=5Hz), 3.59 (2H, d, J=5Hz) 3.71 (2H, t, J=7Hz), 7.20 (1H, d, J=8Hz), 7.27 (1H, d, J=5Hz), 7.42 (1H, d, J=5Hz), 7.66 (1H, s), 7.79 (1H, d, J=8Hz)

25 同様にして以下の化合物を得る。

- N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-メチルアミン

IR (neat) cm⁻¹: 3328, 2864, 1438, 1099, 732

NMR (CDCl₃) δ 値: 2.41 (3H, s), 2.74 (2H, t, J=5Hz), 3.01 (2H, t, J=7Hz), 3.59 (2H, t, J=5Hz) 3.72 (2H, t, J=7Hz), 7.21 (1H, d, J=8Hz), 7.28 (1H, d, J=6Hz), 7.42 (1H, d, J=6

30 Hz), 7.66 (1H, s), 7.79 (1H, d, J=8Hz)

・N-[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル]-N-(2-メトキシエチル)アミン

IR(neat) cm^{-1} : 2924, 2864, 1111, 704

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.9(1H, brs), 2.6-2.9(4H, m), 3.00(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.33(3H, s),
5 3.44(2H, t, $J=5\text{Hz}$), 3.58(2H, t, $J=5\text{Hz}$), 3.70(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.20(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.27(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.41(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.65(1H, s), 7.78(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

参考例 9

(1) 2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)酢酸5.00gを塩化メチレン50mLに溶解させ、この溶液に、氷冷下、オキサリルクロリド2.2mLおよびN,N-ジメチルホルムアミド0.1mLを加え、室温で30分攪拌する。次いで、減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をテトラヒドロフラン5mLに溶解させ、この溶液を、氷冷下、水素化ナトリウム1.01gおよびマロン酸ジ-tert-ブチル5.70mLから調整した、マロン酸ジ-tert-ブチルのナトリウム塩のテトラヒドロフラン溶液に滴下し、同温で30分攪拌する。反応混合物を冰水および酢酸エチルの混合液中に導入し、2mol/L塩酸でpH 1.0に調整後、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物に塩化メチレン20mLおよびトリフルオロ酢酸10mLを加え1時間還流する。減圧下に溶媒を留去し、残留物を加熱して脱炭酸する。この反応混合物に水および酢酸エチルを加え、有機層を分取する。有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去して得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液; n-ヘキサン:酢酸エチル=7:1~5:1)で精製すれば、1-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)アセトン3.67gを得る。

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.11(3H, s), 3.06(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.76(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 4.03(2H, s), 7.22(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.28(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.43(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.68(1H, s), 7.80(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

(2) 1-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)アセトン2.60gをエタノール13mLに溶解させ、この溶液に、氷冷下、水素化ホウ素ナトリウム0.13gを加え、室温で1時間攪拌する。次いで、氷冷下2mol/L塩酸1.7mLを加え、室温で20分攪拌した後、反応混合物に水および酢酸エチルを加え、有機層を分取する。有機層を飽

和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物を塩化メチレン26mLに溶解させ、氷冷下、メタンスルホニルクロリド1.0mLおよびトリエチルアミン1.8mLを加え、室温で30分間攪拌する。反応混合物中に水を加え、有機層を分取する。有機層を水、飽和食塩水で順次洗浄後、
5 無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去して得られた残留物をカラムクロマトグラフィー（溶離液；n-ヘキサン：酢酸エチル=10:1～3:1）で精製すれば、2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)-1-メチルエチル メタンスルフォネート2.75gを得る。

IR(KBr) cm^{-1} : 1332, 1175, 923, 904

10 NMR(CDCl_3) δ 値: 1.36(3H, d, $J=7\text{Hz}$), 2.80(3H, s), 3.00(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.56(2H, d, $J=2\text{Hz}$), 3.76(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 4.83(1H, dq, $J=2, 7\text{Hz}$), 7.20(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.28(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.43(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.65(1H, s), 7.79(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

参考例 10

(1) 2-(4-メトキシフェニル)エチル アセテート5.9gを塩化メチレン30mLに溶解させ、この溶液に、氷冷下、塩化アセチル3.8mLおよび塩化アルミニウム7.2gを加え、同温で3時間攪拌する。反応混合物を冰水中に導入し、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去すれば、油状の2-(3-アセチル-4-メトキシフェニル)エチルアセテートの粗生成物7.1gを得る。

20 NMR(CDCl_3) δ 値: 2.03(3H, s), 2.61(3H, s), 2.89(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.90(3H, s), 4.25(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 6.91(1H, d, $J=9\text{Hz}$), 7.33(1H, dd, $J=2, 9\text{Hz}$), 7.60(1H, d, $J=2\text{Hz}$)

(2) 2-(3-アセチル-4-メトキシフェニル)エチル アセテート1.00gをエタノール2.0mLに溶解させ、この溶液に、水1.0mL、5.0mol/L水酸化ナトリウム水溶液1.7mLを順次加え、室温で30分間攪拌する。反応混合物に、水および酢酸エチルを加え、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去すれば、油状の2-(3-アセチル-4-メトキシフェニル)エタノール0.80gを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 1668, 1496, 1253, 1024

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.5(1H, brs), 2.61(3H, s), 2.83(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.79(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.90(3H, s), 6.92(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.35(1H, dd, $J=2, 8\text{Hz}$), 7.59(1H, d, $J=2\text{Hz}$)

(3) 2-(3-アセチル-4-メトキシフェニル)エタノール0.80gをトルエン1.0mLおよび50% (W/V) 水酸化ナトリウム水溶液5.0mLの混合液に溶解させ、この溶液に、硫酸水素テトラn-ブチルアンモニウム0.28gおよび1-(2-クロロエチル)ジエチルアミン・塩酸塩0.90gを順次加え、20分間還流する。反応混合物を水およびトルエンの混合液中に導入し、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄した後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー（溶離液；クロロホルム：エタノール=50:1～10:1）で精製すれば、油状の1-[5-{2-[2-(ジエチルアミノ)エトキシ]エチル}-2-メトキシフェニル]-1-エタノン1.20gを得る。

10 IR(neat) cm^{-1} : 2967, 1676, 1498, 1252, 1114

$\text{NMR}(\text{CDCl}_3)$ δ 値: 1.01(6H, t, $J=7\text{Hz}$), 2.56(4H, q, $J=7\text{Hz}$), 2.60(3H, s), 2.5-2.8(2H, m), 2.84(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.52(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.79(2H, t, $J=8\text{Hz}$), 3.89(3H, s), 6.7-7.0(1H, m), 7.2-7.5(1H, m), 7.57(1H, d, $J=2\text{Hz}$)

(4) 1-(5-{2-[2-(ジエチルアミノ)エトキシ]エチル}-2-メトキシフェニル)-1-エタノン1.20gを酢酸エチル5.0mLに溶解させ、この溶液に3.7mol/L乾燥塩化水素-酢酸エチル溶液1.1mLを加え減圧下に溶媒を留去する。得られた残留物を塩化メチレン6.0mLに溶解させ、氷冷下、塩化アルミニウム1.60gおよびヨウ化ナトリウム0.70gを順次加え、室温で2時間攪拌する。この反応混合物に、氷水およびクロロホルムを加え、1.0mol/L水酸化ナトリウム水溶液でpH8.0に調整した後、有機層を分取する。有機層を無水硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下に溶媒を留去すれば、油状の1-(5-{2-[2-(ジエチルアミノ)エトキシ]エチル}-2-ヒドロキシフェニル)-1-エタノン1.10gを得る。

$\text{NMR}(\text{CDCl}_3)$ δ 値: 1.06(3H, t, $J=7\text{Hz}$), 1.09(3H, t, $J=8\text{Hz}$), 2.4-3.0(8H, m), 2.63(3H, s), 3.5-3.9(4H, m), 6.7-7.5(2H, m), 7.57(1H, s), 12.15(1H, s)

25 同様にして、以下の化合物を得る。

- 1-(5-{2-[2-(ジメチルアミノ)エトキシ]エチル}-2-ヒドロキシフェニル)-1-エタノン

IR(neat) cm^{-1} : 1642, 1488, 1297, 1116

$\text{NMR}(\text{CDCl}_3)$ δ 値: 2.26(6H, s), 2.50(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 2.62(3H, s), 2.85(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.55(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.63(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 6.90(1H, d, $J=9\text{Hz}$), 7.35(1H, dd, $J=2, 9\text{Hz}$)

Hz), 7.59(1H, d, J=2Hz), 12.11(1H, brs)

参考例 1 1

(1) 2,4-ジフルオロ-3-メトキシ安息香酸メチル11.8gをジメチルスルホキシド59mLに溶解させ、この溶液に、炭酸カリウム23.0gおよび水硫化ナトリウム・n水和物（純度70%）9.33gを加え、60°Cで2時間攪拌する。次いで、同温でブロモアセトアルデヒド ジエチルアセタール25mLを加え、同温で3時間攪拌する。反応混合物に水および酢酸エチルを加え、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー（溶離液；ヘキサン：酢酸エチル=5:1）で精製すれば、油状の4-[(2,2-ジエトキシエチル)スルファニル]-2-フルオロ-3-メトキシ安息香酸メチル19.0gを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 2977, 1729, 1599, 1421, 1303, 1124, 1059, 910

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.21(6H, t, J=7Hz), 3.16(2H, d, J=6Hz), 3.3-4.0(4H, m), 3.92(3H, s), 3.96(3H, d, J=1Hz), 4.71(1H, t, J=6Hz), 7.05(1H, dd, J=1, 9Hz), 7.60(1H, d, J=7, 9Hz)

同様にして以下の化合物を得る。

- 4-[(2,2-ジエトキシエチル)スルファニル]-2-フルオロ-3-(メチルスルファン)ル)安息香酸メチル

IR(neat) cm^{-1} : 2976, 1719, 1590, 1432, 1391, 1290, 1112, 1058, 905, 774

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.23(6H, t, J=7Hz), 2.42(3H, s), 3.18(2H, d, J=5Hz), 3.4-4.0(4H, m), 3.92(3H, s), 4.74(1H, t, J=5Hz), 7.07(1H, d, J=9Hz), 7.82(1H, dd, J=7, 9Hz)

- 4-[(2,2-ジエトキシエチル)スルファニル]-2-フルオロ-3-メチル安息香酸メチル

• 2-クロロ-4-[(2,2-ジメトキシエチル)スルファニル]安息香酸メチル

25 • 4-[(2,2-ジエトキシエチル)スルファニル]-2-フルオロ安息香酸メチル

• 2-[(2,2-ジエトキシエチル)スルファニル]-4-フルオロ安息香酸メチル

• 2-[(2,2-ジエトキシエチル)スルファニル]-6-フルオロ安息香酸メチル

IR(neat) cm^{-1} : 1736, 1278, 1108, 1058

(2) 4-[(2,2-ジエトキシエチル)スルファニル]-2-フルオロ-3-メトキシ安息香酸メチル19.0gをトルエン190mLに溶解させ、この溶液に85%リン酸19mLを加え、3

時間還流し、共沸脱水する。反応混合物に水および酢酸エチルを加え、不溶物を濾去後、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液；ヘキサン：酢酸エチル=5:1)で精製すれば、6-フルオロ-7-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸メチル5.95gを得る。

NMR(CDCl₃) δ 値: 3.97(3H, s), 4.15 (3H, d, J=2Hz), 7.33(1H, d, J=5Hz), 7.45(1H, d, J=5Hz), 8.09(1H, d, J=5Hz)

同様にして以下の化合物を得る。

- 6-フルオロ-7-(メチルチオ)ベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸メチル

NMR(CDCl₃) δ 値: 2.56(3H, s), 3.97(3H, s), 7.38(1H, d, J=5Hz), 7.50(1H, d, J=5Hz), 8.34(1H, d, J=6Hz)

- 6-フルオロ-7-メチルベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸メチル

- 4-クロロベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸メチル

- 6-クロロベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸メチル

15 • 4-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸メチル

IR(KBr)cm⁻¹: 1711, 1290, 1199, 1127, 740

- 6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸メチル

- 4-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-カルボン酸メチル

- 6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-カルボン酸メチル

20 参考例 1 2

6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸メチル7.00gをN,N-ジメチルホルムアミド35mLに溶解させ、この溶液にナトリウムメトキシド(28%メタノール溶液)7.1mLを加え、80°Cで4時間攪拌する。反応混合物に水および酢酸エチルを加え、有機層を分取する。有機層を水および飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液；ヘキサン：酢酸エチル=20:1～3:1)で精製すれば、油状の6-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸メチル6.30gを得る。

参考例 1 3

(1) 6-フルオロ-7-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸メチル5.90gを90%メタノール水溶液30mLに溶解させ、この溶液に水酸化ナトリウム1.18gを加え、

室温で6時間攪拌する。反応混合物を減圧下に濃縮し、得られた残留物に水およびヘキサンを加え、水層を分取する。この水層を6mol/L塩酸でpH1に調整し、析出晶を濾取する。水で洗浄した後、乾燥すれば、淡褐色結晶の6-フルオロ-7-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸5.20gを得る。

5 同様にして以下の化合物を得る。

- 6-フルオロ-7-(メチルチオ)ベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸

- 6-フルオロ-7-メチルベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸

- 4-クロロベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸

- 6-クロロベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸

10 • 4-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸

- 6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸

- 4-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-カルボン酸

- 6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-カルボン酸

- 6-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸

15 (2) 6-フルオロ-7-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-カルボン酸4.00gを塩化メチレン40mLに懸濁させ、この懸濁液に塩化チオニル1.55mLを加え、2時間還流する。

反応混合物を減圧下に濃縮し、得られた残留物を塩化メチレン40mLに溶解させる。

この溶液に氷冷下、ジアゾメタンの0.5mol/Lジエチルエーテル溶液200mLを加え、

室温で1時間攪拌する。反応混合物に酢酸6.1mLを加え、室温で10分攪拌後、水お

20 よび酢酸エチルを加え、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させ、減圧下に溶媒を留去する。得られた残留物をメタノール40mLに懸濁させ、5°Cで安息香酸銀2.03gとトリエチルアミン17.3mLの混合物

を加え、室温で1時間攪拌する。反応混合物に水および酢酸エチルを加え、6mol/L塩酸でpH1に調整後、不溶物を濾去し、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水

25 で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液:ヘキサン:酢酸エチル=5:1)で精製すれば、油状の2-(6-フルオロ-7-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸エチル3.87gを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 2952, 1735, 1466, 1073

30 NMR(CDCl_3) δ 値: 3.73(3H, s), 3.78(2H, d, $J=2\text{Hz}$), 4.13(3H, d, $J=2\text{Hz}$), 7.26(1H,

s), 7.35(1H, s), 7.41(1H, s)

同様にして以下の化合物を得る。

・2-[6-フルオロ-7-(メチルチオ)ベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸メチル

IR(neat) cm^{-1} : 1740, 1435, 1263, 1202, 1173, 1033, 746, 707

5 NMR(CDCl_3) δ 値: 2.54(3H, s), 3.73(3H, s), 3.79(2H, d, $J=2\text{Hz}$), 7.27(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.42(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.63(1H, d, $J=7\text{Hz}$)

・2-(6-フルオロ-7-メチルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸メチル

・2-(4-クロロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸メチル

IR(neat) cm^{-1} : 1737, 1169, 840, 756

10 ・2-(6-クロロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸メチル

・2-(4-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸メチル

・2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸メチル

IR(neat) cm^{-1} : 1740, 1465, 1243, 1166

・2-(4-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-イル)酢酸メチル

15 IR(neat) cm^{-1} : 1737, 1447, 1215, 1163, 913

・2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-イル)酢酸メチル

IR(neat) cm^{-1} : 1744, 1472, 1240, 960, 814

・2-(6-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸メチル

IR(neat) cm^{-1} : 1736, 1436, 1046

20 (3) 2-(6-フルオロ-7-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸メチル3.87g
をメタノール39mLに溶解させ、この溶液に3mol/L水酸化ナトリウム水溶液6.6mL
を加え、室温で4時間攪拌する。反応混合物を減圧下に濃縮し、得られた残留物に
水および酢酸エチルを加え、6mol/L塩酸でpH1に調整する。有機層を分取し、飽和
食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去すれ
ば、褐色結晶の2-(6-フルオロ-7-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸2.8
0gを得る。

NMR(DMSO-d_6) δ 値: 3.75(2H, d, $J=2\text{Hz}$), 4.05(3H, d, $J=2\text{Hz}$), 7.41(1H, d, $J=5\text{Hz}$),
7.54(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.72(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 12.5(1H, brs)

同様にして以下の化合物を得る。

30 ・2-[6-フルオロ-7-(メチルチオ)ベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸

- 2-(6-フルオロ-7-メチルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸
 - 2-(4-クロロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸
 - 2-(6-クロロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸
 - 2-(4-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸
- 5 • 2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸
- 2-(4-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-イル)酢酸
 - 2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-イル)酢酸
 - 2-(6-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸
- 参考例 1 4
- 10 2-(6-フルオロ-7-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸 1.74g を 塩化メチレン 17.4mL に 懸濁させ、この懸濁液に 三臭化ホウ素の 1mol/L 塩化メチレン溶液 13.8mL を 加え、室温で 3 時間攪拌する。反応混合物を 塩化メチレンおよび水の混合液に 注ぎ、有機層を 分取する。有機層を 飽和食塩水で 洗浄し、無水硫酸マグネシウムで 乾燥した後、減圧下に 溶媒を 留去すれば 灰色結晶の 2-(6-フルオロ-7-ヒドロキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸 1.42g を 得る。

NMR (DMSO-d₆) δ 値: 3.71 (2H, d, J=2Hz), 7.28 (1H, d, J=5Hz), 7.34 (1H, d, J=5Hz), 7.65 (1H, d, J=5Hz), 10.5 (1H, brs)

参考例 1 5

- 2-(6-フルオロ-7-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)酢酸 1.42g を テトラヒドロフラン 8.1mL に 溶解させ、この溶液に、氷冷下、ボラン-テトラヒドロフラン錯体の 1mol/L テトラヒドロフラン溶液 4.8mL を 加え、室温で 2 時間攪拌する。反応混合物に 酢酸エチルおよび水を 加え、2mol/L 水酸化ナトリウム水溶液で pH10 に 調整した後、有機層を 分取する。有機層を 飽和食塩水で 洗浄後、無水硫酸マグネシウムで 乾燥させる。減圧下に 溶媒を 留去すれば、油状の 2-(6-フルオロ-7-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)-1-エタノール 0.72g を 得る。

IR (neat) cm⁻¹: 3358, 2938, 1460, 1357, 1076

NMR (CDCl₃) δ 値: 3.01 (2H, dt, J=2, 7Hz), 3.91 (2H, t, J=7Hz), 4.12 (3H, d, J=2Hz), 7.25 (1H, s), 7.33 (1H, s), 7.39 (1H, s)

同様にして以下の化合物を得る。

- 30 • 2-[6-フルオロ-7-(メチルチオ)ベンゾ[b]チオフェン-5-イル]-1-エタノール

126

IR(neat) cm^{-1} : 3363, 2926, 1428, 1257, 1045NMR(CDCl_3) δ 値: 2.54(3H, s), 3.02(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.92(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 7.28(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.42(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.63(1H, d, $J=6\text{Hz}$)

• 2-(6-フルオロ-7-メチルベンゾ[b]チオフェン-5-イル)-1-エタノール

5 • 2-(4-クロロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)-1-エタノール

IR(neat) cm^{-1} : 3322, 1419, 1052, 696NMR(CDCl_3) δ 値: 3.16(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.94(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.26(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.50(2H, s), 7.72(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

• 2-(6-クロロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)-1-エタノール

10 • 2-(4-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)-1-エタノール

IR(neat) cm^{-1} : 3362, 1464, 1245, 1043NMR(CDCl_3) δ 値: 3.09(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.98(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 6.8-7.2(2H, m), 7.40(1H, s), 7.35(1H, s)

• 2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-5-イル)-1-エタノール

15 • 2-(4-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-イル)-1-エタノール

IR(neat) cm^{-1} : 3366, 1444, 1043, 911, 702NMR(CDCl_3) δ 値: 3.02(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.90(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 7.1-7.4(3H, m), 7.63(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

• 2-(6-フルオロベンゾ[b]チオフェン-7-イル)-1-エタノール

20 IR(neat) cm^{-1} : 3348, 1469, 1235, 1043, 810NMR(CDCl_3) δ 値: 3.19(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.98(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 7.12(1H, t, $J=9\text{Hz}$), 7.29(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.39(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.65(1H, dd, $J=5, 9\text{Hz}$)

• 2-(6-メトキシベンゾ[b]チオフェン-5-イル)-1-エタノール

IR(neat) cm^{-1} : 3368, 1468, 1244, 104525 NMR(CDCl_3) δ 値: 3.00(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.87(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.89(3H, s), 7.23(1H, s), 7.32(1H, s), 7.35(1H, s), 7.59(1H, s)

• 6-フルオロ-5-(2-ヒドロキシエチル)ベンゾ[b]チオフェン-7-オール

IR(neat) cm^{-1} : 3463, 1465, 1350, 1213, 1032, 1012, 871, 705NMR(DMSO-d_6) δ 値: 2.84(2H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.5-3.8(2H, m), 4.72(1H, t, $J=5\text{Hz}$), 7.25(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.31(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.62(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 10.31(1H, brs)

参考例 1・6

(1) トルエンチオール25gをエタノール90mLに溶解させ、この溶液に水酸化カリウム12.42gおよびプロモアセトアルデヒドジエチルアセタール33.3mLを加え、2時間30分還流する。反応混合物を氷水およびジエチルエーテルの混合液中に導入し、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物を減圧蒸留(113~125°C/2.5mmHg)すれば、油状の1-[(2,2-ジエトキシエチル)スルファニル]-3-メチルベンゼン41.5gを得る。

(2) 1-[(2,2-ジエトキシエチル)スルファニル]-3-メチルベンゼンを用い、参考例1・1(2)と同様にして、4-メチルベンゾ[b]チオフェンおよび6-メチルベンゾ[b]チオフェンの混合物23.53gを得る。

(3) 4-メチルベンゾ[b]チオフェンおよび6-メチルベンゾ[b]チオフェンの混合物23.53gをベンゼン350mLに溶解させ、この溶液に過酸化ベンゾイル0.77gおよびN-ブロモスクシンイミド39.56gを加え、2時間還流する。50°Cまで冷却した後、酢酸70mL、水70mLおよびヘキサメチレンテトラミン44.51gを加え、2時間還流する。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物に水および酢酸エチルを加え、炭酸カリウムでpH7.5に調整する。有機層を分取し、水および飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液;ヘキサン:酢酸エチル=19:1~15:1)で精製すれば、油状のベンゾ[b]チオフェン-4-カルボアルデヒド5.24g、ベンゾ[b]チオフェン-6-カルボアルデヒド5.09gおよびこれらの混合物6.71gを得る。

参考例 1・7

(1) 窒素雰囲気下、(メトキシメチル)トリフェニルホスホニウムクロリド4.85gをテトラヒドロフラン40mLに懸濁させ、この懸濁液に、ジイソプロピルアミン1.5mLを加え、-60°Cに冷却する。n-ブチルリチウムの1.6mol/Lヘキサン溶液6.6mLを滴下し、氷冷下、30分間攪拌する。次いで、反応混合物を-60°Cに冷却し、次いで、ベンゾ[b]チオフェン-4-カルボアルデヒド1.72gをテトラヒドロフラン15mLに溶解させた溶液を滴下後、室温で一晩放置する。反応混合物を水および酢酸エチルの混合液中に導入し、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物にジ

エチルエーテルを加え、析出した結晶を濾去する。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー（溶離液；n-ヘキサン：酢酸エチル＝100:1～50:1）で精製すれば、油状の2-ベンゾ[b]チオフェン-4-イル-1-エテニルメチルエーテル1.04gを得る。

5 (2) 2-ベンゾ[b]チオフェン-4-イル-1-エテニルメチルエーテル1.57gをジオキサン8mLおよび水2.4mLの混合液に溶解させ、この溶液に濃硫酸0.09mLを加え、1時間30分還流する。反応混合物に水および酢酸エチルを加え、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去すれば、2-ベンゾ[b]チオフェン-4-イルアセトアルデヒドの粗生成物1.10 45gを得る。

15 (3) 水素化ホウ素ナトリウム0.16gを90%メタノール8mLに懸濁させ、この懸濁液に、氷冷下、2-ベンゾ[b]チオフェン-4-イルアセトアルデヒド1.45gをメタノール6mLに溶解させた溶液を滴下し、室温で30分間攪拌する。反応混合物に水および酢酸エチルを加え、6mol/L塩酸でpH2.0に調整した後、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー（溶離液；トルエン：酢酸エチル＝50:1～2:1）で精製すれば、2-ベンゾ[b]チオフェン-4-イル-1-エタノール0.88gを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 3348, 1043, 759

20 NMR(CDCl_3) δ 値: 3.22(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.96(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 7.21(1H, d, $J=7\text{Hz}$), 7.31(1H, t, $J=7\text{Hz}$), 7.46(2H, s), 7.78(1H, d, $J=7\text{Hz}$)

参考例 18

(1) ベンゾ[b]チオフェン-6-カルボアルデヒド1.67gをジメチルスルホキシド8.4mLに溶解させ、この溶液にトリメチルスルホニウムヨージド2.52gおよび水酸化カリウム0.69gを加え、50～55℃で3時間攪拌する。反応混合物を水およびジエチルエーテルの混合液中に導入し、有機層を分取する。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去すれば、2-ベンゾ[b]チオフェン-6-イルオキシランの粗生成物1.80gを得る。

(2) 水素化ホウ素ナトリウム0.16gをテトラヒドロフラン20mLに懸濁させ、三フッ化ホウ素ジエチルエーテル錯体0.85mLを滴下し、室温で10分間攪拌する。氷冷

下、2-ベンゾ[b]チオフェン-6-イルオキシラン1.80gをテトラヒドロフラン10mLに溶解させた溶液を滴下し、室温で2時間攪拌する。反応混合物に、アセトンを加え、30分攪拌後、水および酢酸エチルを加え、有機層を分取する。有機層を水、飽和食塩水で順次洗浄後、有機層を無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液;ヘキサン:酢酸エチル=10:1~5:1)で精製すれば、油状の2-ベンゾ[b]チオフェン-6-イル-1-エタノール0.81gを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 3352, 2938, 1047, 817

NMR(CDCl_3) δ 値: 2.98(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.91(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 7.2~7.4(3H, m), 7.72(1H, s), 7.76(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

同様にして以下の化合物を得る。

- 2-(2-メチル-1,3-ベンゾチアゾール-5-イル)エタノール

参考例 19

(1) 2,3,4,5-テトラフルオロ安息香酸10gをジメチルスルホキシド50mLに溶解させ、この溶液にブロモエタン4.6mLおよび炭酸カリウム8.19gを加え、70°Cで2時間攪拌する。次いで、反応混合物に炭酸カリウム18.52gおよびマロン酸 tert-ブチルエチル15.02gを加え、90°Cで2時間攪拌する。反応混合物に水、トルエンを加え、この混合液を6mol/L塩酸でpH4に調整し、有機層を分取する。有機層を水、飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下に溶媒を留去する。得られた残留物をトルエン50mLに溶解し、p-トルエンスルホン酸一水和物0.2gを加え、3.5時間還流する。反応混合物に水および酢酸エチルを加え、有機層を分取する。有機層を水、飽和重曹水および飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去すれば4-エトキシカルボニル-2,3,6-トリフルオロフェニル酢酸エチル15.2gを得る。

(2) 4-エトキシカルボニル-2,3,6-トリフルオロフェニル酢酸エチル15.2gをジメチルスルホキシド66mLに溶解させ、この溶液に炭酸カリウム7.84gおよび水硫化ナトリウム・n水和物(純度70%)4.54gを加え、40°Cで2時間攪拌する。反応混合物を5°Cまで冷却し、クロロ酢酸 tert-ブチル8.1mLを加え、同温で20分攪拌した後、tert-ブトキシカリウム6.36gを加え、1時間攪拌する。反応混合物に水および酢酸エチルを加え、6mol/L塩酸でpH1に調整し、有機層を分取する。有機層を水、

飽和重曹水および飽和食塩水で順次洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後、減圧下に溶媒を留去すれば6-(2-エトキシ-2-オキソエチル)-5,7-ジフルオロ-3-オキソ-2,3-ジヒドロベンゾ[b]チオフェン-2-カルボン酸tert-ブチル19.2gを得る。

- 5 (3) 6-(2-エトキシ-2-オキソエチル)-5,7-ジフルオロ-3-オキソ-2,3-ジヒドロベンゾ[b]チオフェン-2-カルボン酸tert-ブチル19.2gをトルエン60mLに溶解させ、この溶液に、p-トルエンスルホン酸一水和物0.96gを加え、2.5時間還流する。反応混合物に水を加え、有機層を分取する。有機層を水、飽和重曹水および飽和食塩水で順次洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥させ、減圧下に溶媒を留去する。得られた残留物をメタノール100mLに溶解させ、これに水素化ホウ素ナトリウム0.97gを加え、室温で30分攪拌する。p-トルエンスルホン酸一水和物5.88gを加え、1時間還流する。反応混合物を、減圧下に濃縮し、得られた残留物に水および酢酸エチルを加え、有機層を分取する。有機層を水、飽和重曹水および飽和食塩水で順次洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥させる。減圧下に溶媒を留去し、得られた残留物をカラムクロマトグラフィー(溶離液;ヘキサン:酢酸エチル=50:1~20:1)で精製すれば、油状の2-(5,7-ジフルオロベンゾ[b]チオフェン-6-イル)酢酸エチル1.98gを得る。

IR(neat) cm^{-1} : 1740, 1180, 1049

NMR(CDCl_3) δ 値: 1.26(3H, t, $J=7\text{Hz}$), 3.83(2H, s), 4.20(2H, q, $J=7\text{Hz}$), 7.2~7.4

20 (2H, m), 7.51(1H, d, $J=5\text{Hz}$)

(4) 2-(5,7-ジフルオロベンゾ[b]チオフェン-6-イル)酢酸エチルを用い、参考

例13 (3) および参考例15と同様にして、以下の化合物を得る。

・2-(5,7-ジフルオロベンゾ[b]チオフェン-6-イル)-1-酢酸

IR(neat) cm^{-1} : 1707, 1406, 1047

25 NMR(CDCl_3) δ 値: 3.89(2H, s), 7.2~7.4(2H, m), 7.53(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 8.2(1H, brs)

・2-(5,7-ジフルオロベンゾ[b]チオフェン-6-イル)-1-エタノール

IR(neat) cm^{-1} : 3356, 1404, 1045

NMR(CDCl_3) δ 値: 3.08(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.89(2H, t, $J=6\text{Hz}$), 7.25(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.35

(1H, d, $J=4\text{Hz}$), 7.49(1H, d, $J=5\text{Hz}$)

2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イル酢酸を原料に、参考例9(1)および参考例17(3)と同様の反応を行い以下の化合物を得る。

・1-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルアセトン

IR(KBr) cm^{-1} : 1712, 1311, 1159, 708

5 NMR(CDCl_3) δ 値: 2.17(3H, s), 3.80(2H, s), 7.17(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.29(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.45(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.65(1H, s), 7.84(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

・1-ベンゾ[b]チオフェン-5-イル-2-プロパノール

IR(neat) cm^{-1} : 3386, 2968, 2928, 1051

- NMR(CDCl_3) δ 値: 1.27(3H, d, $J=6\text{Hz}$), 1.56(1H, s), 2.76(1H, dd, $J=7, 13\text{Hz}$), 2.95(1H, dd, $J=5, 13\text{Hz}$), 3.9-4.2(1H, m), 7.19(1H, d, $J=8\text{Hz}$), 7.28(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.44(1H, d, $J=5\text{Hz}$), 7.66(1H, s), 7.82(1H, d, $J=8\text{Hz}$)

製剤例 1

15 2-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}-1-エタノール・シュウ酸塩(実施例68の化合物)11.5g、部分アルファ化デンプン9.7g(スターク1500:日本カラコン)、乳糖188.5g(タブレトーズ:メグレ)および32メッシュの篩にて篩過したステアリン酸マグネシウム3gを高速攪拌型造粒機(VG-01:パウレック)に投入し、ブレード回転数600rpm、チョッパー回転数3200rpmにて10分間混合する。混合粉末を1号カプセルに1カプセルあたり300mgになるように充填し、カプセル剤を得る。

20 製剤例 2

25 2-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}-1-エタノール・シュウ酸塩23gおよび乳糖66g(タブレトーズ:メグレ)を混合し、16メッシュの篩いを装着したパワーミル(PS-04S:ダルトン)で篩過する。この篩過末に乳糖120g、結晶セルロース120g(アビセル:旭化成)およびコーンスターク67gを添加し、5分間混合する。混合末に32メッシュで篩過したステアリン酸マグネシウム4gを添加し、さらに5分間混合し、打錠用粉末を得る。この粉末を直径7.5mmの杵により、ロータリー打錠機(HP-18:畠鉄工)で1錠重量200mgになるよう打錠し錠剤を得る。

30 製剤例 3

2-{[2-(2-ベンゾ[b]チオフェン-5-イルエトキシ)エチル](メチル)アミノ}-1-

132

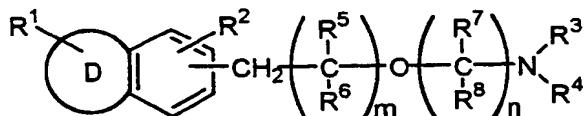
エタノール・シュウ酸塩1.15gを局方生理食塩液10Lに溶解する。この溶液を0.2
2 μ mのメンブランフィルターで濾過し、滅菌したガラス瓶に100mlづつ分注する。
次いで、ゴム栓で閉塞した後、アルミキャップで巻き締めし注射剤を得る。

産業の利用可能性

5 本発明のN-アルコキシアルキル-N,N-ジアルキルアミン誘導体またはその塩は、優れた抗ハイポキシア作用、神経保護作用および神経再生促進作用を發揮することから、アルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、ハンチントン舞蹈病、糖尿病性ニューロパシー、薬剤性ニューロパシー、外傷性神経障害などの神経変性疾患の治療剤として有用である。

請求の範囲

1. 一般式



「式中、R¹およびR²は、同一または異なって、水素原子、ハロゲン原子、置換されていてもよいアルキル、アリール、アルアルキル、アルコキシ、アリールオキシ、アルキルチオ、アリールチオ、アルケニル、アルケニルオキシ、アミノ、アルキルスルホニル、アリールスルホニル、カルバモイルもしくは複素環式基、保護されていてもよいアミノ、ヒドロキシルもしくはカルボキシル基、ニトロ基およびオキソ基から選ばれる一つ以上の基を；R³およびR⁴は、同一または異なって、置換されていてもよいアルキル、シクロアルキルもしくはアルアルキル基を；m個のR⁵およびR⁶、n個のR⁷およびR⁸は、同一または異なって、水素原子もしくはアルキル基を；D環は、5員もしくは6員の複素環または炭化水素環を；mは、1～5の整数を；nは、1～6の整数を、それぞれ示す。」

15 で表されるN-アルコキシアルキル-N,N-ジアルキルアミン誘導体またはその塩。

2. D環が、5員もしくは6員の複素環である請求の範囲1に記載のN-アルコキシアルキル-N,N-ジアルキルアミン誘導体またはその塩。

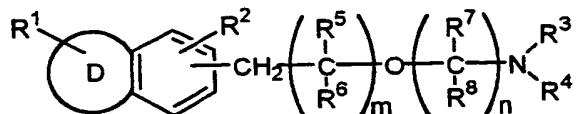
3. R¹およびR²は、同一または異なって、水素原子、ハロゲン原子、置換されていてもよいアルキル、アリール、アルコキシ、アルキルチオ、カルバモイルもしくは複素環式基、保護されていてもよいヒドロキシルもしくはカルボキシル基およびオキソ基から選ばれる一つ以上の基である請求の範囲2に記載のN-アルコキシアルキル-N,N-ジアルキルアミン誘導体またはその塩。

4. D環が、5員もしくは6員の炭化水素環である請求の範囲1に記載のN-アルコキシアルキル-N,N-ジアルキルアミン誘導体またはその塩。

25 5. R¹およびR²は、同一または異なって、水素原子または置換されていても

よいアルコキシ基である請求の範囲4に記載のN-アルコキシアルキル-N, N-ジアルキルアミン誘導体またはその塩。

6. 一般式



5 「式中、R¹およびR²は、同一または異なって、水素原子、ハロゲン原子、置換されていてもよいアルキル、アリール、アルアルキル、アルコキシ、アリールオキシ、アルキルチオ、アリールチオ、アルケニル、アルケニルオキシ、アミノ、アルキルスルホニル、アリールスルホニル、カルバモイルもしくは複素環式基、保護されていてもよいアミノ、ヒドロキシルもしくはカルボキシル基、ニトロ基およびオキソ基から選ばれる一つ以上の基を；R³およびR⁴は、同一または異なって、置換されていてもよいアルキル、シクロアルキルもしくはアルアルキル基を；m個のR⁵およびR⁶、n個のR⁷およびR⁸は、同一または異なって、水素原子もしくはアルキル基を；D環は、5員もしくは6員の複素環または炭化水素環を；mは、1～5の整数を；nは、1～6の整数を、それぞれ示す。」

10 で表されるN-アルコキシアルキル-N, N-ジアルキルアミン誘導体またはその塩を含有する神経変性疾患の治療剤。

15

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP00/03748

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl' C07C217/10, C07C233/69, C07D215/14, C07D307/79, C07D317/54,
C07D319/18, C07D277/64, C07D333/54,

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl' C07C217/10, C07C233/69, C07D215/14, C07D307/79, C07D317/54,
C07D319/18, C07D277/64, C07D333/54,

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)
CAPLUS (STN), REGISTRY (STN)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	US, 5280032, A (Toyama Chemical Co., Ltd.), 18 January, 1994 (18.01.94) & JP, 3-232830, A	1-6
A	JP, 4-95070, A (Toyama Chemical Co., Ltd.), 27 March, 1992 (27.03.92) (Family: none)	1-6
P,A	WO, 99/31056, A1 (Toyama Chemical Co., Ltd.), 24 June, 1999 (24.06.99) & JP, 11-263773, A	1-6

 Further documents are listed in the continuation of Box C. See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	
"A"	document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E"	earlier document but published on or after the international filing date
"L"	document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O"	document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P"	document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T"	later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X"	document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y"	document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&"	document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
18 July, 2000 (18.07.00)Date of mailing of the international search report
01 August, 2000 (01.08.00)Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP00/03748**A Continuation of CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER (IPC)**

C07D333/62, C07D333/70, C07D409/04,
C07D311/04, C07D235/06, C07D241/42,
A61K31/47, A61K31/343, A61K31/36,
A61K31/357, A61K31/428, A61K31/381,
A61K31/4436, A61K31/352, A61K31/4184,
A61K31/498, A61K31/135, A61P25/28,
A61P25/16, A61P25/14, A61P11/16

B Continuation of Minimum documentation searched (IPC)

C07D333/62, C07D333/70, C07D409/04,
C07D311/04, C07D235/06, C07D241/42,
A61K31/47, A61K31/343, A61K31/36,
A61K31/357, A61K31/428, A61K31/381,
A61K31/4436, A61K31/352, A61K31/4184,
A61K31/498, A61K31/135, A61P25/28,
A61P25/16, A61P25/14, A61P11/16

国際調査報告

国際出願番号 PCT/JP00/03748

A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC))

Int. Cl' C07C217/10, C07C233/69, C07D215/14, C07D307/79,
C07D317/54, C07D319/18, C07D277/64, C07D333/54,

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. Cl' C07C217/10, C07C233/69, C07D215/14, C07D307/79,
C07D317/54, C07D319/18, C07D277/64, C07D333/54,

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

国際調査で使用した電子データベース(データベースの名称、調査に使用した用語)

CAPLUS(STN), REGISTRY(STN)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	US, 5280032, A (Toyama Chemical Co., Ltd.) 18.1月.1994 (18.01.94) & JP, 3-232830, A	1-6
A	JP, 4-95070, A (富山化学工業株式会社) 27.3月.1992 (27.03.92) (ファミリーなし)	1-6
P, A	WO, 99/31056, A1 (富山化学工業株式会社) 24.6月.1999 (24.06.99) & JP, 11-263773, A	1-6

 C欄の続きにも文献が列挙されている。 パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献(理由を付す)

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であつて出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であつて、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であつて、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

18.07.00

国際調査報告の発送日

01.08.00

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官(権限のある職員)

伊藤幸司

4H 9450



電話番号 03-3581-1101 内線 3443

A 発明の属する分野の分類（国際特許分類(IPC)）の続き

C 07D 333/62, C 07D 333/70, C 07D 409/04,
C 07D 311/04, C 07D 235/06, C 07D 241/42,
A 61K 31/47, A 61K 31/343, A 61K 31/36,
A 61K 31/357, A 61K 31/428, A 61K 31/381,
A 61K 31/4436, A 61K 31/352, A 61K 31/4184,
A 61K 31/498, A 61K 31/135, A 61P 25/28,
A 61P 25/16, A 61P 25/14, A 61P 11/16

B 調査を行った最小限資料（国際特許分類(IPC)）の続き

C 07D 333/62, C 07D 333/70, C 07D 409/04,
C 07D 311/04, C 07D 235/06, C 07D 241/42,
A 61K 31/47, A 61K 31/343, A 61K 31/36,
A 61K 31/357, A 61K 31/428, A 61K 31/381,
A 61K 31/4436, A 61K 31/352, A 61K 31/4184,
A 61K 31/498, A 61K 31/135, A 61P 25/28,
A 61P 25/16, A 61P 25/14, A 61P 11/16

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.

THIS PAGE BLANK (USPTO)